

第五表

品目	摘要	携持數	駐紮地 給與數	補填數
第二種帽	各兵特務曹長 各兵各部下士兵卒	一箇		一箇
軍衣袴	各兵特務曹長	二組		一組
絨衣袴 共肩章	各兵各部下士兵卒	二組		一組
日履垂布	各兵特務曹長	二箇		二箇
日履垂布	各兵各部下士兵卒	一箇		一箇
夏衣袴	各兵各部下士兵卒	三組		二組
外履	各兵特務曹長	一箇		三分一
雨履	各兵特務曹長	一箇		三分一
下履	各兵各部下士兵卒	三箇		二箇
襪	各兵各部下士兵卒	二箇		二箇
襪袴下	各兵特務曹長 各兵各部下士兵卒	三組		二組
手套	各兵特務曹長 各兵各部下士兵卒	二組		三組
短兵靴	各兵特務曹長 各兵各部下士兵卒 (工兵科)	三組		二組
工兵靴	各兵特務曹長 各兵各部下士兵卒 (工兵科)	三組		二組
半長靴	各兵特務曹長 各兵各部下士兵卒 (騎兵科)	二組		二組

品目	摘要	携持數	駐紮地 給與數	補填數
長靴	各兵特務曹長 各兵各部下士兵卒	二組		二組
絨脚絆	各兵特務曹長	一組		一組
麻脚絆	各兵各部下士兵卒	二組		二組
靴下	各兵特務曹長 各兵各部下士兵卒	十二組		十二組
拍車	各兵特務曹長 各兵各部下士兵卒	一組		四分一
士官背蓋	各兵特務曹長	一箇		四分一
第一種背蓋	各兵各部下士兵卒	一箇		四分一
第二種背蓋	各兵各部下士兵卒	一箇		四分一
第三種背蓋	各兵各部下士兵卒	一箇		四分一
麻雜蓋	各兵各部下士兵卒	一箇		四分一
襪服	各兵各部下士兵卒	一組		四分一
手入	各兵各部下士兵卒	一組		四分一
飯骨柳菜入網	各兵各部下士兵卒	一組		十分一
水筒	各兵各部下士兵卒	一箇		八分一
携行毛布	各兵各部下士兵卒	一箇		一箇
胸當	各兵各部下士兵卒	一箇		一箇
前垂	各兵各部下士兵卒	一箇		一箇
革前垂	各兵各部下士兵卒	一箇		一箇

備	附 備 地 籍														
	蚊 帳	枕	敷 布	瀟 布	包 布	厚 毛 布	綿 帶 天 幕	草 鞋	足 袋	認 股 票	綳 帶 包	背 頁 袋	靴	作 業 衣 袴	作 業 頭 巾
一 携持ノ被服ヲ以テ駐劄中應用セシメ別ニ該地ニ於テ支給セサルモノトス故ニ携持被服ハ總テ保存確實ノモノヲ携持セシムヘシ						各兵各部下士兵卒	各兵各部下士兵卒						騎重兵兵卒	騎重兵兵卒	
二 特務曹長ノ手袋ハ革製ナルヲ要ス															
三 特務曹長ニハ週浴用膠草ヲ備附ケ使用セシム															

第六表

考

四 歩兵科特務曹長下士兵卒ニハ駐劄中一箇年間ニ足袋一足及草鞋四足ヲ加給スルコトヲ得

五 駐劄地備付品ノ保存期限ハ第六表ノ規定ニ同シ但胸當前垂及靴靴ハ實際ノ損破ニ依リ毎年給與シ作業頭巾同衣袴ノ保存期限ハ二箇年間トス

六 襪袴袴下ノ内一組ハ冬季用ヲ混用スヘシ

七 砲兵科下士兵卒ニシテ小銃ヲ携帶セサル者ニハ麻雜履ヲ給セス

品 目	備	出 發 時 限	駐 劄 地 於 ケ ル 給 與 區 別	備											
				第一種 帽	第二種 帽	絨 衣 袴	日 服 垂 布 共	夏 衣 袴	外 套	雨 覆	襪 布	手 套	短 靴	工 兵 靴	
第一種 帽	憲兵下士以下	一 箇	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎年一箇ヲ給ス												
第二種 帽	各兵各部下士	一 箇	携持品ヲ以テ一箇年間應用ノ後一組ヲ給シ爾後一箇年毎ニ一組ヲ給ス												
絨 衣 袴	各兵各部下士	二 箇	携持品ヲ以テ三箇年間應用ノ後換給ス爾後此例ニ依ル												
日 服 垂 布 共	各兵各部下士	二 箇	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎年二組ヲ給ス												
夏 衣 袴	各兵各部下士	三 組	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎年二組ヲ給ス												
外 套	各兵各部下士	一 箇	携持品ヲ以テ三箇年間應用ノ後換給ス爾後此例ニ依ル												
雨 覆	憲兵下士以下	一 箇	携持品ヲ以テ一箇年間應用ノ後一箇ヲ給シ爾後毎年一箇ヲ給ス												
襪 布	各兵各部下士	二 箇	携持品ヲ以テ一箇年間應用ノ後一箇ヲ給シ爾後毎年二組ヲ給ス												
手 套	各兵各部下士	三 組	携持品ヲ以テ一箇年間應用ノ後一組ヲ給シ爾後四箇月毎ニ一組ヲ給ス												
短 靴	徒歩下士(工兵科)	二 組	駐劄地ニ於テ更ニ一組ヲ給シ携持品ト共ニ一箇年間應用セシメ爾後四箇月毎ニ一組ヲ給ス												
工 兵 靴	工兵下士	二 組	駐劄地ニ於テ更ニ一組ヲ給シ携持品ト共ニ一箇年間應用セシメ爾後四箇月毎ニ一組ヲ給ス												

第七表

品目	摘要	出發ノ際 携持定數	駐節地ニ於ケル給與區別
帽	看守看病人守醫小使	一箇	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎年一箇ヲ給ス
冬衣袴	看守	一組	携持品ヲ以テ三箇年間應用ノ後換給ス爾後此例ニ依ル
夏衣袴	看守看病人守醫小使	二組	駐節地ニ於テ更ニ一組ヲ給シ携持品ト共ニ二箇年間應用セシメ爾後毎年二組ヲ給ス
外袴	看守看病人守醫	一箇	携持品ヲ以テ三箇年間應用ノ後換給ス爾後此例ニ依ル
笠	馬丁	一箇	駐節地ニ於テ更ニ一箇ヲ給シ携持品ト共ニ一箇年間應用セシメ爾後六箇月毎ニ一箇ヲ給ス
單法被服引	馬丁	二組	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎年二組ヲ給ス
裕法被服引	馬丁	一組	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎年一組ヲ給ス
膠著	小使馬丁	一箇	携持品ヲ以テ一箇年間應用ノ後一箇ヲ給ス爾後此例ニ依ル
襪袴袴下	看守看病人守醫小使馬丁	二組	駐節地ニ於テ更ニ一組ヲ給シ携持品ト共ニ一箇年間應用セシメ爾後小使馬丁ト共ニ三組ヲ給ス
短靴	看守看病人守醫小使	二組	携持品ヲ以テ一箇年間應用ノ後一組ヲ給シ爾後一箇月毎ニ一組ヲ給ス
麻脚絆	看守看病人守醫小使	一組	携持品ヲ以テ一箇年間應用セシメ爾後毎年一組ヲ給ス
靴下	看守看病人守醫小使	二組	携持品ヲ以テ三箇年間應用ノ後一組ヲ給シ爾後一箇月毎ニ一組ヲ給ス

品目	備考	草鞋	足袋
看病人守醫小使馬丁	一 出發ノ際携持スヘキ定數ハ各自所持品中新品若クハ前途保存確實ナルモノヲ携持セシメ新ニ採用若クハ備役シタル者ニハ其ノ際之ヲ新調携持セシムルモノトス但駐節地ニ於テ新ニ採用シタルモノ亦同シ 二 給料中ニテ被服ヲ自辨セシムルモノニハ本表ノ被服ヲ官給セス 三 衛戍病院及監獄ニハ看守及看病人用トシテ絨衣袴若干組ヲ備附ケ夜間勤務等ノ際應用セシムル其ノ保存期限ハ二箇年間トス	馬丁 二組 携持品ヲ以テ四箇月間應用ノ後一組ヲ給シ爾後二箇月毎ニ一組ヲ給ス	馬丁 二組 携持品ヲ以テ一箇月間應用ノ後一組ヲ給シ爾後毎月一組ヲ給ス
看病人守醫小使馬丁	一 出發ノ際携持スヘキ定數ハ各自所持品中新品若クハ前途保存確實ナルモノヲ携持セシメ新ニ採用若クハ備役シタル者ニハ其ノ際之ヲ新調携持セシムルモノトス但駐節地ニ於テ新ニ採用シタルモノ亦同シ 二 給料中ニテ被服ヲ自辨セシムルモノニハ本表ノ被服ヲ官給セス 三 衛戍病院及監獄ニハ看守及看病人用トシテ絨衣袴若干組ヲ備附ケ夜間勤務等ノ際應用セシムル其ノ保存期限ハ二箇年間トス	一箇ヲ備附ケ一箇年間應用ノ後實際ノ損破三依リ換給ス	一箇ヲ備附ケ一箇年間應用ノ後實際ノ損破三依リ換給ス
看病人守醫小使馬丁	一 出發ノ際携持スヘキ定數ハ各自所持品中新品若クハ前途保存確實ナルモノヲ携持セシメ新ニ採用若クハ備役シタル者ニハ其ノ際之ヲ新調携持セシムルモノトス但駐節地ニ於テ新ニ採用シタルモノ亦同シ 二 給料中ニテ被服ヲ自辨セシムルモノニハ本表ノ被服ヲ官給セス 三 衛戍病院及監獄ニハ看守及看病人用トシテ絨衣袴若干組ヲ備附ケ夜間勤務等ノ際應用セシムル其ノ保存期限ハ二箇年間トス	一組ヲ備附ケ八箇年間應用ノ後實際ノ損破三依リ換給ス	一箇ヲ備附ケ三箇年間應用ノ後實際ノ損破三依リ換給ス
看病人守醫小使馬丁	一 出發ノ際携持スヘキ定數ハ各自所持品中新品若クハ前途保存確實ナルモノヲ携持セシメ新ニ採用若クハ備役シタル者ニハ其ノ際之ヲ新調携持セシムルモノトス但駐節地ニ於テ新ニ採用シタルモノ亦同シ 二 給料中ニテ被服ヲ自辨セシムルモノニハ本表ノ被服ヲ官給セス 三 衛戍病院及監獄ニハ看守及看病人用トシテ絨衣袴若干組ヲ備附ケ夜間勤務等ノ際應用セシムル其ノ保存期限ハ二箇年間トス	一箇ヲ備附ケ五箇年間應用ノ後實際ノ損破三依リ換給ス	一箇ヲ備附ケ五箇年間應用ノ後實際ノ損破三依リ換給ス

第八表

品目	保存期限	備	定
厚毛布(六枚)	八年	臺北衛戍病院 臺中衛戍病院 臺南衛戍病院	九〇〇
包布	四年		六五〇
大蒲團	四年		六五〇
敷布(二枚)	二年		六五〇

考 備	用 護 者					用 者										
	蚊	枕	敷	蒲	包	厚	上	散	狂	帶	襦	綿	裕	單	大	大
一 看護用上靴ハ患者用定數中ニ包含ス	襪	三	二	四	布	一	靴	笠	衣	二	一	六	三	一	五	三
二 本表定數ハ當該各分院ノ分モ包含ス	五	三	二	四	四	八	六	二	三	二	一	六	三	一	五	三
	年	年	年	年	年	年	月	年	年	年	年	年	年	年	年	年
	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇〇	二〇〇	一六	一三〇〇	一三〇〇	九〇〇	一三〇〇	一三〇〇	九〇〇	九〇〇
	六五	六五	六五	六五	六五	六五	六五〇	一四〇	一一	九五〇	九五〇	六五〇	九五〇	九五〇	六五〇	六五〇
	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇〇	一九〇	一六	一三二〇	一三二〇	三五〇	一五八五	一五八五	九〇〇	九〇〇

第九表

名	稱	月	額
下士以下被服補修料	金	貳拾五	錢

第十表

品 目	備 考	要 求		給 與 區 別
		出 發 時 刻	駐 留 地 點	
夏 外 裝	將校同相當官 特務曹長各兵各部下士兵卒 看守看病人守醫	一箇	一箇	二箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス
本小絨襦袢	特務曹長各兵各部下士兵卒 看守看病人守醫	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後毎年一箇ヲ給ス
本小絨腹巻	看守看病人守醫	一箇	一箇	一箇年間應用ノ後毎年一箇ヲ給ス
備 考	一 本表ノ携持數ハ出發ノ際乘船地(宇品等)補給廠支廠若クハ同出發所ニ於テ受領スルモノトス			

○陸達第六十八號

明治二十九年六月陸達第一百十二號自今廢止ス

明治三十二年七月八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

明治二十九年六月十日陸達第一百十二號ハ臺灣威海衛及朝鮮國ニ駐劄スル軍人軍屬其他備役者ニ給與若クハ貸與スヘキ特種被服ノ種類及支給ノ始期終期並運納付與區別ノ件ナリ

○陸達第六十九號

明治三十二年七月ヨリ函館兵器支廠ヲ置ク

明治三十二年七月十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第七十號

陸軍機密圖書取扱規則別冊ノ通定

但明治三十年陸軍第七十八號陸軍機密圖書取扱規則ハ廢止ス

明治三十二年七月十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別冊)

陸軍機密圖書取扱規則

- 第一條 軍事ニ關スル機密圖書ニハ一葉若クハ一冊毎ニ左ノ標記ヲ爲ス
 - 一 軍事機密發行廳名年月日、一連番號(符號)保管者ノ職氏名
- 第二條 軍事機密圖書ヲ發行セントスル廳長ハ豫メ陸軍大臣ノ承認又ハ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 機密圖書ハ發行廳長其取扱及出納ヲ監督ス
- 第四條 機密圖書ノ配布ヲ受ケタル長官ハ自ラ其保管者ト爲リ之ニ關スル業務ヲ執ル高等官ノ外之ヲ閱覽セシムルヲ禁ス但部下將校同相當官ヲ指定シテ之ヲ保管セシムルヲ得
- 第五條 戰時特設部隊ノ爲メニ要スル機密圖書ハ動員擔任官之ヲ保管スヘシ
- 第六條 機密圖書ハ各長官之ニ基キ訓令細則等ヲ作ルトキノ外總テ謄寫復刷若クハ拔萃スルヲ禁ス而シテ此訓令細則等ハ原圖書ト同一ナル標記及取扱ヲ爲スモノトス
- 第七條 教官軍事機密圖書中ノ事項ヲ教授スル場合ニ在テハ其機密ナルコトヲ告知シタル後之ヲ口授シ筆記セシムルヲ許サス

第八條 機密圖書ノ保存貸借授受等ニ關スル方法ハ各長官之ヲ定メ若シ紛失又ハ燒失シタルトキハ直チニ最迅速ノ方法ヲ以テ發行廳長ニ報告シ更ニ其顛末竝ニ處分ヲ詳報スヘシ

第九條 機密圖書ノ配布ヲ受ケタルモノハ直チニ其受領證書ヲ出スヘシ

第十條 機密圖書ニシテ改正又ハ廢止ノ結果若クハ年度ノ變換等ニ因リ不用ニ歸スルトキハ一箇月以內ニ發行廳長ニ返付シ發行廳長ハ之ヲ燒却スルモノトス

第十一條 各長官ハ毎年四月盡日調ヲ以テ保管機密圖書ノ目錄番號符號共ヲ製シ五月二十日迄ニ發行廳長ニ報告スヘシ

第十二條 軍事ニ關スル機密文書ハ本規則ニ准シ取扱フモノトス

第十三條 草案中ニ在ル機密圖書モ亦本規則ニ准シ取扱フモノトス但審議ノ職責アル長官ハ必要ニ應ジ謄寫復刷若クハ拔萃セシムルコトヲ得

第十四條 國防用防禦營造物ニ關スル圖書及要塞近傍一万分一以上ノ梯尺圖ハ軍事機密圖書ニ屬スト雖モ其取扱ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第十五條 陸軍部外ニ於テ發行シタル機密圖書ニシテ陸軍機密圖書ト同一程度ノ秘密ヲ要スルモノハ本規則ニ准シ取扱フモノトス

○陸軍第七十一號

今般陸軍機密圖書取扱規則相定メ候就テハ其規定ニ準シ目下各部各隊ニ保管シアル機密圖書ノ標記ヲ速カニ訂正シ其種類名稱及員數ヲ報告スヘシ

明治三十二年七月十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第七十二號

陸軍士官及准士官下士一等給給與内則第二條第一項中「隊附」ノ二字ヲ削除ス
明治三十二年七月二十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

陸軍第四十八號陸軍士官及准士官下士一等給給與内則(明治三十二年六月七日)抄錄
第二條 左ノ各項ノ一ニ當該スル者ハ第一條各項ノ規定ニ據ラサルコトヲ得
一 特務曹長及隊附各兵科下士ニシテ定員二人ニ限ルモノニ在テハ上一人ニ又同一人ニ限ルモノニ在テハ之ニ一等給ヲ支給スルコトヲ得

○陸軍第七十三號

陸軍服裝規則第十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

明治三十二年七月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

但在臺灣軍人ハ後方ニ白布ヲ垂下スルコトヲ得

〔參照〕

陸軍省令乙第四百四十四號陸軍服裝規則(明治十九年十月二十五日)抄錄
第十三條 日寇ハ炎暑ノ際軍裝略裝ニ在テ第二種帽ニ用ユルモノトス然レトモ第二種帽ノ制ナキ者ハ第一種帽ニ用ユルコトヲ得

○陸軍第七十四號

明治二十七年陸軍第六十六號輜重車、彈藥大隊車並輓具制式別紙ノ通改正ス (別紙略ス)
但既ニ製作シタルモノハ其儘使用シ新製ノ分ヨリ改正ス

明治三十二年七月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍第七十五號

陸軍衛生部士官適任證書付與規則左ノ通改正セラル

明治三十二年七月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍衛生部士官適任證書付與規則

第一條 衛生部士官適任證書ハ衛生部下士ニシテ醫術開業免狀若クハ藥劑師免狀ヲ所持シ豫備役後備役軍醫又ハ豫備役後備役藥劑官ノ任ニ堪ユヘキ學術材幹ヲ有シ且品行方正、勤務勳勵ノ者ニ付與スルモノトス

第二條 第一條ニ該當ノ者アルトキハ現役滿期若クハ召集解除ノ際所管軍醫部長ヨリ本人ノ考科表ニ免狀寫ヲ添ヘ醫務局長ニ具申シ認可ヲ得テ適任證書ヲ付與スヘシ
適任證書ハ各所管ニ於テ雛形ノ如ク調製スヘシ

第三條 適任證書ヲ付與シタルトキハ所管軍醫部長ハ順序ヲ經テ其ノ人名ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第四條 適任證書ヲ所持スル者ニシテ衛生部士官タルヘキ品位ヲ傷フモノト認ムルトキ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ或ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ所管軍醫部長ハ該證書ノ返還ヲ命ジ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第五條 適任證書ヲ所持スル者ニシテ死亡シ又ハ傷痍疾病ニ依リ兵役ヲ免シタルトキハ所管軍醫部長ヨリ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ報告スヘシ

書式第一及第三中(送附)ヲ削除ス
 書式第三中拔擢順序第一砲術ノ欄八〇ヲ一〇〇ニ改メ總計ノ欄ニ九〇、八ヲ加ヘ同拔擢順序第三
 證書證狀及其ノ授與年月日ノ欄砲術教員適任證書ヲ二等掌砲證狀ニ砲術ノ欄七〇ヲ一〇〇ニ改メ
 總計ノ欄ニ七六、七ヲ加フ
 書式第三及第四中「海兵團ヲ管スル」ヲ削除ス
 書式第四中候補順序第一掌機術ノ欄九〇及掌艦術ノ欄八〇ヲ各一〇〇ニ改メ總計ノ欄ニ九五ヲ加
 同候補順序第二證書證狀及其ノ授與年月日ノ欄一等掌機工證狀明治二十八年七月一日ヲ削除シ
 總計ノ欄ニ七七、一ヲ加フ
 參考表中總計ノ欄括弧内ノ海兵團ヲ「鎮守府」ニ改ム

〔參照〕

海軍省達第七十七號海軍准士官下士任用進級取扱規則(明治二十九年九月十四日)抄錄
 第三條 艦隊司令長官ハ參謀長及同港内ニ在ル部下ノ司令官艦隊長及艇隊司令ヲ會同シ鎮守府司令長官ハ參謀長及軍港内
 ニ在ル部下ノ艦團其ノ他各部ノ長ヲ會同シ拔擢名簿ニ就キ其ノ優劣ニ依リ順序ヲ定メ下士任用進級決定候補名簿ヲ調製
 スヘシ(附)
 第五條第一項
 鎮守府司令長官ハ第二條ノ區分ニ從ヒ候補者ノ數ト所屬海兵團在籍下士ヲ以テ充ツヘキ定員並ニ海軍定員令第三條ニ記
 載ノ補缺員中ノ缺員數ヨリ割出セル各上級ノ任用進級セシム可キ數トニ依リ鎮守府及艦隊ニ於ケル各候補者ノ員數ニ應
 ジ艦隊ニ於テ任用進級セシムヘキ各員數ヲ定メ之ヲ艦隊司令長官ニ通知スヘシ
 第六條第一項
 鎮守府及艦隊司令長官ハ前條ニ依リ決定シタル任用進級セシムヘキ員數以內ニ於テ決定候補名簿ノ順序ニ從ヒ現時所屬
 ノ如何ニ拘ハラズ任用進級セシム此場合ニ於テ現時ノ所在不明ナル者ハ其ノ辭令書ヲ在籍ノ海兵團長ニ送り團長之ヲ送
 達スルモノトス
 第七條 拔擢名簿候補名簿ニ登錄シタル者ニシテ四月一日十月一日以後其ノ所屬ニ異動ヲ生シタルトキハ前調製官ヨリ其
 ノ拔擢ノ有無ヲ新調製官ニ通知スヘシ又進達送附後其ノ名簿ヨリ除クヘキ者ヲ生シタルトキハ一等下士ヨリ准士官ニ任

スヘキ者ニ在テハ海軍大臣ニ其ノ他ノ者ニ在テハ司令長官ニ具申若クハ通牒スヘシ但シ其ノ手續ハ現在所屬ノ調製官ニ
 於テ之ヲ行フモノトス
 司令長官前項ノ具申若クハ通牒ヲ受ケ他ノ司令長官ノ決定候補名簿ニ屬スヘキ者ナルトキハ之ヲ其ノ司令長官ニ移スヘ
 シ但現所屬不明ナルトキハ在籍鎮守府司令長官ニ移シ該長官之ヲ所屬長官ニ移スルモノトス
 第十條 停年ヲ算スルハ三月一日ヲ以テ期限トシ四月一日ノ現在所屬ニ就キ拔擢名簿ヲ調製スヘシ拔擢名簿ヲ司令長官ニ
 進達若クハ送附スルハ五月十五日ヲ以テ期限トシ海軍大臣ニ進達スルハ五月三十一日ヲ以テ期限トス
 第十二條 艦團其ノ他各部ノ長ハ海軍准士官下士任用進級條例第十七條及第十八條ニ該當スヘシト認ムル者アルトキハ入
 團ニ際シ意見ヲ附シ之ヲ在籍海兵團長ニ移ス海兵團長ハ該意見ヲ具シ其ノ部下ニ在ル諸員ニ關スルモノハ自己ノ意見ヲ
 附シ鎮守府司令長官ニ上申スルモノトス
 ○海軍省達第三百三十一號
 海軍少尉候補生實務練習規則中左ノ通改正ス

明治三十二年七月七日 海軍大臣山本權兵衛

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ
 但シ海軍少尉候補生病氣其他ノ事故ニ依リ前項ノ順序ニ從ヒ實務ノ練習ヲ行ハシムルコト能ハ
 サルトキハ第二期實務練習ヲ先キニシ第一期實務練習ヲ後ニスルコトヲ得
 第二條中第二運用術ノ項積載及貯藏法ノ上ニ「錨其他重量物出入運搬法」ノ十一字ヲ加ヘ第三水雷
 術ノ項中「外裝水雷及擲爆藥」ノ八字ヲ刪リ第四航海術ノ項中「海上氣象學」トアルヲ「海上氣象學大
 意」ニ改メ第八中外裝水雷並擲爆藥ノ兩項ヲ刪除シ第十七軍政學大意ヲ「軍制學大意」ニ改ム

〔參照〕

海軍省達第三百十八號海軍少尉候補生實務練習規則(明治三十年九月二十九日)抄錄
 第一條 海軍少尉候補生實務練習ハ之ヲ二期ニ分チ其ノ第一期ハ海軍大臣ノ特別指定スル航海練習艦ニ乘組シ凡八箇月
 間ノ教練ヲ以テ其ノ課業ヲ卒ヘシメ其ノ第二期ハ第一期ノ實務練習ヲ卒リタル者ヲシテ在役各艦ニ分乘セシメ更ニ實務
 ニ就テ習熟セシム
 第二條 第一期實務練習ノ教科目ハ左ノ如シ(附)
 ○海軍省達第三百三十二號
 艦團部隊需用品定額表中左ノ通改正ス (改正略ス)
 明治三十二年七月七日 海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第三百三十三號

海軍砲術練習所規則中左ノ通改正ス

明治三十二年七月七日

海軍大臣山本權兵衛

第八條 砲術練習生ニ採用スヘキ人員ハ鎮守府毎ニ區分シテ之ヲ定メ毎年八月之ヲ告達ス

横須賀鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ基キ第十七條ノ人員ヲ超エサル如ク便宜採用人員及採用

期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官及艦隊司令長官ニ通知スヘシ

鎮守府司令長官艦隊司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ應下艦團其ノ他各部ノ長ヲシテ海軍砲術練習

所條例第十七條ニ適合スル者ヲ選抜シ其ノ人員ヲ具申セシム

鎮守府司令長官艦隊司令長官ハ前項ノ具申ニ基キ採用スヘキ人員ヲ定メ採用期日ト共ニ之ヲ艦

團其ノ他各部ノ長ニ達ス艦團其ノ他各部ノ長ハ更ニ選抜ヲ行ヒ採用セラルヘキ者ヲ決定シ所見

表ヲ添ヘ之ヲ所長ニ通知シ期日内ニ入所セシム

砲術練習生入所シタルトキハ其ノ人員ヲ横須賀鎮守府司令長官ニ報告シ司令長官ハ之ヲ海軍大

臣ニ進達スヘシ

第九條 第十條 第十一條ヲ削除シ第十二條ヲ第九條ニ第十三條ヲ第十條ニ第十四條ヲ第十一條ニ

第十五條ヲ第十二條ニ第十六條ヲ第十三條ニ改メ第十七條ヲ第十四條トシ左ノ如ク改ム

第十四條 砲術練習生ニシテ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキハ練習生ヲ免シ各其

ノ本籍海兵團ニ復歸セシメ且之ヲ各其ノ所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知ス

砲術練習生ニシテ艦砲射撃ニ落第シタルトキ又ハ砲術教員若ハ掌砲兵タルニ適セスト認メタル

トキハ所長之ヲ免シ各其ノ所屬艦團其ノ他各部ニ復歸セシム

第十八條ヲ第十五條トシ左ノ如ク改ム

第十五條 砲術練習生卒業シタルトキハ各其ノ所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシム但シ教員適任

證書ヲ授與シタルトキハ之ヲ各其ノ本籍海兵團ニ復歸セシム

第十九條ヲ第十六條トシ以下順次繰上ル

〔參照〕

海軍省達第六十三號海軍砲術練習所規則(明治三十二年三月三十日)抄録

第八條 砲術練習生ノ人員ハ鎮守府毎ニ之ヲ定メ毎年八月之ヲ告達ス但シ鎮守府毎ニ所要ノ人員ヲ得ル能ハサルトキハ各

鎮守府ヲ通シテ採用スルコトヲ得

砲術練習生ノ採用期限ハ横須賀鎮守府司令長官之ヲ定ム

砲術練習生ノ人員ハ第一項ノ練習生ヲ合シ本則第二十條ノ人員ニ滿ルマテ採用スルコトヲ得

本則第七條ノ手續ヲ了シタル者漸次等ノ爲メ砲術練習生ニ採用スルコト能ハサルトキハ其ノ停止ミタル後採用スルコ

トヲ得

第九條 砲術練習生採用シタルトキハ各所轄長ハ海軍砲術練習所條例第十七條ニ適合スル者ノ中ヨリ選抜シ

所見表ヲ添ヘ其ノ官職姓名ヲ所長ニ通知スヘシ

第十條 所長前條ノ通知ヲ得タルトキハ試驗問題ヲ密封シ所轄長ニ送附ス所轄長ハ試驗ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ所長ニ送附ス

ヘシ但シ試驗ハ各地同日ニ行フモノニシテ其ノ日限ハ試驗問題ヲ封筒ニ配入スルモノトス

試驗ハ作文算術ノ二科トシ作文ハ通俗文算術ハ分數ヲ程度トス

第十一條 所長ハ砲術練習生ニ採用スヘキ者ヲ選抜シ之ヲ各鎮守府毎ニ區別シ入學期日ヲ定メ所管長官ニ具申スヘシ

横須賀鎮守府司令長官ハ前項ノ具申ニ依リ他鎮守府ニ屬スル者ハ之ヲ各其ノ司令長官ニ送附スヘシ

各鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ從ヒ各所轄長ヲシテ砲術練習生ヲ命シ期日以内ニ入所セシムヘシ

所長ハ入所シタル砲術練習生ノ人員ヲ所管長官ニ報告シ所管長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十七條 砲術練習生左ニ掲グル諸項ノ一ニ該ルトキハ所長之ヲ免シ本籍海兵團ニ復歸セシム

一 艦砲射撃ニ落第シタル者

二 傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ日途ナキ者

三 砲術教員又ハ掌砲兵タルニ適セサル者

第十八條 砲術練習生卒業シタル者其ノ本籍海兵團ニ復歸セシム

○海軍省達第三百三十四號

海軍水雷術練習所規則中左ノ通改正ス

明治三十二年七月七日

海軍大臣山本權兵衛

第八條 水雷術練習生ニ採用スヘキ人員ハ鎮守府毎ニ區分シテ之ヲ定メ毎年八月之ヲ告達ス
 横須賀鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ基キ第十五條ノ人員ヲ超エサル如ク便宜採用人員及採用
 期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官及艦隊司令長官ニ通知スヘシ
 鎮守府司令長官艦隊司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ麾下艦團其ノ他各部ノ長ヲシテ海軍水雷術練
 習所條例第十八條ニ適合スル者ヲ選抜シ其ノ人員ヲ具申セシム
 鎮守府司令長官艦隊司令長官ハ前項ノ具申ニ基キ採用スヘキ人員ヲ定メ採用期日ト共ニ之ヲ艦
 團其ノ他各部ノ長ニ達ス艦團其ノ他各部ノ長ハ更ニ選抜ヲ行ヒ採用セラルヘキ者ヲ決定シ所見
 表ヲ添ヘ之ヲ所長ニ通知シ期日以内ニ入所セシム
 水雷術練習生入所シタルトキハ其ノ人員ヲ横須賀鎮守府司令長官ニ報告シ司令長官ハ之ヲ海軍
 大臣ニ進達スヘシ

第九條 第十條 第十一條ヲ削除シ第十二條ヲ第九條ニ第十三條ヲ第十條ニ第十四條ヲ第十一條ニ
 改メ第十五條ヲ第十二條トシ左ノ如ク改ム

第十二條 水雷術練習生ニシテ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキハ練習生ヲ免シ各
 其ノ本籍海兵團ニ復歸セシメ且之ヲ各其ノ所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ニ通知ス
 水雷術練習生ニシテ水雷術教員又ハ掌水雷兵若ハ水雷工タルニ適セスト認メタルトキハ所長之
 ヲ免シ各其ノ所屬ノ艦團其ノ他各部ニ復歸セシム

第十六條ヲ第十三條トシ左ノ如ク改ム

第十三條 水雷術練習生卒業シタルトキハ各其ノ所屬艦團其ノ他各部ニ復歸セシム但シ教員適任
 證書ヲ授與シタルトキハ之ヲ各其ノ本籍海兵團ニ復歸セシム

第十七條ヲ第十四條トシ第十八條ヲ第十五條トシ左ノ如ク改ム

第十五條 水雷術練習生在所人員ハ二百名以内トス
 第十九條ヲ第十六條トシ第二十條ヲ第十七條トス

〔參照〕

海軍省達第六十四號海軍水雷術練習所規則(明治三十二年三月三十日)抄録
 第八條 水雷術練習生ノ人員ハ鎮守府毎ニ之ヲ定メ毎年八月之ヲ告達ス但シ鎮守府毎ニ所要ノ人員ヲ得ル能ハサルトキハ
 各鎮守府ヲ通シテ採用スルコトヲ得
 水雷術練習生ノ採用期限ハ横須賀鎮守府司令長官之ヲ定ム
 水雷術練習生ノ人員ハ第一項ノ練習生ヲ合シテ本則第十八條ノ人員ニ滿ルマテ採用スルコトヲ得
 本則第七條ノ手續ヲ了シタル者航海等ノ爲水雷術練習生ニ採用スルコト能ハサルトキハ其ノ事止ミタル後採用スルコト
 ヲ得

第九條 水雷術練習生採用ノ途アリタルトキハ各所轄長ハ海軍水雷術練習所條例第十八條ニ適合スル者ノ中ヨリ選
 拔シ所見表ヲ添ヘ其ノ官職姓名ヲ所長ニ通知スヘシ
 第十條 所長前條ノ通知ヲ得タルトキハ試驗問題ヲ密封シ所轄長ニ送附ス所轄長ハ試驗ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ所長ニ送附ス
 ヘシ但シ試驗ハ各地同日ニ行フモノニシテ其ノ日限ハ試驗問題ノ封筒ニ記スルモノトス
 試驗ハ作文(算術)ニ科トシ作文ハ通俗文算術ハ分數ヲ程度トス
 第十一條 所長ハ水雷術練習生ニ採用スヘキ者ヲ選抜シ之ヲ各鎮守府毎ニ區別シ入學期ヲ定メ所管長官ニ具申スヘシ
 横須賀鎮守府司令長官前項ノ具申ニ依リ他鎮守府ニ屬スル者ハ之ヲ各其ノ司令長官ニ送附スヘシ
 各鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ從ヒ各所轄長ヲシテ水雷術練習生ヲ命シ期日以内ニ入所セシムヘシ
 所長ハ入所シタル水雷術練習生ノ人員ヲ所管長官ニ報告シ所管長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十五條 水雷術練習生左ニ掲ケル諸項ノ一ニ該ルトキハ所長之ヲ免シ本籍海兵團ニ復歸セシム
 一 傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ途ナキ者
 二 水雷術教員又ハ掌水雷兵若ハ水雷工タルニ適セサル者

第十六條 水雷術練習生卒業ノ上ハ各其ノ本籍海兵團ニ復歸セシム

第十八條 水雷術練習生在所人員ハ二百名以内トス

○海軍省達第三百二十五號

海軍機關術練習所規則中左ノ通改正ス

明治三十二年七月七日

海軍大臣山本權兵衛

第三條中「機關術、船匠術、鍛冶術」ヲ削除ス

第五條中「毎年」ヲ「毎會計年度」ト改ス
 第八條第九條第十條第十一條第十二條ヲ削除シ第七條ノ次ニ第八條第九條第十條ヲ左ノ如ク追加ス
 第八條 練習生ニ採用スヘキ人員ハ各兵種ノ須要ニ應ジ鎮守府毎ニ區分シテ之ヲ定メ毎年八月之ヲ告達ス
 橫須賀鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ基キ第十四條ノ人員ヲ超エサル如ク便宜採用人員及ヒ採用期限ヲ定メ之ヲ各鎮守府司令長官及艦隊司令長官ニ通知スヘシ
 鎮守府司令長官艦隊司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ麾下艦團其ノ他各部ノ長ヲシテ海軍機關術練習所條例第十六條第十七條若ハ第十八條ニ適合スル者ヲ選拔シ其ノ人員ヲ具申セシム
 鎮守府司令長官艦隊司令長官ハ前項ノ具申ニ基キ採用スヘキ人員ヲ定メ採用期限ト共ニ之ヲ艦團其ノ他各部ノ長ニ達ス艦團其ノ他各部ノ長ハ更ニ選拔ヲ行ヒ採用サルヘキ者ヲ決定シ所見表ヲ添ベ之ヲ所長ニ通知シ期日以内ニ入所セシム
 練習生入所シタルトキハ其ノ人員ヲ橫須賀鎮守府司令長官ニ報告シ司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ
 第九條 機關術教員ト爲スヘキ者ハ機關工證狀ヲ授與シタル日ヨリ一箇年以上ノ勤務ニ服シ且海軍機關術練習所條例第十五條ニ適合スルモノヨリ之ヲ選拔スヘシ
 第十條 所長ハ機關工練習生入所シタルトキハ所要ニ從ヒ所見表ニ鑑ミ各自ノ専修工業ヲ命スヘシ
 第十一條 練習生ニシテ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキトキハ練習生ヲ免シ各其ノ本籍海兵團ニ復歸セシム且之ヲ各其ノ所屬艦團其ノ他各部ノ長ニ通知ス
 練習生ニシテ機關術教員、機關工、船匠工若ハ兵器工タルニ適ゼスト認メタルトキハ所長之ヲ免シ各其ノ所屬ノ艦團其他各部ニ復歸セシム
 第十二條 練習生卒業シタルトキハ各其ノ所屬艦團其ノ他各部ニ復歸セシム但教員適任證書ヲ授與シタルトキハ之ヲ各其ノ本籍海兵團ニ復歸セシム

第十五條ヲ第十三條ニ第十六條ヲ第十四條ニ第十七條ヲ第十五條ニ繰上リ所見表左ノ如ク改正ス

機關術(機關工、船匠工、兵器工)練習生所見表		教員ノ復習ナルトキハ其ノ旨ヲ明記スヘシ	
身 體 及 視 力	所 管 官 職 姓 名 及 年 齡	海 上 勤 務	附
現 役 年 數	服 役 前 期 年 月 日 及 卒 業 後 再 服 役 年 月 日	資 質	明 記
品行及勤務	職 務 上 ノ 技 術		
性質及學識	適 任 ト 認 メ ラ ル 工 業 ノ 種 類		
何々	何々		
若所見ノ件々本職其ノ擔保ノ責ニ任ス			
明治 年 月 日	分隊長 官 姓 名 印		
右機關術(機關工、船匠工、兵器工)練習生ニ適當スルモノト認ム	所轄長 官 姓 名 印		
明治 年 月 日			

〔參照〕

海軍省達第六十五號海軍機關練習所規則(明治三十二年三月三十日)抄録

第三條 所長ハ學期ノ終リニ於テ教官ヲ會同シ授業ノ成績及進歩並練習生ノ技能品行ヲ考査シ之ヲ機關術、船匠術、鍛冶術、進歩録ニ記註スヘシ

第五條 所長ハ毎年ノ終リニ於テ教育報告ヲ所管長官ニ差出シ長官ハ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達スヘシ

第八條 練習生ノ人員ハ各兵種ノ須要ニ應ジ鎮守府毎ニ之ヲ定メ毎年八月海軍大臣之ヲ告達ス但鎮守府毎ニ所要ノ人員ヲ得ル能ハサルトキハ各鎮守府ヲ通シテ採用スルコトヲ得

練習生ノ採用期限ハ積須賀鎮守府司令長官之ヲ定ム

練習生ニ採用セラレタル者航海等ノ爲メ入所スル能ハサルトキハ其ノ事止ミタル後採用スルコトヲ得

第九條 練習生採用ノ途アリタルトキハ各所轄長ハ海軍機關練習所條例第十七條第五項ニ適合スル志願者ノ中ヨリ選抜シ並同條例第十八條第十九條ニ適合スル志願者ヲ取極メ所見表ヲ添ヘ其ノ官職氏名ヲ所長ニ通知スヘシ

第十條 所長前條ノ通知ヲ得タルトキハ機關術、船匠術若クハ鍛冶術ヲ練習セシムル者ニ於テハ試驗問題ヲ密封シ所轄長ニ送附ス所轄長ハ試驗ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ所長ニ送附スヘシ但試驗ハ各地同日ニ行フモノニシテ其ノ日限ハ試驗問題ノ封筒ニ記スモノトス

試驗ハ作文、數學、數學ノ三科トシ作文ハ通俗文、數書ハ假名交リ文、數學ハ比例ヲ程度トス

第十一條 掌機工、掌機工、船匠工若クハ兵器工ト爲スヘキ者ニ於テハ海軍機關練習所條例第十八條及機關術教員ト爲スヘキ者ニ於テハ同條例第十九條ニ適合スル志願者中ヨリ選抜ス但選抜人員多數ナルトキハ卒業當時ノ成績ヲ比較シ其ノ順序ニヨリ採用ス

第十二條 所長ハ練習生ニ採用スヘキ者ヲ鎮守府毎ニ區別シ入學期ヲ定メ所管長官ニ具申スヘシ積須賀鎮守府司令長官前項ノ具申ニ依リ他鎮守府ニ屬スル者ハ各其ノ司令長官ニ通知スヘシ

各鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ從ヒ各所轄長ヲシテ各兵種ニ應ジ機關術、船匠術若クハ鍛冶術練習生ヲ命シ期日以内ニ入所セシムヘシ

所長ハ入所シタル練習生ノ人員ヲ所管長官ニ報告シ長官ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十三條 練習生左ニ掲クル諸項ノ一ニ該ルトキハ所長之ヲ免シ本籍海兵團ニ復歸セシム

一 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ日途ナキ者

二 練習生ニ適セザル者

第十四條 練習生卒業ノ上ハ各其ノ本籍海兵團ニ復歸セシム

○海軍省達第三百二十六號

海軍機關練習所ニ於テ現ニ修業中並ニ募集手續中ノ機關術練習生ハ機關工練習生トシ船匠術練習生ハ船匠工練習生トシ鍛冶術練習生ハ兵器工練習生トス

海軍機關術練習所ニ於テ現ニ募集中ノ練習生採用ノ手續ハ従前ノ規則ニ依リ完結スルコトヲ得

明治三十二年七月七日 海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第三百二十七號

海軍各學生生徒及練習生ニ授與スル證書及證狀書式中左ノ通改正ス

明治三十二年七月七日 海軍大臣山本權兵衛

第一號第二號及第十一號書式ヲ左ノ如ク改ム

第一號書式

第 號 卒業證書

海軍大學校將校科甲種(將校科乙種)(機關科長期)(機關科短期)學生

官 姓 名

大日本帝國海軍大學校甲種(乙種)航海術專科(機關科長期)(機關科短期)課程卒業ヲ証ス

年 月 日

海軍大學校長官位勳功爵姓名

第二號書式

第 號 修業證書

海軍大學校將校科乙種學生

官 姓 名

大日本帝國海軍大學校乙種砲術專科(水雷術專科)課程修業ヲ証ス

年 月 日

海軍大學校長官位勳功爵姓名

第十一號書式

第 號 機關工(船匠工)(兵器工)證狀

何等

官(職)姓 名

大日本帝國海軍機關練習所機關工何等工種(船匠工)(兵器工)課程卒業ヲ証ス

年 月 日

海軍機關練習所長官位勳功爵姓名

第十二號書式中(機關兵曹)(船匠手)(鍛冶手)ヲ除キ第十二號書式ヲ廢ス

○海軍省達第三百三十八號

陸海軍喇叭譜中第二號「海行カバ」ノ譜左ノ通改正ス。(譜略ス)

明治三十二年七月七日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第三百三十九號

雇員備入規則第三條別表中左ノ通改正追加ス

明治三十二年七月十日

海軍大臣山本權兵衛

宮古ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

教	島	八	四	—
朝	日	八	四	—
初	樹	八	四	—
出	位	八	三	—
八	位	八	三	—
香	要	八	三	—

備考中第五項ヲ左ノ通改正ス

五 軍艦ニ半定員若ハ留守定員ヲ置キ又ハ未成艦ニ人員ヲ置クトキハ本表ノ人員中二名以上ノモノハ其ノ半數以下ニ減スルモノトス

○海軍省達第四百十號

海軍主計官練習所規則中左ノ通改正ス

明治三十二年七月十三日

海軍大臣山本權兵衛

第三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條ノ二 毎年七月二十二日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテヲ冬季休業トス

第四條中行政法ノ次ニ財政學ヲ加フ

(參照)

明治三十二年五月海軍省達第九十一號海軍主計官練習所規則第四條ハ學生ノ教程ナリ

○海軍省達第四百一十一號

歳入歳出取扱規程第五十二條第二項ヲ删除ス

但本達ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

明治三十二年七月二十日

海軍大臣山本權兵衛

(參照)

海軍省達第百一號歳入歳出取扱規程(明治三十年九月二十七日抄録)

第五十一條 經理局長前條過年度支出請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ適當ト認メタルトキハ支出承認ノ手續ヲ爲シ且同時ニ其ノ年月日發給金額並所屬年度豫算定額ノ不用額既ニ支出シタル金額及殘額ヲ會計検査院ニ通知スヘシ委任仕拂命令官前項ノ支出承認ヲ受ケ仕拂フ爲シタルトキハ支出計算書中ニ過年度支出内詳ノ掲載ヲ要セス應認額ニ承認ノ年月日番號ヲ朱書スヘシ

○海軍省達第四百一十二號

海軍下士卒身上取扱規則第十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

明治三十二年七月二十六日

海軍大臣山本權兵衛

第十九條 下士卒ノ服役ハ年限年齢ニ達シタル月ノ盡日ヲ以テ其ノ終期トス

○海軍省達第四百十三號

出納官吏身元保證金取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十二年七月二十七日

海軍大臣山本權兵衛

第五條 出納官吏會計規則第三百三條但書ニ據リ土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ土地ノ所在地價格及登記所名ヲ記シタル登記請求書(第二號書式甲)ニ一通ヲ製シ之ニ抵當權設定ノ證(第四號書式甲)ヲ添エ取扱官廳ヲ經由シ海軍大臣ニ進達スヘシ

第六條 海軍大臣ハ前條ノ請求ヲ認許シタルトキハ經理局長ヲシテ不動産登記法第二百一十一條ニ據リ當該登記所ニ抵當權設定ノ登記ヲ囑託セシム

第十三條第一項ヲ左ノ如ク改ム

海軍大臣前條ノ出願ニ依リ身元保證金ヲ拂戻ストキ現金及公債證書ハ保管證書又ハ書入證書ヲ取扱官廳ヲ經由シテ出納官吏ニ返付スヘシ又土地ハ不動産登記法第三十一條第三項ニ據リ權利消滅ノ登記請求ヲ受ケタルトキ經理局長ヲシテ該請求書ニ登記原因ヲ證スル書面ヲ添エ當該登記所ニ權利消滅ノ登記ヲ囑託セシム

第二號及第四號書式ヲ左ノ如ク改ム

第三號書式甲 用紙美濃紙

登記請求書

一何地何坪

何府縣何市郡町村何番地
此土地登記證價格金何程

一何地何段

何々々
此土地登記證價格合計金何程

右ハ拙者身元保證金何程ニ代用納付ノ爲メ何登記所ニ於テ抵當權設定ノ登記相受度候也

年 月 日

在職部局名

第三號書式乙 用紙美濃紙

官 氏 名 印

登記請求書

「何某所有」

一何地何坪

何府縣何市郡町村何番地
此土地登記證價格金何程

「何某所有」

一何地何段

何々々

此土地登記證價格合計金何程

右ハ何某所有「何某所有」者所有ノ土地ニ有之候處所有主ノ承諾ヲ得テ拙者身元保證金何程ニ代用納付ノ爲メ何登記所ニ於テ抵當權設定ノ登記相受度候也

年 月 日

在職部局名
官 氏 名 印

右之通相違無之候也

何府縣何市郡町村何番地
所有主 氏 名 印

「何府縣何市郡町村何番地」
所有主 氏 名 印

海軍大臣宛

第四號書式甲 用紙美濃紙

印紙

抵當權設定之證

一何地何坪 何府縣何市郡町村何番地
此土地臺帳登記價格金何程
一何地何段 何々々

此土地臺帳登記價格合計金何程

右ハ指者所有ノ地所ニ有之候處何々ヲ取扱フ爲メ會計規則第百三條ニ據リ出納官吏身元保證金何程ノ代用トシテ納付候條會計規則第百五條ニ依リ公費ニ付セラル、モ指者ニ於テ聊故障無之爲後證如是候也

在職部局名

官 氏 名 印

海軍大臣宛

第四號書式乙 用紙美濃紙

印紙

抵當權設定之證

一何地何坪 何府縣何市郡町村何番地
此土地臺帳登記價格金何程
一何地何段 何々々

此土地臺帳登記價格合計金何程

右ハ何某所有ノ肩書記名者所有ノ地所ニ有之候處何々ヲ取扱フ爲メ會計規則第百三條ニ據リ出納官吏身元保證金何程ノ代用トシテ所有主ノ承諾ヲ得テ抵當權設定候條會計規則第百五條ニ依リ公費ニ付セラル、モ所有主及指者ニ於テ聊故障無之候爲後證如是候也

備考(第三者ノ土地ヲ抵當權設定ヲナストキハ此書式ニ據ル)ハ所有主二名以上ナルトキノ例

年 月 日
右之通相違無之候也

在職部局名

官 氏 名 印

何府縣何市郡町村何番地

所有主 氏 名 印

何府縣何市郡町村何番地

所有主 氏 名 印

海軍大臣宛

〔參照〕

海軍省達第百二十五號出納官吏身元保證金取扱規則(明治二十六年十二月八日)抄錄
第五條 出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ土地ヲ以テ現金ニ代用セントスルトキハ土地ノ所在地價格及登記ヲ受ケン
トスル日限ヲ記シタル願書(第三號書式)ニ通テ製シ取扱官廳ヲ經由シ海軍大臣ニ進達スヘシ
第六條 海軍大臣ハ前條ノ出願ヲ認許シタルトキハ同時ニ登記日限ヲ定メ土地所在地ノ北海道廳長官府縣知事ニ命シ登記
法第二十一條ノ手續ヲ代理セシム
第十三條第二項
海軍大臣前條ノ出願ニ依リ身元保證金ヲ拂戻ストキ現金及公債證書ハ保管證書又ハ書入證書ヲ取扱官廳ヲ經由シテ出納
官吏ニ返付スヘシ又土地ハ其書入證書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ送付シ書入ノ解除ヲナス爲メ登記法第二十三條ノ手續
ヲ代理セシム

○海軍省達第百四十四號

海軍武官増修規則中左ノ通改正追加ス

明治三十二年七月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

第三條中

二 大尉同相當官ニ在テ二級俸ニハ一箇年一級俸ニハ二箇年

三 准士官ニ在テ三級俸ニハ一箇年二級俸ニハ二箇年一級俸ニハ三箇年
第四條中

大尉同相當官ニ一級俸及二級俸ヲ給スルハ每級各其ノ人員ノ三分ノ一
兵曹長同相當官ニ海軍々人俸給令第一表ノ特別俸ヲ給スルハ本項ノ制限ニ拘ラス特ニ増俸
スルコトヲ得

二 准士官ニ一級俸二級俸及三級俸ヲ給スルハ每級各其ノ人員ノ四分ノ一

〔參照〕

海軍省達第百六十三號海軍武官増俸規則(明治三十年十一月二十九日)抄録
第二條 増俸ハ超級ノ増俸ヲナスコトヲ又任官ノ日ヨリ起算シ左ニ掲クル期限ヲ過キ且精勤ノ者ニアラサレハ増俸スル
コトナシ

二 大尉同相當官ニ在テ三級俸ニハ一箇年二級俸ニハ二箇年一級俸ニハ三箇年

三 准士官ニ在テ四級俸ニハ一箇年三級俸ニハ二箇年二級俸ニハ三箇年一級俸ニハ四箇年

第四條 每級人員ハ左ノ制限ヲ超ニサルヲ例トス
一 大佐中佐少佐中尉兵曹長並各同相當官ニ一級俸ヲ給スルハ各其ノ人員ノ二分ノ一、大尉同相當官ニ一級俸、二級俸、三
級俸ヲ給スルハ每級各其ノ人員ノ四分ノ一

二 准士官ニ一級俸二級俸三級俸及四級俸ヲ給スルハ每級各其ノ人員ノ五分ノ一

○海軍省達第四百四十五號

海軍軍人俸給加俸支給細則中左ノ通改正ス

明治三十二年七月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

海軍軍人俸給加俸支給細則第二十八條ヲ削除シ左ノ二條ヲ追加ス

第二十八條 所在若ハ死生分明ナラサル者ノ給與ハ海軍大臣示達ノ日ヲ以テ其ノ終期トス

第二十九條 年俸ヲ支給スルニ當リ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス

進級増俸轉勤等ノ場合ニ於ケル年俸日割計算法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ルヘシ

〔參照〕

海軍省達第百一十一號海軍軍人俸給加俸支給細則(明治二十九年十二月十八日)抄録

附則

第二十八條 此ノ細則ハ明治二十九年勅令第三百八十七號施行ノ日ヨリ施行ス

○海軍省達第四百四十六號

下士卒定員補充交代規則左ノ通定ム

明治三十二年七月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

下士卒定員補充交代規則

第一條 艦團其ノ他各部ノ下士卒定員ハ各其ノ本管鎮守府在籍者ヲ以テ之ニ充テ其ノ補充及交代
ハ定期及臨時ニ之ヲ行フ

第二條 定員ハ總テ其ノ同等級ノ者ヲ以テ補充スヘシ但シ同等級ノ者ヲ得ルコト能ハサル場合ニ
於テハ次級以下ノ者ヲ以テ補充スルコトヲ得

艦團其ノ他各部ノ長ハ進級其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ級ノ定員ニ超過ヲ生シ若ハ本管ニ復歸セシ
ムヘキ者アルトキハ速ニ之ヲ其ノ兵籍ヲ管スル海兵團ニ入團セシムヘシ但シ必要ト認ムルトキ
ハ所管長官ノ認可ヲ得テ次回ノ定期補充期迄上級者ヲ以テ下級者ノ職ニ充ツルコトヲ得

第三條 定期ノ補充及交代ハ五等卒卒業期ニ於テシ臨時ノ補充及交代ハ必要ニ應シ臨時ニ之ヲ行
フ

第四條 定期ノ補充及交代ハ左ノ諸項ニ依リ之ヲ行フ

一 鎮守府司令長官ハ卒業スヘキ五等卒ノ員數ニ應シ艦團其ノ他各部ニ配賦スヘキ員數ヲ定メ

之ヲ各艦團其ノ他各部ノ長ニ告達シ海兵團長ヲシテ之ヲ配賦セシム

二 前項ノ告達アリタルトキハ艦團其ノ他各部ノ長ハ現員中海兵團ニ入團セシムヘキ者ヲ調査シ新ニ配賦セラレタル四等卒ト交代シテ入團セシムヘシ

三 艦團其ノ他各部ノ長ハ前項ニ依リ交代ヲ行フト同時ニ尙補缺ヲ要スヘキ者アルトキハ之ヲ海兵團長ニ請求シ海兵團長ハ速ニ其ノ缺員ヲ補充スヘシ

四 艦團其ノ他各部ノ長ハ第二項ノ場合ニ於テ定員外ノ兵員ヲ置クヲ要スト認メタルトキハ所管長官ノ認可ヲ得テ各科定員ノ十分之一以内ノ員數ヲ留ムルコトヲ得但シ此ノ定員外ノ員數ハ必要ナキニ至リタルトキハ臨時入團セシムルコトヲ得

第五條 司令長官麾下艦船中定員ノ補充若ハ交代ヲ必要ト認メタルトキ又ハ左ノ事項ニ依リ艦團其ノ他各部ノ長ヨリ上申アリタルトキハ第一條ノ規定ニ背カサル限り麾下ノ兵員ヲ以テ臨時ニ補充若ハ交代ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ニ關係アル艦團其ノ他各部ノ長ニ告達スヘシ

一 艦團其ノ他各部ノ長相互ノ協議ニ依リ其ノ部下下士卒ヲ交代セントスルトキ

第六條 艦團其ノ他各部ノ長左ノ事項ノ一ニ依リ定員ノ補充若ハ交代ヲ要スト認メタルトキハ之ヲ鎮守府司令長官ニ上申スヘシ此ノ場合ニ於テハ司令長官ハ前條ニ準シテ補充若ハ交代ヲ行フコトヲ得

一 新造軍艦若ハ豫備艦ノ定員ヲ補充スルニ際シ在團補充員中其ノ艦ノ定員トシテ豫定シタル人員ニテ不足セルトキ

二 流行病其ノ他ノ事故ニ依リ各科定員中十分ノ一以上ノ缺員ヲ生シ其ノ補缺ヲ爲ササレハ役務上差支ヲ生スルトキ

第七條 艦團其ノ他各部ニ於テ定期若ハ臨時補充ノ場合ニ際シ其ノ補充ヲ要スルコト急ニシテ本

管鎮守府在籍者ヲ得ル違ナキトキハ便宜他ノ鎮守府在籍者ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得但シ本管ヨリ補充ヲ得タルトキ又ハ定員ノ解散ヲ爲ストキハ速ニ之ヲ復歸セシムヘシ

第八條 艦團其ノ他各部ニ於テ定期若ハ臨時補充ノ場合ニ際シ特科ノ修業ヲ經タル者若ハ特殊ノ職務ニ充ツヘキ下士卒ノ補缺ヲ必要トスル場合ニ於テ本管鎮守府在籍者ヨリ之ヲ得難キトキハ其ノ事由ヲ本管鎮守府司令長官ニ上申スヘシ

鎮守府司令長官前項ノ上申ヲ受ケタルトキハ之ヲ他鎮守府司令長官ニ協議シ他管ノ者ヲ以テ補充セシムルコトヲ得但シ本管ヨリ適任者ノ補充ヲ得タルトキハ速ニ之ヲ復歸セシムヘシ

第九條 下士卒ノ定員 練習生又ハ練習ノ爲メ乗組タル者其ノ他臨時在勤者ハ之ヲ除ク 有スル艦團其ノ他各部ノ長ハ別表ノ様式ニ依リ毎月一日ニ於テ定員比較表ヲ作り 艦團增加定員ハ本艦ノ定員ト區別シ又鎮守府各艦ノ如キモ各別ニ之ヲ作ルヘシ 之ヲ本管鎮守府ニ屬スル海兵團長ニ通牒シ海兵團長ハ之ニ依リ所管全部ノ統計表ヲ作り之ヲ所屬司令長官ニ進達スヘシ

海兵團長ハ毎月前項ノ通牒ニ依リ他管鎮守府在籍者ヲ調査シ其ノ月内ニ之ヲ其ノ兵籍ヲ管スル海兵團長ニ通牒スヘシ

第十條 軍樂手及軍樂生ハ其ノ原籍ヲ横須賀鎮守府ニ置ク
横須賀鎮守府司令長官ハ軍樂手及軍樂生ノ各鎮守府及艦隊ニ於ケル定員ニ應スル配置ヲ爲シ又時期ヲ定メ輪番交代シテ横須賀海兵團ニ入團セシムヘシ

第十一條 水雷敷設隊ノ定員ニ充ツヘキ四等水兵ハ徵兵ノミヲ以テ補充シ其ノ員數ハ三四等水兵ノ定員ノ半數ヲ超ルコトヲ得ス

四等水兵ニシテ水雷敷設隊勤務ヲ命セラレタル者ハ其ノ現役中恒ニ水雷敷設隊ノ定員ニ充ツルモノトス

第十二條 佐世保鎮守府司令長官ハ竹敷要港部勤務ノ下士卒ヲ約二箇年毎ニ又馬公水雷敷設隊勤務ノ下士卒ヲ約十八箇月毎ニ其ノ他ニ在ル下士卒ト交代セシムヘシ但シ特科ノ修業ヲ經タルモノ若ハ特種ノ職務ニ充ツルモノニシテ必要缺クヘカラサル者ハ交代セシメサルコトヲ得前項ニ依リ交代セシムヘキ人員及時期ハ司令長官之ヲ定ム

第十三條 東京及横須賀所在ノ各廳勤務ノ下士卒ハ横須賀海兵團ヨリ吳所在ノ各廳、海軍兵學校及臨時海軍建築部舞鶴支部勤務ノ下士卒ハ吳海兵團ヨリ佐世保所在ノ各廳及臺灣總督府勤務ノ下士卒ハ佐世保海兵團ヨリ補充ス

第十四條 常備艦隊司令長官旗艦增加定員ノ下士卒ハ横須賀海兵團ヨリ同艦隊司令官旗艦增加定員下士卒ノ一組ハ吳海兵團ヨリ一組ハ佐世保海兵團ヨリ補充ス

附則

第十五條 明治三十年達第六十七號下士卒定員補充規則ハ本達施行ノ日ヨリ廢止ス(別表)

(艦團其ノ他各部艦名)

番號送	明治	年	月	日	調
(第一表) 下士卒定員比較表					
等級	兵種	兵曹	信號	船匠手	機關
一	兵	曹	號	手	關
二	兵	曹	號	手	關
三	兵	曹	號	手	關
四	兵	曹	號	手	關
計	兵	曹	號	手	關

士		卒				
計	三	二	一	等級	兵種	
二	三	二	一	水兵	水兵	
三	二	一	一	信號兵	信號兵	
二	一	一	一	木工	木工	
一	一	一	一	機關兵	機關兵	
計	計	計	計	鍛冶	鍛冶	
二	三	二	一	看護	看護	
三	二	一	一	主	主	
四	三	二	一	府	府	
計	計	計	計	計	計	

(第二表) 特科兵缺(過)員表

砲	兵	學	水	雷	兵	機	關	工	水	雷	工
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(第三表) 定員中他管鎮守府在籍者表

第一及第二表ニハ缺員者ハ過員ノ數ノミヲ記入スヘキモノニシテ缺員數ハ黑字ヲ用ヒ過員數ハ朱字ヲ用フヘシ但シ一方並
--

内ニ黒米兩字ヲ記入スル必要ヲ生スルトキハ斜線ノ上方ニ黒字ヲ記シ同シタ下方ニ米字ヲ記スヘシ
定員中他管領守府在籍者ヲ以テ充テタル者アルトキハ第三表ニ其ノ所管領守府官職及員數ヲ記載スヘシ

○海軍省達第四百十七號

海軍卒進級條例中左ノ通改正ス

明治三十二年七月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

第五條ヲ左ノ如ク改ム

第五條 實役停年最下期限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 四等卒ヨリ其ノ上級ノ職ニ進ムハ四等水兵及四等機關兵ニ在テハ海上勤務四箇月半水雷敷設隊勤務ノ四等水兵ニ在テハ其ノ勤務四箇月半其ノ他ノ四等卒ニ在テハ海上勤務四箇月半若ハ陸上勤務六箇月

二 三等卒及二等卒ヨリ其ノ上級ノ職ニ進ムハ海上勤務六箇月若ハ陸上勤務八箇月

第六條中「四月一日」ノ上ニ「二等卒及三等卒ニ在テハ」ヲ十月一日ノ下ニ「四等卒ニ在テハ五月十五日及十一月十五日」ヲ加ヘ同條第二項ニ左ノ但書ヲ追加ス

但シ四等水兵及四等機關兵ニ在テハ其ノ海上勤務若ハ陸上勤務ヲ互ニ改算スルコトヲ得ス

第十一條中「卒ノ進級試験終ルノ後」ニ「二等卒以下ニシテ」ヲ「二等卒三等卒若ハ四等卒ノ進級試験ヲ行ヒタルトキハ」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

候補名簿ニ記載スル停年ハ毎ニ海上勤務水雷敷設隊勤務ノ四等ヲ以テ算スヘキモノトス

第十二條中「所屬海兵團」ヲ「其ノ府」ニ改ム

〔参照〕

海軍省達第七十八號海軍卒進級條例(明治二十九年九月十四日)抄録

第五條 實役停年最下期限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 四等卒及三等卒ヨリ其ノ上級ノ職ニ進ムハ海上勤務四箇月半若クハ陸上勤務六箇月

二 二等卒ヨリ其ノ上級ノ職ニ進ムハ海上勤務六箇月若クハ陸上勤務八箇月

第六條 實役停年ハ海上勤務若クハ陸上勤務ヲ以テ算シ四月一日及十月一日ヲ以テ期限トス
海上勤務ヲ陸上勤務ニ改算スルニハ海上勤務日數三其ノ三分一ヲ加ヘ陸上勤務ヲ海上勤務ニ改算スルニハ陸上勤務日數ヨリ其ノ四分一ヲ減ス

第十一條 艦團其ノ他各部ノ長ハ部下ノ進級試験終ルノ後二等卒以下ニシテ進級セシムルニ適スル者ヲ選抜シ之ヲ在籍

領守府及各兵種等級ニ區別シ其ノ技能ノ優劣ニ依リ順序ヲ定メ停年計算期限ノ現在所屬ニ就キ其ノ長候補名簿ヲ調製シ

候補者ノ員數ヲ各在籍領守府司令長官ニ報告スヘシ

候補名簿ニ記載スル停年ハ毎ニ海上勤務ヲ以テ算スヘキモノトス

第十二條第一項

領守府司令長官ハ前條ノ報告ニ依リ各兵種等級ニ於ケル候補者ノ數ト所屬海兵團在籍卒ヲ以テ充ツ可キ定員數ニ海軍定員令第三條ニ記載ノ補缺員中ノ缺員數ヨリ割出セル各上級ノ任用進級セシムヘキ數トニ依リ艦團其ノ他各部ニ於テ進級セシムヘキ各員數ヲ定メ之ヲ各其ノ長ニ告送スヘシ(海軍省達第七十八號海軍卒進級條例ノ附則ニ依リ)

○海軍省達第四百十八號

海軍准士官下士卒任用進級試験規則中左ノ通改正ス

明治三十二年七月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

第二條 任用進級試験ハ三等卒以上ニ在テハ毎年四月及十月ニ於テ四等卒ニ在テハ毎年五月及十一月ニ於テ施行スヘシ

〔参照〕

海軍省達第九十三號海軍准士官下士卒任用進級試験規則(明治二十九年十月十二日)抄録

第三條 任用進級試験ハ毎年四月及十月ニ於テ施行スヘシ
○海軍省達第四百十九號

五等卒教育規則及五等卒教育要旨左ノ通定ム

明治三十二年七月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

五等卒教育規則

第一條 五等卒ハ海兵團ニ於テ教育ス但シ五等看護ハ海兵團及病院ニ於テ之ヲ教育スルモノトス
第二條 五等卒入團シタルトキハ海兵團長 勅諭ヲ奉讀シ其ノ大旨ヲ副讀シ軍人ノ本分ヲ會得セシムヘシ

第三條 海兵團長及病院長ハ本則及教育要旨ニ基キ五等卒教育ニ關スル細則及教程ヲ定メ鎮守府司令長官ニ進達ス鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ認可ヲ經テ海兵團長及病院長ヲシテ五等卒教育主任ヲ定メ實施ノ責ニ任セシムヘシ

第四條 海兵團長及病院長ハ五等卒教育ノ進歩ヲ檢スル爲メ便宜小試験ヲ行ヒ且其ノ教育ノ終ニ於テ卒業試験ヲ行フヘシ但シ試験ハ成ルヘク實地ニ就キ之ヲ行フモノトス
試験ノ及第點數ハ各學科全點數ノ十分三以上五等軍樂生ハ十分四以上ヲ得其ノ點數ヲ合算シ總點數ノ十分

四以上五等軍樂生ハ十分五以上トス
小試験得點ハ之ヲ卒業試験得點ニ合算シ卒業試験ノ成績トス

第五條 卒業試験ノ成績ハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ意見ヲ附シ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

卒業試験ノ成績ハ之ヲ履歷ニ記入スヘシ

第六條 卒業試験ニ及第シタル者ハ之ヲ四等卒ニ進マシメ其ノ落第シタル者ハ之ヲ次期ノ五等卒ニ編入シ凡六箇月ノ後之ヲ進級セシム但シ病院ニ於テ卒業試験ヲ行ヒタル場合ニ於テハ之ヲ海兵團ニ復歸セシメ然ル後之ヲ進級セシム

第七條 五等卒ニシテ技藝優等ナル者ハ所定期日間修業セスト雖臨時試験ノ上之ヲ四等卒ニ進マシムルコトヲ得

五等卒教育要旨

一 五等卒入團シタルトキハ先ツ左ノ諸項ニ就キ嚴格ナル教育ヲ爲スヘシ

勅諭奉讀及講話

二 體勢ノ整正

三 上官ノ官氏名武官ノ階級服制勳章徽章ノ種類及其ノ起因其ノ他各兵種ノ識別及性能等

四 敬禮式海兵團内則其ノ他紀律ニ關スル須要ノ事項等

五 衣服著裝方釣床取扱方及衣囊手箱ニ關スル心得等

右ノ諸項ハ五等卒教育ノ基本タルヘキモノニシテ教育上極メテ重要ナルカ故ニ特ニ注意シテ之ヲ教授スヘシ

二 五等水兵ニ教授スヘキ學科ハ之ヲ運用術及砲術ノ二科ニ分チ運用科ニ在テハ下級卒トシテ爲スヘキ職務ヲ實地ニ就キ簡單ニ教授シ特ニ重キヲ端舟及艦内事業ニ關スル實務ニ置キ砲術科

- ニ在テハ主トシテ陸上ニ於ケル諸操練ヲ重視シ次ニ艦砲操法ニ關スルコトヲ教授スヘシ而シテ銃隊操練ニ於テハ分隊下士以下ノ職務ノミヲ教授シ且ツ小銃射法教範ニ掲クル彈數ヲ射擊セシム
- 五等水兵ニハ前項ノ外別科トシテ讀書習字、作文、和船漕方、手旗信號、水雷術及水泳等ヲ教授スヘシ
- 五等水兵ノ教育期限ハ六箇月以内トス
- 三 五等機關兵ニ教授スヘキ學科ハ機關術、工業及武科ノ三科ニ分テ機關術及工業ニ在テハ下級卒トシテ職務上必要ナル事項ヲ成ルヘク簡單ニ教授シ武科ニ在テハ機關兵トシテ修得スヘキ範圍内ニ於テ適當ノ科程ヲ設ケ之ヲ教授スヘシ
- 五等機關兵ハ別科トシテ讀書習字、作文、端舟漕方、和船漕方、手旗信號、水雷術及水泳等ヲ教授スヘシ
- 四 五等機關兵ノ教育期限ハ六箇月以内トス
- 五等軍樂生ニ教授スヘキ學科ハ之ヲ實際的音樂及學術的音樂ノ二科ニ分テ別科トシテ徒手教練及水泳等ヲ教授ス
- 實際的音樂ハ成ルヘク各人ノ性能ニ應シテ之ニ適スル如キ樂器ニ就キ教育スルモノニシテ教育中ニ適セスト認メタルトキハ他ノ樂器ニ更ムルコトヲ得
- 五等軍樂生ノ教育期限ハ十箇月以内トス
- 五 五等看護ニ教授スヘキ學科ハ解剖學、生理學、藥劑學、繙帶術、看護術及患者運搬法等ニシテ患者運搬法ハ海兵團ニ於テ之ヲ教授シ他ハ悉ク病院ニ於テ教授ス

- 繙帶術及看護術ハ看護ノ職務上最重要ナルカ故ニ修學期中ニ於テ務メテ實際ニ職務ヲ遂行シ得ヘキ程度ニ達セシムルヲ要ス
- 五等看護ニハ別科トシテ讀書習字、作文、算術、徒手教練、船具ノ名稱、端舟漕方、和船漕方及水泳等ヲ教授スヘシ
- 五等看護ノ教育期限ハ八箇月トス
- 六 五等主廚ニ教授スヘキ學科ハ割烹術及普通學ノ二科ニシテ割烹術ニ在テハ炊事ニ關スル全般ノコトヲ習得セシメ普通學ニ在テハ讀書習字、作文、算術等ヲ教授スヘシ
- 割烹術ハ卒業後炊事ニ關スル勤務ニ堪フルヲ度トシ普通學ハ職務上比較的ニ重要ナルカ故ニ他ノ兵種ヨリモ之ヲ重視スヘシ
- 五等主廚ニハ別科トシテ徒手教練、船具ノ名稱、端舟漕方、和船漕方及水泳等ヲ教授スヘシ
- 五等主廚ノ教育期限ハ四箇月以内トス
- 七 五等木工ニ教授スヘキ學科ハ工業及潛水術ノ二科ニシテ工業ニ在テハ艦内ニ於ケル小工業ニ從事シ得ヘキヲ度トシ木挽及木削方等ハ成ルヘク熟練ノ域ニ達セシムヘシ又潛水術ハ職務上甚重要ナル故ニ勉メテ之ヲ練習シ五尋以上ノ水底事業ニ從事シ得ヘキヲ要ス
- 五等木工ニハ別科トシテ圖學、讀書習字、作文、算術、徒手教練、船具ノ名稱、端舟漕方、和船漕方及水泳等ヲ教授スヘシ
- 五等木工ノ教育期限ハ十二箇月トス
- 八 五等鍛冶ニ教授スヘキ學科ハ工業及潛水術ニシテ工業ニ在テハ銅鐵具及兵器ノ小工業ニ從事

シ得ヘキヲ度トシ練鐵鑿鑿及鑿付方等ヲ教授スヘシ及潜水術ハ職務上甚重要ナルカ故ニ勉メテ之ヲ練習シ五尋以上ノ水底事業ニ從事シ得ヘキヲ要ス
五等鍛冶ニハ別科トシテ圖學、讀書習字、作文、算術、徒手教練、船具ノ名稱、端舟漕方、和船漕方及水泳等ヲ教授スヘシ

五等鍛冶ノ教育期限ハ十二箇月トス

○海軍省達第五百十號

明治二十九年達第二十八號ヲ廢ス

明治三十二年七月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

明治二十九年八月海軍省達第二十八號ハ五等卒教育規則ナリ

○海軍省達第五百一十一號

信號練習生規則中第四條ヲ削除シ第五條中「前條ニ基キ各艦長ヨリ送附スル意見ト試驗成績トニ對照シテ」ヲ除ク

明治三十二年七月二十八日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第五十四號信號練習生規則(明治二十九年五月二十八日)抄錄

第四條 五等水兵ノ教育ニ任シタル各艦長ハ五等水兵卒業後速ニ其ノ試驗成績表ヲ送附スルト同時ニ前條ニ適合スル者ヲ選擇シテ之ヲ海兵團長ニ通知スヘシ

第五條 信號練習生採用ノ途アリタルトキハ海兵團長ハ前條ニ基キ各艦長ヨリ送附スル意見ト試驗成績トニ對照シテ第三條ニ適合スル者ヲ選擇シ之ニ信號練習生ヲ命スルモノトス

○會計検査院達第四號

支出證明規程第十二條及仕拂證明規程第十二條ニ依リ建築、河川改修、鐵道建設、鐵道作業及電信線並電話線架設ニ關スル竣功明細書様式左ノ通定ム

明治三十二年七月二十六日

會計検査院長男爵山田信道

(△印ハ執モ朱世)

竣功明細書ハ一建築毎ニ調製スヘシ	
一設計ノ變更等ニ依リ科目金額ニ増減ヲ生シタルモノ若クハ彼此流用シタルモノアルトキハ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ	
一豫算繰越ニ係ル事業及繼續事業ニシテ當該年度末日ノ現況ニヨリ既済部分ニ就テ竣功明細書ヲ調製スルトキハ其使用高ヲ竣功高ノ欄ニ掲ケ其旨ヲ備考ニ記載スヘシ	
一木材切回シ遣ヒニ係ルモノハ元本尺メヲ以テ計算スヘシ	
一材料及勞力ノ使用ハ其目的ヲ備考ニ記載スヘシ	
一無代價使用ノ物品ハ其數量及見積價格ヲ朱書シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ	
一部分購買ニシテ證書ニ設計仕樣ヲ詳記シタルモノハ其金額ノミヲ掲ケ事由ヲ備考ニ記載スヘシ	
一假設工事ニ係ル費用ハ本工事ノ費用ト區分スヘシ	
一亡失毀損及不用品拂出ハ竣功内際中其部ノ末ニ記入シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ	

明治何年度	何建築費
竣功明細書	
年月日竣功	年月日起工
名	廳

内		總							
金	員	備	考	設計算高	増	減	現	計	
圓	銭	圓	銭	圓	銭	圓	銭	圓	銭
0	0			0	0	0	0	0	0
0	0	側通中仕切丁掘用		0	0	0	0	0	0
0	0			0	0	0	0	0	0
0	0	土留用(組合品ヲ用ヒタリ)		0	0	0	0	0	0
0	0	應機留杭及切取用同上		0	0	0	0	0	0
0	0	堰板取建用		0	0	0	0	0	0
0	0			0	0	0	0	0	0
0	0	杭間突堅用		0	0	0	0	0	0
0	0	目潰用		0	0	0	0	0	0
0	0	割栗突堅用		0	0	0	0	0	0
0	0			0	0	0	0	0	0
0	0	地杭用		0	0	0	0	0	0
0	0	杭頭切揃用		0	0	0	0	0	0
0	0	杭打力及大工手傳共		0	0	0	0	0	0
0	0			0	0	0	0	0	0

括						
摘要	前年度決算高	本年度決算高	計	殘	高	備考
	圓	銭	圓	銭	圓	銭
本館	0	0	0	0	0	
第一 地石形ノ部	0	0	0	0	0	
第二 煉石ノ部	0	0	0	0	0	
第三 屋根ノ部	0	0	0	0	0	
第四 鍛冶ノ部	0	0	0	0	0	
第五 大建工具ノ部	0	0	0	0	0	
第六 鑄造ノ部	0	0	0	0	0	
第七 硝子ノ部	0	0	0	0	0	
第八 塗敷ノ部	0	0	0	0	0	
第九 燈房ノ部	0	0	0	0	0	
第十 點燈器ノ部	0	0	0	0	0	
第十一 假設物ノ部	0	0	0	0	0	
第十二 器具機械ノ部	0	0	0	0	0	
第十三 何々ノ部	0	0	0	0	0	
附屬建物	0	0	0	0	0	
第二十一 外構諸門ノ部	0	0	0	0	0	
第二十二 道路橋梁ノ部	0	0	0	0	0	
雜	0	0	0	0	0	
第二十三 給與ノ部	0	0	0	0	0	
第二十四 何々ノ部	0	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	0	

○殘高合計ノ内材料ノ現在代價ヲ包含スルトキハ其金額ヲ備考ニ記載スヘシ

竣 功 内 譯				竣
数量	金 員	備 考	摘 要	単位
0	0	埋立地平均用	<u>練砂利地形費</u> 川砂利 川砂ト セメソト 生石灰 何人々 何足々 計	坪 樽 買 人
0	0			
0	0			
0	0			
0	0	側石其外何々用 モルタル製造用 同上 同上	<u>地中煉化石積費</u> 燒過煉化石 竝煉化石 川セメソト 生石灰 松何積 火方人 何足々 計	本 坪 樽 買 本 人
0	0			
0	0			
0	0			
0	0	彫刻据付用 石工手傳其他何々用	<u>除水費</u> 石何炭 火夫 何々 計	斤 人
0	0			
0	0			
0	0			
0	0	附地履石窓蓋石等石造筋交石其他何々用 幅木石其他何々用 柱石用 モルタル製造用		
0	0			
0	0			
0	0			

功 内 譯				竣 功
数量	金 員	備 考	摘 要	数量
0	0	練砂利用 同上 同上 練砂利調合及打堅用	<u>本館ノ部</u> 第一地形ノ部 根伐費 人足 何々 計 堀板費 諸木脊板 杉丸太 何人足 何々 計 <u>割栗石地形費</u> 割栗石利 川砂利 何人足 何々 計 <u>杭打地形費</u> 松為木長何開栄口何寸 何々 何工 大人足 計	0
0	0			
0	0			
0	0			
0	0	價過及中仕切床下地中割其他何々用 同上極筒其他何々用 モルタル製造用 同上 同上 同上 煉化石積方用 モルタル製造用 積方手傳其他何々用		0
0	0			
0	0			
0	0			
0	0	蒸汽唧筒用 蒸汽火焚用		0
0	0			
0	0			
0	0			

功 内 譯			竣 功 内		
数量	金 員	備 考	備 考	数量	金 員
	圓 銭 厘				圓 銭 厘
0	0	同 上	木製階段費	尺	0
0	0		機 材	尺	0
0	0		槍 材	尺	0
0	0		何		0
0	0		計		0
0	0		第六合計		0
0	0	同 上	第七器具ノ部		
0	0		唐 戸 費		
0	0		槍 材	尺	0
0	0		眞鍮製蝶番	箇	0
0	0		何		0
0	0		計		0
0	0	陸家根其他何々用	窓及硝子障子費		
0	0		槍 材	尺	0
0	0		眞鍮線リ金物	組	0
0	0		何		0
0	0		計		0
0	0		第七合計		0
0	0	橡側其他何々用	何		0
0	0		何		0

譯		竣 功 内 譯		
備 考	備 考	数量	金 員	備 考
			圓 銭 厘	
段板並木端込被取身柱其他何々用 基板其他何々用	何		0	
	何		0	
	何		0	
	計		0	
	第五合計		0	
	第六大工ノ部			
	階 下 費			
	槍 材	尺	0	0
	松 材	尺	0	0
	何		0	0
計		0	0	
瓦葺瓦小切同ノ並 鈎込用	階 上 費			
	機 材	尺	0	0
	槍 材	尺	0	0
	何		0	0
	計		0	0
	小 屋 費			
	松 材	尺	0	0
	槍 材	尺	0	0
	何		0	0
	計		0	0
板及硝子障子角切同ノ並 (又ハ眞鍮材通算價) 鈎込用	出入口窓枠費			
	機 材	尺	0	0
	槍 材	尺	0	0
	何		0	0
	計		0	0
	致唐其他何々用			
	出入口窓枠並機材其他何々用			
	計		0	0
	二階梁用			
	床板障子目及掃水其他何々用			
大引及掃水其他何々用				
二階梁用				
床板障子目及掃水其他何々用				
梁及合掌其他何々用				
致唐及東方杖其他何々用				

竣功内譯		竣功内譯	
備考	摘要	数量	金員
同 上	第十一塗師ノ部 ペンキ塗費	斤	0
	ペンキ	斤	0
	節止油	斤	0
	何々	斤	0
	計		0
	ワニス塗費	罐	0
	ワニス	罐	0
	紙	罐	0
	何々	罐	0
	計		0
棟敷並飾用 同上灰受用	コールター塗費	升	0
	コールター	升	0
	氣發油	升	0
	何々	升	0
煉房用 蒸汽或ハ温水用	漆塗費	升	0
	生漆	升	0
	何々	升	0
	何々	升	0
	第十一合計		0

竣功内譯		竣功内譯		
摘要	数量	金員	備考	
亞鉛板張費	單位	0	棟側其他何々用	
前葉締高	實	0		
亞鉛板減金平額	實	0		
何々	實	0		
計		0		
軒樋堅固費	實	0		堅固用 軒樋及呼吸其他何々用
鐵鐵樋	實	0		
亞鉛引鐵板	實	0		
何々	實	0		
計		0		
何々	實	0		
何々	實	0		
何々	實	0		
計		0		
第九合計		0		
第十硝子ノ部	單位	0	硝子硝子用 欄間用	
硝子費	方尺	0		
硝子板正二分厚	方尺	0		
同正一分厚	方尺	0		
何々	方尺	0		
計		0		
何々	方尺	0		
何々	方尺	0		
何々	方尺	0		
計		0		
第十合計		0		

竣功内譯				竣	
摘要	数量	金員	備考	摘要	
何々				第十四點燈ノ部	
何々	0	0		電氣燈費	
何々	0	0		燈籠	
計				電線	
第十五合計				何々	
第十六便器ノ部				計	
便器				瓦斯燈費	
西洋形便器	0	0	便所用	燈籠	
水溜桶	0	0	便器洗滌用	電管	
何々	0	0		何々	
計				計	
何々	0	0		何々	
何々	0	0		何々	
計				計	
第十六合計				第十四合計	
第十七請負ノ部				第十五避雷針ノ部	
請負費				避雷針費	
何々請負費	0	0	何所付ノ材料工事費等何	避雷針板	
何々請負費	0	0	ノ請負員設計費及仕掛ニ	何々	
何々	0	0	付居アルヲ以テ略ス	計	
計				何々	
何々	0	0		計	
何	0	0			
追次締高					

功内譯			竣功内		
数量	金員	備考	摘要	数量	金員
0	0	點燈用	第十二點ノ部		
0	0	架設用	費		
0	0		砂利	0	0
0	0		石灰	0	0
0	0		何々	0	0
0	0		計		
0	0		何々	0	0
0	0		何々	0	0
0	0		計		
0	0		第十二合計		
0	0		第十三煉房ノ部		
0	0		煉爐費		
0	0		寒水石製前飾	0	0
0	0		硝子石製止水石	0	0
0	0		何々	0	0
0	0		計		
0	0		暖温機費		
0	0		蒸氣	0	0
0	0		鐵管	0	0
0	0		何々	0	0
0	0		計		
0	0		何々	0	0
0	0		何々	0	0
0	0		計		
0	0		第十三合計		

功 内 譯			竣 功 内		
数量	金 員	備 考	摘 要	数量	金 員
0	0	根石其他何々用 崩成立用	養生費	0	0
0	0		杉四分板	0	0
0	0		拾脊板	0	0
0	0	地形杭木用 捨算盤木用	何	0	0
0	0		何	0	0
0	0		何	0	0
0	0		何	0	0
0	0		何	0	0
0	0	突堅用 上敷用	第十九器具機械ノ部 器具機械費	0	0
0	0		蒸汽灰泥製煉器 水準器	0	0
0	0		何	0	0
0	0	根石高欄其他何々用	附屬建物 第二十一外構諸門ノ部 門 費	0	0
0	0		鐵製門扉	0	0
0	0		何	0	0
			計		

竣 功 内 譯			功 内 譯		
備 考	摘 要	数量	金 員	備 考	数量
入口窓枠養生其他何々用 同上有合品ヲ用ヒタリ	何		0	下小屋用 板隠用	
	前葉縮高		0		
	何		0		
	計		0		
	第十七合計		0		
	第十八假設物ノ部				
	下小屋板隠其外費				
	杉丸太長二間末口三寸五分	本	0		
	同長二間半四寸角	”	0		
	何		0		
計		0	足代又ハ移築隠板其他何々用 歩取用値有合品ヲ用ヒタリ		
足代費		0			
杉丸太二間末口三寸五分	本	0			
踏木脊板	本	0			
何	枚	0			
計		0			
地質試験費		0		假櫓取立用 同上	
杉丸太長何間末口何寸	本	0			
切 繩	本	0			
何		0		建造方其他何々用 同上	
計		0			
水盛遣方費		0			
杉丸太	本	0			
同板	枚	0			
何		0			
計		0			

明治三十三年七月 總會計檢査院第四號

力 器 具 機 械 統 計						
亡失毀損高		不用品拂出高		計		備 考
數 量	金 員	數 量	金 員	數 量	金 員	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
	0		0		0	
				0	0	
				0	0	
				0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	0	
	0		0		0	
	0		0		0	

二九三

明治三十三年七月 總會計檢査院第四號

竣 功 内 譯				竣	
摘 要	數 量	金 員	備 考	摘 要	備 考
何				堤	
何	0	0		何	
何	0	0		何	
何				何	
計				計	
第二十二合計		0		石	
雜				垣	
第二十三給與ノ部				計	
何				松九本長何間不口何寸	
何	0	0		松	
何	0	0		何	
何				何	
計				計	
第二十三合計		0		何	
總計		0		何	
		0		計	
		0		第二十一合計	
				第二十二道路橋梁ノ部	
				道 路 費	
				碎	
				川	
				何	
				計	
				橋 梁 費	
				何	
				何	
				計	

二九三

現在高			材料勞			
數量	金員	備考	摘要	使用高		單位
				數量	金員	
0 0 0	0 0 0		材料 燒過煉化石 竝煉化石 何々々	本	0	0
				人	0	0
				器	0	0
			勞 煉化登職 大何工々 器具機械 蒸汽機械 何何機械 計	人	0	0
				器	0	0
				蒸	0	0
				汽	0	0
				機	0	0
				械	0	0
				々	0	0
				計	0	0
				合計	0	0

職官兵名印		材料	
年	月	摘要	單位

一 竣功明細書ニ掲クル科目ハ設計豫算書ト同一ノ區分ニ依ルヘシ
 一 設計ノ變更ニ依リ科目金額ニ増減ヲ生シタルモノ若クハ彼此流用シタルモノアルトキ
 一 豫算繰越ニ係ル事業及繼續事業ニシテ當該年度末日ノ現況ニヨリ既済部分ニ就テ竣功明
 一 細書ヲ調整スルトキハ其使用高ヲ竣功高ノ欄ニ掲ケ竣功年度ニ在リテハ前年度ノ金額ヲ
 一 繰越シ各其旨ヲ備考ニ記載スヘシ
 一 請負事業ニシテ證據書ニ記載スヘシ
 一 假設工事ニ係ル費用ハ本工事ノ費用ト區分スヘシ
 一 無代價使用ノ物品ハ其數量及見積價格ヲ添書シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ

備 考	前年度実績高		本年度設計算高		増		減		現 計	
	圓	銭	圓	銭	圓	銭	圓	銭	圓	銭
何縣何郡何村大字何々河川分岐口	0		0		0		0		0	
何縣何郡何村大字何々用水又ハ取水ノ區分	0		0		0		0		0	
何縣何郡何村河川合流口管轄本川何川	0		0		0		0		0	
何縣何郡何村ヨリ何村ニ至ル河川	0		0		0		0		0	
	0		0		0		0		0	
	0		0		0		0		0	
	0		0		0		0		0	

摘 要	竣 功 高		殘 高		備 考	設計豫
	圓	銭	圓	銭		
新 設 工 事						
水 制 工 費						
左岸第何號	0		0		何縣何郡何村大字何々	0
右岸第何號	0		0		何々ニ付歩道竣功ノ分	0
假 設 工 事	0		0			0
請 負 工 事	0		0		何年何月分仕拂命令第何號	0
何 々	0		0			0
計	0		0			0
護 岸 工 費						
左岸第何號	0		0		長何間幅何間此平坪	0
右岸第何號	0		0			0
何 々	0		0			0
計	0		0			0
築 堤 工 費						
第 何 號	0		0			0
何 々	0		0			0
計	0		0			0
築 堤 工 費						
何 々	0		0			0
何 々	0		0			0
計	0		0			0
開 鑿 工 費						
何 々 開 鑿	0		0		何縣何郡何村ヨリ何村ニ至ル河川本河川ニ	0
何 々	0		0		至ル又ハ取水ニ付	0
計	0		0			0

現 計	摘 要	竣 功 高		殘 高		備 考	前年度繰越額
		千 圓	百 圓	千 圓	百 圓		
0	新設工事合計	0	0	0	0		0
0	修繕工事	0	0	0	0		0
0	水制工費	0	0	0	0		0
0	何々	0	0	0	0		0
0	計	0	0	0	0		0
0	何々	0	0	0	0		0
0	計	0	0	0	0		0
0	修繕工事合計	0	0	0	0		0
0	總計	0	0	0	0		0

本年度設計額	増	減	現 計	摘 要	竣 功 高		殘 高	
					千 圓	百 圓	千 圓	百 圓
0	0	0	0	閘門工費	0	0	0	0
0	0	0	0	何々 閘門	0	0	0	0
0	0	0	0	計	0	0	0	0
0	0	0	0	洗滌工費	0	0	0	0
0	0	0	0	何々	0	0	0	0
0	0	0	0	計	0	0	0	0
0	0	0	0	樋管工費	0	0	0	0
0	0	0	0	石煉木何	0	0	0	0
0	0	0	0	造造	0	0	0	0
0	0	0	0	造造	0	0	0	0
0	0	0	0	計	0	0	0	0
0	0	0	0	全口分界工費	0	0	0	0
0	0	0	0	導水洗床	0	0	0	0
0	0	0	0	何々	0	0	0	0
0	0	0	0	計	0	0	0	0
0	0	0	0	浚渫工費	0	0	0	0
0	0	0	0	何々 浚渫	0	0	0	0
0	0	0	0	計	0	0	0	0

内 譯		竣 功 内		
金 員	備 考	摘 要	數 量	金 員
0	土壘下地杭	上 層 前葉締高 人 造 石	才	0
0	土壘水	計		0
0		第何號突堤合計		0
0	長何間幅何間高何尺	何々築堤	坪	0
0	剛床身何間幅何間高何尺	土 積	坪	0
0	石礎何	石 積	坪	0
0	何根	何々開鑿	坪	0
0		土 積	坪	0
0		兩岸石積	坪	0
0		何根	坪	0
0	水流長何間幅何間	根 堀 土 積 板	坪 枚	0
0		排 石 種 何	斤 斗	0
0		水 炭 油		0
0		計		0

譯		竣 功 内 譯		
備 考	摘 要	數 量	金 員	備 考
	左岸第何號護岸	束	0	
	沈 床	東	0	
	粗帶杭何	坪	0	
	栗 石	坪	0	
	割 角 礫 何	坪	0	
	計		0	
	第何號突堤	束	0	
	基礎沈床	東	0	
	粗帶杭何	坪	0	
	栗 石	坪	0	
	計		0	
	上 層	坪	0	
	何 貫 目 石	才	0	
	何 才 角 石	才	0	
	追次締高		0	

功内譯						竣功		
摘要	数量	金員		備考	摘要	数量		
		圓	割厘				單位	
石及煉化積				壁				
石 疊				礎				
何 々				計				
護岸沈床				何 々				
何 々				計				
同上層				何 々				
何 々				計				
何 々				何 洗堰合計				
何 々				木造樋管				
何 々				假締切				
何 々				土子				
何 々				二子				
何 々				何 々				
何 々				計				
何 々				基礎				
何 々				掘割土積				
何 々				松板長何間末口何寸				
何 々				何 々				
何 々				計				
枕土臺下階板十字下層板土臺下地枕								

竣功内譯						竣功		
摘要	数量	金員		備考	摘要	数量		
		圓	割厘				單位	
石及煉化積				壁				
石 疊				礎				
何 々				計				
護岸沈床				何 々				
何 々				計				
同上層				何 々				
何 々				計				
何 々				何 洗堰合計				
何 々				木造樋管				
何 々				假締切				
何 々				土子				
何 々				二子				
何 々				何 々				
何 々				計				
何 々				基礎				
何 々				掘割土積				
何 々				松板長何間末口何寸				
何 々				何 々				
何 々				計				
枕土臺下階板十字下層板土臺下地枕								

計		竣 功 内 譯				
計		備 考	摘 要	數量	金 員	
數 量	金 員				圓	角
0	0		何	0	0	
0	0		何	0	0	
0	0		何	0	0	
0	0		計	0	0	
0	0		左岸第何號水制合計	0	0	
0	0		何	0	0	
0	0		何	0	0	
0	0		何	0	0	
0	0		計	0	0	
0	0		總計	0	0	

竣 功 内 譯		備 考	摘 要	數量	金 員		備 考
數 量	金 員				圓	角	
0	0		何	0	0		
0	0		何	0	0		
0	0		計	0	0		
0	0		何	0	0		
0	0		何	0	0		
0	0		計	0	0		
0	0		合流口付替合計	0	0		
0	0		何汽船浚深	0	0		操業口數何日間 浚深土砂何坪
0	0		洪(平)水路浚深	0	0		
0	0		何	0	0		
0	0		何	0	0		
0	0		計	0	0		
0	0		何	0	0		
0	0		何	0	0		
0	0		計	0	0		
0	0		何汽船浚深合計	0	0		
0	0		修繕工事	0	0		
0	0		左岸第何號水制	0	0		
0	0		何	0	0		
0	0		何	0	0		
0	0		計	0	0		

職官兵名印 年 月 日		材 料 現 在 高			
		編 要	數 量	金 員	備 考
租帶杭何	單位	0	0		
	束	0	0		
桑梢木々計	單位	0	0		
	束	0	0		

材 料 勞 力 統		使 用 高		亡 失 毀 損 高		不 用 品 拂 出 高			
		數 量	金 員	數 量	金 員	數 量	金 員		
		單位	圓 錢 厘	單位	圓 錢 厘	單位	圓 錢 厘		
材 料 粗帶杭三二何 勞 石煉何	束 笹房 人	桑梢木	0	0	0	0	0	0	0
		繩	0	0	0	0	0	0	0
		子	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0	0	0
		工	0	0					
總 計			0		0				0

竣 功 内 譯														
高	竣 功 高						損 失 高						合 計	
	前年度迄		本 年 度		計		前年度迄		本 年 度		計		数量	金額
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
國庫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地方	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
國庫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地方	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

竣 功														
備 考	摘 要	般 計 高		竣 功 高										
		数量	金額	前年度迄		本 年 度		計						
				数量	金額	数量	金額	数量	金額					
	運 送 部													
	前業締高			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内譯													
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	建築用汽車部			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内譯													
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	建築用具部			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内譯													
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	間			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	内譯													
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	何			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

職官氏名印
年月日

明治何年度

鐵道作業費
事業費

保存費第何號何所修繕(補充費第何號何々補充)

竣工明細書

年 月 日 起工
年 月 日 竣工

廳 名

設計ノ變更其他ノ事故ニ依リ豫算額ニ増減ヲ生シタルトキ又ハ設計ヲ變更シタルモノアルトキハ其事ヲ備考ニ記載スヘシ
 工事中災害等ニ因リ損害ヲ生シ手戻リ工事ヲ爲シタルモノアルトキハ其狀況並損害額等ヲ備考ニ記載スヘシ
 無代價使用ノ物品ハ其數量及見積價格ヲ朱書シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ
 部分請負ニシテ設備書ニ設計仕様ヲ詳記シタルモノハ其金額ノミヲ掲ケ事由ヲ備考ニ記載スヘシ
 竣工明細書提出後數量金額ニ異動ヲ生シタルトキハ其時々之ヲ報告スヘシ
 支出未済ニ係ルモノアルトキハ其數額金額ヲ備考ニ記載スヘシ但材料ニ在リテハ材料受拂欄ノ備考ニ於テ其數額金額ヲ受拂及殘ニ區分記載スヘシ

摘要	設計検査員	竣工						未竣工	備考
		前年度迄		本年度		計			
		数量	金額	数量	金額	数量	金額		
勞力ノ部	人	0	0	0	0	0	0		
大工	人	0	0	0	0	0	0		
土工	人	0	0	0	0	0	0		
足方	人	0	0	0	0	0	0		
足職	人	0	0	0	0	0	0		
計		0	0	0	0	0	0		
材料ノ部	本枚尺本本丁本磅	0	0	0	0	0	0		
厚板		0	0	0	0	0	0		
角板		0	0	0	0	0	0		
丸太		0	0	0	0	0	0		
長貨		0	0	0	0	0	0		
末長		0	0	0	0	0	0		
口幅		0	0	0	0	0	0		
厚板		0	0	0	0	0	0		
計		0	0	0	0	0	0		
雜費ノ部		0	0	0	0	0	0		
旅費		0	0	0	0	0	0		
工費		0	0	0	0	0	0		
何		0	0	0	0	0	0		
受賃ノ部		0	0	0	0	0	0		
勞材		0	0	0	0	0	0		
何		0	0	0	0	0	0		
力料費		0	0	0	0	0	0		
計		0	0	0	0	0	0		
合計		0	0	0	0	0	0		

拂												備 考	
拂 出										残		備 考	
使 用		亡失毀損		不用引継済		組 換		計		数量	金員		
数量	金員	数量	金員	数量	金員	数量	金員	数量	金員				
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		○不用材料ヲ他ニ引継タルトキハ不用引継済ノ區ニ掲ケ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ ○無代價品ノ受拂ハ其數量及見積價格ヲ朱書シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ ○元木ヲ以テ受入レタル後造材ヲ爲シタルモノノ類ハ其數量價格ヲ一旦拂出中組 換ノ區ニ掲ケ更ニ製品ノ名稱ヲ以テ其數量價格ヲ受入中組換ノ區ニ掲ケ其事由 ヲ備考ニ記載スヘシ
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

材											
受 入										計	
前年度ヨリ		本年度		組 換		計		数量	金員		
数量	金員	数量	金員	数量	金員	数量	金員				
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	職官氏名印 年 月 日	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

明治三十二年七月 造 會計検査院第四號

現 計		摘 要	前年度達成率		本年度達成率		計 算		備 考	
円	銭		円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
0	0	陸 線 ノ 部	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	海 底 線 ノ 部	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	通 信 器 械 ノ 部	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	試 験 室 ノ 部	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	海 底 線 陸 上 室 ノ 部	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	給 與 ノ 部	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	計	0	0	0	0	0	0	0	0
		(電話線新設(増設)ノ例)								
		局 内 工 事 ノ 部								
		空 架 線 工 事 ノ 部								
		加 入 者 室 内 工 事 ノ 部								
		地 下 線 及 空 架 ケーブル 布 設 工 事 ノ 部								
		マン ボール ノ 部								
		設 管 布 設 工 事 ノ 部								
		何 所 何 處 設 管 布 設 工 事 ノ 部								
		計								

備 考	
<p>明 治 何 年 度</p> <p>某所某所開電信線新設(増設)費(何電話線新設(増設)費)</p> <p>竣 功 明 細 書</p> <p>年 月 日 起 工</p> <p>年 月 日 竣 功</p> <p>廠 名</p>	
<p>一 設計ノ變更等ニ依リ豫算額ニ増減ヲ生シタルモノハ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ</p> <p>一 材料ノ器械ニシテ無代價使用ノモノハ其數額及見積價格ヲ朱書シ其事由ヲ備考ニ記載ス</p> <p>一 一部分ノ預費ニシテ豫算額ニ設計仕樣ヲ詳記シタルモノハ竣功内譯欄相當部ニ其金額ノミヲ</p> <p>一 假設工事ニ係ル費用ハ本工事ノ費用ト區分スヘシ</p> <p>一 假設工事ニ係ル費用ハ本工事ノ費用ト區分スヘシ</p> <p>一 亡失毀損及不用品拂出ハ竣功内譯中其部ノ末ニ記入シ事由ヲ備考ニ記載スヘシ</p>	

前年度残高		本年度設計繰開高		増	減	現計	摘 要	竣功高	
圓	銭	圓	銭	圓	銭	圓		銭	圓
0		0		0	0	0	陸 線ノ部	0	
0		0		0	0	0	海 底 線ノ部	0	
0		0		0	0	0	通 信 器 械ノ部	0	
0		0		0	0	0	試 験 室ノ部	0	
0		0		0	0	0	海 底 線 陸 上 室ノ部	0	
0		0		0	0	0	給 與ノ部	0	
0		0		0	0	0	計	0	
							(電話線新設(増設)ノ例)		
							局 内 工 事ノ部		
							空 架 線 工 事ノ部		
							加 入 者 室 内 工 事ノ部		
							地 下 線 及 空 架 ケーブル 布 設 工 事ノ部		
							マンホールノ部		
							鐵 管 布 設 工 事ノ部		
							何 所 何 也 鐵 管 布 設 工 事ノ部		
							計		

残 高	備 考	設計繰算高		増	減
圓		銭	圓	銭	圓
0	延長何町何間 何箇所 延長何町何間 何箇所 延長何町何間 鐵管數何條 " 何町何間 " 何條	0		0	0
0		0		0	0
0		0		0	0
0		0		0	0
0		0		0	0
0		0		0	0
0		0		0	0

計		竣 功 内 譯				
数量	金員	備考	摘要	数量	金員	備考
0	0		材料			
0	0		何箇燃中			
0	0		何地何			
0	0		器			
0	0		電話機			
0	0		何上電話			
0	0		工事用器具			
0	0		(局内工事ノ部ニ同シ)			
0	0		勞力			
0	0		(同上)			
0	0		雜			
0	0		(同上)			
0	0		合計			
0	0		地下敷及空架ケーブル布設工事ノ部			
0	0		(空架線工事ノ部ニ同シ)			
0	0		マンホールノ部			
0	0		(同上)			
0	0		鐵管布設工事ノ部			
0	0		(同上)			
0	0		何所河底埋管布設工事ノ部			
0	0		(同上)			
0	0		總計			

計		竣 功 内 譯				
数量	金員	備考	摘要	数量	金員	備考
0	0		試驗室ノ部			
0	0		(総務課機功明保管ノ例ニヨル)			
0	0		海底線陸上室ノ部			
0	0		(同上)			
0	0		給與ノ部			
0	0		旅手何			
0	0		費當々			
0	0		總計			
0	0		(電話線新設(増設)ノ例)			
0	0		局内工事ノ部			
0	0		材			
0	0		何心入ケーブル			
0	0		何管フコナイト線			
0	0		松何			
0	0		器			
0	0		何人付並列複式交換器			
0	0		市内中繼器			
0	0		市外中繼器			
0	0		何			
0	0		工事用器具			
0	0		燒鐵何			
0	0		綬			
0	0		總計			
0	0		加入者室内工事ノ部			
0	0		材			
0	0		何管フコナイト線			
0	0		追次縮高			

印 名 氏 官 職	年 月 日	越 越 越	
		本質ノ箇	坐箇
省料	大 線 子 計 局 料	0	0
本材	九 鋼 磚 何 何 何 何 何 何	0	0
電柱	何 何 何 何 何 何	0	0
通信	何 何 何 何 何 何	0	0
印電	何 何 何 何 何 何	0	0
何材	何 何 何 何 何 何	0	0
(本省=同ノ)	計 局 料	0	0
通信	何 何 何 何 何 何	0	0
(本省=同ノ)	計 局 料	0	0
合計	何 何 何 何 何 何	0	0
總計	何 何 何 何 何 何	0	0

○陸達第七十六號

野戰砲兵射擊教範中別冊ノ通改正セラル (別冊略ス)

明治三十二年八月五日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第七十七號

臺灣守備歩兵大隊ハハ歩兵射擊教範第十一章第百五十二ノ規定ニ依ラス射擊徽章左表ノ箇數ヲ附與スルコトニ定メラル

明治三十二年八月八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

區分	年 度	三十二年	三十三年
第一種	大隊下士	二	二
第二種	大隊下士	三	三
第三種	中隊兵卒	四	九

○陸達第七十八號

要塞地帯法施行ノ事ニ關シテハ要塞司令官ハ當該築城部支部長ニ命令ヲ下スコトヲ得但シ要塞司令官ノ職務ヲ行フ衛戍司令官ハ該支部長ニ協議スヘシ

明治三十二年八月十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第七十九號

左ノ令達ハ銃砲火藥類取締法施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十二年八月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 明治十三年達乙第二十二號銃器彈藥火藥賣收順序
- 一 明治十八年達乙第百二號小銃並彈藥火具其他不用兵器ノ類拂下ノ件
- 一 明治十九年陸軍省令乙第十三號村田銃並屬品等拂下ノ件

○陸軍第八十號

明治二十五年陸軍第二十一號軍隊經理條例中左ノ通改正ス

明治三十二年八月十六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

- 第十三條中「日記簿締切ノ許ヲ計算表適宜ノ位置ニ改ム」
- 第十八條中「日記簿締切ノ許ヲ整理簿適宜ノ位置ニ改ム」
- 第四十八條第一中「職工場管理其帳簿ノ検査ヲ職工ノ指揮監督工場ノ管理ニ改ム」
- 第四十九條 委員軍吏ノ事務左ノ如シ
 - 一 聯隊ニ在テハ被服品及被服金ノ計算記簿ヲ掌リ工場若ハ倉庫ニ於ケル帳簿ノ整理ヲ監督ス
 - 二 獨立大隊ニ在テハ被服品及被服金ノ被服手入品料ニ屬スル計算記簿ヲ掌リ工場若ハ倉庫ニ於ケル帳簿ノ整理ヲ監督ス
 - 三 聯隊下大隊ニ在テハ被服製作品被服手入品料ニ屬スル計算記簿ヲ掌リ倉庫ニ於ケル帳簿ノ整理ヲ監督ス
- 第五十條中被服金ノ下獨立大隊ニ在テハ被服手入品料共ニノ割註ヲ加フ
- 第五十一條中「被服修理料被服手入具永續料ヲ被服手入品料ニ改ム」

第五十四條 削除

第五十五條 被服手入品料ハ大隊長ノ意見ヲ以テ各中隊長ニ經理ヲ分任スルコトヲ得

第五十七條 被服ハ豫算ノ金額ニ基キ給與令ノ規定ニ依リ需用ニ臨ミ委員ニ於テ請求書ヲ作り地

質ハ直ニ金額ハ金櫃委員ヲ經テ監督部ニ請求スヘシ

第五十八條 特種品若ハ金額五百圓以上ノ購買或ハ製作品アルトキハ委員ニ於テ數額及納期ヲ定

メ隊長ヨリ監督部長ヲ經テ糧餉部主管ニ其ノ契約ヲ委託スヘシ

前項ノ外直接契約スヘキモノハ隊長ノ認可ヲ得テ之ヲ實施スヘシ

第五十九條 總テ供給者ノ金員請求書ハ被服委員ニ於テ調査檢印シ被服金帳ニ登記ノ後金櫃委員

ニ移シ仕拂フモノトス

第六十條第一行中「係ル」ノ二字ヲ削ル

第六十一條數額ヲ「數額」ニ改ム

第六十三條 被服地質ハ當該年度ノ豫算金額ニ基キ必要ノ品種ヲ請求スルコトヲ得故ニ各隊ニ在

リテハ在庫品ノ實數ヲ願慮シ彼是酌量實際調製ニ要スル地質ノ數額ヲ算定シ年度初月ニ於テ隊

長ヨリ監督部長ニ報告スヘシ

第六十四條 被服ハ縫工、靴工及縫靴工卒ヲシテ製作セシムヘシ其ノ業務繁劇ナルトキハ市井ノ

職工ヲ備役シ若ハ市井ノ營業者ニ受負ハシムルコトヲ得

第六十五條 總テ調製セシ被服品ハ監督部長ノ閱檢ニ供シ第一種帽第二種帽絨衣袴夏衣袴外套

及背囊ニハ檢印檢閱ヲ受クヘシ

第六十六條 監督部長ノ閱檢ニ供セサル被服ハ供用スルコトヲ許サス若シ止ムヲ得ス供用シタルトキハ後日閱檢ノ際其ノ事由ヲ申述シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六十七條 削除

第六十八條中「小被服裝具寢具ハ」ヲ「被服ハ總テ」ニ改メ「中隊」ノ「二字」ヲ削ル

第六十九條 特務曹長及下士以下ノ被服ハ該隊ノ經理ヲ以テ漸次左表ノ員數ヲ所持セシムヘシ

品目	定數	區分		
		第一裝用	第二裝用	第三裝用
第一種帽	一箇	正裝禮裝軍裝用		
前立	一箇	正裝用		
第二種帽	二箇	常用	同上	
正衣袴共肩章	一組	正裝禮裝用		
軍衣袴	二組	通常禮裝軍裝用	常用	
袂衣袴共肩章	三組	正裝軍裝用	常用	同上
夏衣袴	三組	常用	同上	同上
外衣袴	一箇	同上		
略衣袴	三組	練兵及營內用	同上	同上
軍靴	三組	正裝禮裝軍裝用	常用	同上
軍襪	一箇	常用		

第七十條 各隊ニ於テ毎年度新調スル被服ハ該隊保管ノ職用被服ト順次交換シテ支給スヘシ

第七十二條 削除

〔參照〕

陸海第二十一號軍隊經理條例(明治二十五年三月二十二日)抄録

第十三條 委員中交替アルトキハ前任及後任ノ者並ニ其他ノ委員一同日記簿締切ノ許ニ連署捺印シテ事務ノ受授ヲ證スヘシ若シ前任及後任者同時ニ受授スルコト能ハサル場合ニ在テハ前任者其他ノ委員ト連署捺印シ後任者其職ニ就クトキハ更ニ他ノ委員ト連署捺印スヘシ但軍更交代ノトキハ本文ノ外尙會計規則ニ據ル

第十八條 前條閱檢又ハ臨時檢査終ルトキハ監督部長日記簿締切ノ許ニ檢査終了ノ旨ヲ記シ署名捺印スルモノトス

第四十八條 委員中隊長及中少尉ノ事務左ノ如シ

一 聯隊及獨立大隊ニ在テハ被服物品ノ購辦事務及被服製作品ノ檢査出納分配貯藏保全新陳交換職工場管理其帳簿ノ檢査倉庫管理ノ事ヲ掌ル

第四十九條 委員軍吏ノ事務左ノ如シ

一 聯隊ニ在テハ被服品及被服金並ニ計算記簿ノ事ヲ掌ル

二 獨立大隊ニ在テハ被服品及被服金並ニ被服修理料被服手入具永續料ニ屬スル計算記簿ノ事ヲ掌ル

三 聯隊下大隊ニ在テハ被服製作品ノ帳簿記帳及被服修理料被服手入具永續料ニ屬スル計算記簿ノ事ヲ掌ル

第五十條 聯隊及獨立大隊ニ在テハ被服購辦品ノ檢査及其品質價格ノ規定其他被服物品又ハ被服金ノ收支證明物品ノ保管廢物處分ノ事ハ委員連帶シテ之ヲ掌ル

第五十一條 聯隊下大隊ニ在テハ被服物品及被服修理料被服手入具永續料ノ收支證明並ニ物品保管ノ事ハ委員連帶シテ之ヲ掌ル

第五十四條 委員ハ縫靴工長若クハ下長ヲ指揮シ縫靴工及縫靴工卒ヲシテ被服ノ製作ニ從事セシムヘシ

第五十五條 被服修理料被服手入具永續料ハ大隊長ノ意見ヲ以テ適宜各中隊ニ使用スヘキ金額ヲ定メ其經理ヲ中隊長ニ分任スルコトヲ得

第五十七條 委員ハ被服地質定尺及ヒ金額表若クハ給額ニ基キ需用ニ臨ミ被服地質ハ監督部ニ請求シ金額ハ明細書ヲ作リ之ヲ金額委員ニ致スヘシ

第五十八條 被服品中監督部ノ契約ニ基キ調辦スヘキモノハ委員ニ於テ豫テ其數額ヲ定メ同部ニ通報シ置キ需用ニ臨ミ供給者ヲシテ納付セシメ其際直接購買スヘキモノハ隊長ノ認可ヲ得テ委員之カ契約ヲ爲スヘシ

第五十九條 總て代價ノ仕拂ハ其病人ノ請求書ニ委員檢印シテ金庫委員ニ致スヘシ
 第六十條 被服ニ係ル積立金ハ當該隊長ノ認可ヲ得テ定額ニ不足ヲ生スルトキ其補填ニ充テ其他被服ニ係ル一切ノ費途ニ充ツルコトヲ得
 第六十一條 軍隊ニ於テ被服品ノ委託購買ヲ要スルトキハ其數量ヲ定メ監督部ヲ經由シテ被服廠ニ委託スヘシ其購買ハ該廠ノ支辨ニ屬ス
 第六十二條 被服ハ其年度毎ニ定數ヲ調製スヘシ然レトモ第一種背蓋飯盒水筒等ノ如キ齊一ヲ要スルモノニ在テハ年度毎ニ調製セサルモ妨ケナシ但小被服器具履具ニ餘額アルトキハ當該隊長ノ認可ヲ受ケ必要ノ被服品ニ替ヘ調製スルコトヲ得
 第六十三條 被服ハ縫工靴工及縫靴工率ヲシテ製作セシメ其業務繁劇ナルトキハ市井ノ職工ヲ使用スルコトヲ得
 第六十四條 被服ハ縫工靴工及縫靴工率ヲシテ製作セシメ其業務繁劇ナルトキハ市井ノ職工ヲ使用スルコトヲ得
 第六十五條 總て調製ノ被服ハ監督部長閣檢ノ際檢査ヲ受クヘシ但大被服及背蓋ニ限リ監督部長ノ監印ヲ受クルモノトス
 第六十六條 監督部長ノ檢査ヲ受クサル被服ハ現用ニ供スルコトヲ許サズ若シ止ラ得サル場合ニ於テ之ヲ供用シタルトキハ後日閉檢ノ際其事由ヲ申述シ檢査ヲ受ケヘシ
 第六十七條 大被服ハ定員ニ基キ定數ヲ以テ聯隊ヨリ大隊ニ交付シ大隊ニ在テハ實際ノ所要ニ應シ之ヲ中隊ニ交付ス獨立大隊ニ在テモ亦之ニ準ス但大隊ニ前給與殘品アルトキハ定數中ニ差額交付スルモノトス
 第六十八條 小被服器具履具ハ應用シ得ル限りハ之ヲ使用セシメ實際中隊ノ所要ニ應ミ大隊ノ請求ニ依リ聯隊ヨリ之ヲ交付ス獨立大隊モ亦之ニ準ス
 第六十九條 下副官及下士以下ノ被服ハ該隊ノ經理ヲ以テ漸次左表ノ員數ヲ所持セシムヘシ(表略ス)
 第七十條 戰時用ノ被服ハ常ニ中隊倉庫ニ預リ置クヘシ其他ノ被服ニ在テモ便宜預リ置クコトヲ得
 第七十二條 平常所用ノ被服ハ出師準備用ト新陳交換ヲ爲スヘシ
 ○陸軍第八十一號
 三十二年式軍刀制式別紙圖面ノ通定メラル (別紙略ス)
 明治三十二年八月二十三日
 陸軍大臣子爵桂 太郎
 ○陸軍第八十二號
 行軍宿營中部隊ニ傳染病者ヲ生シタル場合其他傳染病者若クハ同疑似病者ヲ民舎ニ宿泊セシメタ

ル場合ニ在テハ其病毒ヲ地方ニ散蔓セシメサル様一層消毒法ニ注意スヘク且必要ト認ムル時ハ部隊長事實ヲ其所在地方吏員ニ告知シ消毒及豫防上遺漏ナキ様取計フヘシ
 明治三十二年八月二十八日
 陸軍大臣子爵桂 太郎
 ○陸軍第八十三號
 看護卒教育規則左ノ通定ム
 明治三十二年八月二十八日
 陸軍大臣子爵桂 太郎
 看護卒教育規則
 第一條 看護卒ノ教育ハ戰時ニ於ケル傷病者看護ノ方法ヲ修業セシムルヲ目的トス
 第二條 看護卒ノ教育ハ步兵聯隊ニ於テス其ノ入隊後一箇月間ハ初步ノ軍事教育ヲ授ケ後二箇月間ハ看護學ヲ教授スルモノトス
 第三條 看護學ノ教育ハ一等軍醫一名ヲシテ之ヲ擔任セシメ助手トシテ看護長一名ヲ屬ス
 第四條 看護學教育期中約一箇月間看護卒ヲ所在地衛戍病院ニ通學セシメ看護ノ方法ヲ實修セシム
 前項ノ實修ニ關シテハ衛戍病院長之ヲ指揮監督スヘシ
 第五條 看護學ノ教育終レハ聯隊附軍醫正檢閱ヲ行ヒ其ノ成績ヲ具シ意見ヲ附記シテ聯隊長ニ呈シ同時ニ師團軍醫部長ニ報告スヘシ
 第六條 軍事教育ノ科目ハ左ノ如シ
 學 科
 讀法及勅諭ノ大意
 術 科
 柔軟體操

武官ノ階級及服制ノ概要

各個教練(徒手)

内務書ノ摘要

陸軍禮式ノ摘要

第七條 看護學ノ科目ハ左ノ如シ

學科

術科

勤務學ノ大要

繙帶術

赤十字條約ノ大意

救急術

人體構造及機能ノ概略

患者運搬法

繙帶品ノ用法

看護法

救急法

治療介輔法

○陸軍第八十四號

明治三十一年十二月陸軍第八十四號兵器取扱規則中別紙ノ通改正加除ス

明治三十二年八月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別紙)

一 第一章第三條中「時官相ノ六字ヲ削除ス」

二 第二章第十條中臺南支廠ノ次ニ左ノ二行ヲ加フ

基隆支廠 基隆要塞砲兵大隊

澎湖島支廠 澎湖島要塞砲兵大隊

三 第六章第三十八條中屬品ノ下ニ「繙」ノ四字ヲ加フ

四 同 章第四十六條中彈藥ノ下ニ「器具」ノ二字ヲ加フ

五 同 章第六項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

七 發光信號燈用石油、酒精

六 附則第八十條ヲ刪除ス

七 同第八十一條ヲ第八十條ニ以下逐條繰上フ

(表中改正追加アリ略ス)

○海軍省達第五百二十二號

當直艦規則第六條ヲ左ノ通改正ス

明治三十二年八月九日

海軍大臣山本權兵衛

第六條 當直中ハ當直旗ヲ掲揚スヘシト雖將旗代將旗若ハ先任旗ヲ掲クル軍艦ニ於テハ當直受繼ノ際ノミ之ヲ掲揚スヘシ

上ノ當直艦アル場合ニ於テ首席ニアラサル司令官若ハ司令官ノ規定ニ依リ當直ヲ施行スル軍艦ニ於テハ當直授受ノ際ノミ之ヲ掲揚スヘシ

(参照)

海軍省達第六十二號當直艦規則(明治三十年六月二日抄録)

第六條 當直中ハ當直旗ヲ掲揚スヘシト雖將旗代將旗若クハ先任旗ヲ掲クル軍艦ニ於テハ當直受繼ノ際ノミ之ヲ掲揚スヘシ

○海軍省達第五百二十三號

海軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治三十二年八月十一日

海軍大臣山本權兵衛

第十九條 飾緒ハ將官及參謀官若ハ副官タル佐尉官之ヲ佩用スルモノニシテ參謀官ニアラサル將官ハ正服ニノミ之ヲ用ヒ其ノ他ハ總テノ制服ニ之ヲ用フヘシ

第二十條ニ左ノ一項ヲ加フ

參謀官副官兼務ノ場合ニ在テハ其ノ本職ニ依リ飾緒ヲ佩用スルモノトス

第二十條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十條ノ二 副官タル佐尉官ニシテ飾緒ヲ佩用スヘキ者左ノ如シ

元帥副官

海軍省副官

海軍軍令部副官

鎮守府副官

艦隊副官

要港部副官

臺灣總督府副官並同海軍副官

〔參照〕

海軍省達第百二號海軍服裝規則(明治二十九年十一月二十日)抄錄

第十九條 飾緒ハ將官及參謀佐尉官之ヲ佩用スルモノニシテ將官ハ正服ニノミ之ヲ用ヒ其ノ他ハ總テノ制服ニ之ヲ用フヘシ

第二十條 飾緒ハ其ノ上端ヲ右肩ニ掛ケ長條ハ背後ヨリ胸部ニ繞ラシ短條ト共ニ胸部ノ稍中央上部ニ繫ク其ノ下端ヲ垂ルヘシ

○海軍省達第百五十四號

常備艦隊司令官及鎮守府艦隊司令官ニ於テ交際上外國人ノ響應又ハ接待ヲ要スルトキハ左記ノ年額ヲ最上限トシ其以內ノ實費ヲ以テ處辨スヘシ

明治三十二年八月十四日

海軍大臣山本權兵衛

常備艦隊司令官

年額 三百六十圓

鎮守府艦隊司令官

年額 二百四十圓

○海軍省達第百五十五號

明治三十三年達第百二十六號左記中大佐ノ次へ中佐ヲ加フ

明治三十二年八月十四日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第百二十六號(明治二十二年六月二十六日)

軍艦長内地ニ於テ外國人ヲ響應若クハ接待セントスルトキハ左ノ金額以內ヲ以テ處辨ス可シ但當該年度中前月ノ豫定額内ニ仕舞殘餘アルトキハ漸次後月ニ繰越シ使用スルコトヲ得

艦長 大佐 一箇月 金拾圓

少佐 一箇月 金五圓

○海軍省達第百五十六號

海軍操砲程式ニ別冊ノ通り追加ス

但別冊之ヲ要スル向へ配賦ス (別冊略ス)

明治三十三年八月十七日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省第五百五十七號

海軍造船兵職工郵便貯金規則左ノ通定ス

明治三十二年八月十九日

海軍大臣山本權兵衛

海軍造船兵職工郵便貯金規則

- 第一條 海軍造船兵職工ハ其ノ受ケル所ノ給料若ハ其ノ幾分ヲ郵便貯金トシテ預ケ入ル爲メ毎月給料拂渡當日派出ノ郵便局員ニ預ケ入ノ申出ヲ爲スコトヲ得但シ通帳ヲ所持セサルモノハ期日十日前ニ所屬造船廠造兵廠會計課長若ハ兵器部主計長ニ申出郵便貯金預入申込書ヲ受ケ置クヘシ
- 造船廠造兵廠會計課長若ハ兵器部主計長前項但シ書ノ申出ヲ受ケタルトキハ郵便貯金預入申込書用紙ニ規定ノ記入ヲ爲シ申出人ニ調印セシメ交付スヘシ
- 第二條 前條第一項ノ申出ヲ爲サントスルトキハ預ケ入金額ヲ記載シタル郵便貯金預入申込書(様式適宜)ニ現金及郵便貯金通帳ヲ添ヘ差出スヘシ但シ通帳ヲ所持セサルモノハ前條第一項但シ書ノ預入申込書ヲ又通帳ヲ郵便爲替貯金管理所又ハ同支所ヘ提出中ノモノナルトキハ通帳受領證書ヲ通帳ニ換ヘ差出スヘシ
- 第三條 派出ノ郵便局員前條ノ現金貯金通帳及郵便貯金申出書等ヲ受領シタルトキハ番號札ヲ各預ケ人ニ交付スルヲ以テ各預ケ人ハ即時該番號札ヲ所屬造船廠造兵廠會計課長若ハ兵器部主計長ノ指定スル該廳書記ニ差出スヘシ
- 該廳書記ハ其ノ取集タル番號札ノ數ヲ計算シ尙郵便局員ニ於テ受ケタル預入申込書ノ枚數ト對照シ且申出書ニ依リ其ノ預入額ヲ調査シ郵便局員ヨリ假領收書ヲ受ケタル上之ニ照合シ該番號

札ヲ同局員ニ返付スヘシ

- 第四條 派出ノ郵便局員ハ前條ノ手續ヲ終リ歸局ノ上相當手續ヲ了シ貯金通帳等ヲ造船廠造兵廠會計課長若ハ兵器部主計長ニ回付スヘキニ付之ト引換ニ假領收書ヲ返付シ該通帳等ハ各預ケ人ニ交付スヘシ
 - 第五條 預ケ人ニ於テ郵便貯金ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ直接郵便局ニ對シ拂戻ノ請求ヲ爲スヘシ
 - 第六條 造船廠造兵廠會計課長若ハ兵器部主計長ハ貯金事務ノ取扱ニ關シ該廳職員ヲシテ派出ノ郵便局員ヲ補助セシメ且同局員ニ對シ相當ノ便宜ヲ與ヘ又預ケ人ニ於テ履行スヘキ事項ニシテ代理處辨ヲ便宜トスルモノハ該廳職員ヲシテ代辨セシムヘシ
 - 第七條 造船廠造兵廠會計課長若ハ兵器部主計長ハ預ケ人ヲシテ郵便貯金條例同施行細則ヲ詳知セシメ成規ニ背違セサルコトニ注意スヘシ
 - 第八條 造船廠長造兵廠長若ハ兵器部長ハ派出ノ郵便局員ニ對シ郵便貯金事務ノ取扱上相當ノ便宜ヲ與ヘ且其ノ事務取扱中ハ相當ノ取締ヲ設クヘシ
- 附則
- 第九條 此ノ規則ハ郵便貯金申込人員三十人以上ニ達スル月ヨリ實施ス此ノ場合ニ於テハ實施前少クモ十日以前ニ造船廠長造兵廠長若ハ兵器部長ハ郵便局員派出ノ日時ヲ當該郵便局長ニ通報スヘシ
- 海軍省第五百五十八號
- 停年計算規則第十六條ニ左ノ通追加ス

但下士卒ニ在テハ同航ノ爲メ本邦出發ノ日ヨリ海上勤務ニ算ス

明治三十二年八月二十六日

海軍大臣山本權兵衛

〔参照〕

海軍省達第八號停年計算規則(明治二十九年二月十九日抄録)

第十六條 富士ハ明治三十年七月一日ヨリ海上勤務ニ算ス

○海軍省達第五百五十九號

海軍主計官練習所規則中左ノ通改正ス

明治三十二年八月三十一日

海軍大臣山本權兵衛

第一條 所長ハ海軍主計官練習所條例及本規則ニ基キ職務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第二條 所長ハ毎練習期ノ終ニ於テ學生及練習生ノ試験成績表ヲ作り之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 所長ハ毎練習期ノ終ニ於テ職員ヲ集メ會議ヲ開キ既往學術ノ進歩及將來教育ノ改良ニ就テ審議シ學事報告ヲ作り之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第四條 學生及練習生ハ所内ニ寄宿セシム

第五條 所内ノ紀律ハ軍艦ノ例ニ準ス

第六條 學生及練習生ノ練習期ヲ左ノ如ク種別ス

主計官

六箇月

少主計候補生

一箇年

上等筆記筆記及廚宰

八箇月

主計官、上等筆記、筆記及廚宰ノ練習期中ニハ夏季及冬季休業日數ヲ算入セス

第七條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテヲ冬季休業トス

第八條 學生及上等筆記タル練習生ニシテ最終ノ試験ニ落第シタル者及修學不適當ト認めタル者アルトキハ所長ハ之ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ

筆記及廚宰タル練習生ニシテ前項ニ該當スル者アルトキハ所長ハ之ヲ各其ノ所屬艦團其ノ他各部ニ復歸セシメ其ノ旨ヲ當該鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

第十條 第十二條及第十三條中ノ練習生ヲ筆記及廚宰タル練習生ニ改ス

第十六條 少主計候補生タル學生卒業シタルトキハ所長ハ海軍高等武官補充條例第十三條ニ據リ

少主計候補生勤務報告ヲ作り第二條ノ試験成績表ニ添付スヘシ

筆記及廚宰タル練習生卒業シタルトキハ所長ハ之ヲ各其ノ所屬艦團其ノ他各部ニ復歸セシメ其

ノ試験成績表ヲ當該鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

第十八條ヲ删除ス

〔参照〕

海軍省達第九十一號海軍主計官練習所規則(明治三十二年五月十五日抄録)

第二條 學生及練習生ハ本所ニ入所セシメ其入所中本所ノ管轄トス

第三條 學生及練習生ニ關スル紀律ハ特ニ設ケルモフ、外專ラ軍艦ノ例ニ準ス

明治三十二年八月 達 海軍省達第五百五十九號

三五七

第四條 學生ノ教程ハ海軍會計經理、海軍編制、國際法、行政法、財政學及外國語學トシ練習生ノ教程ハ海軍會計經理ノ大要、簿記算術、作文、法律學、大意、經濟學、大意及英語學トス

第五條 試驗ハ學期ノ終ニ於テ行フヲ大試驗トシ一學科教授ノ終ニ於テ行フヲ小試驗トス

第六條 試驗ノ平均點數ハ之ヲ大試驗ノ平均點數ニ算入ス

第七條 試驗ノ及第點數ハ各科全點百分ノ四十以上ヲ得其ノ點數ヲ合算シテ總點數百分ノ五十以上トス

第八條 前條ノ再試驗ニ落第シタル者傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ卒業ノ目途ナキ者及品行不良ニシテ訓戒ヲ加ルモ改悛ノ狀ナキ者ハ學生ニ在テハ所長之ヲ海軍大臣ニ具申シ練習生ニ在テハ所長之ニ退所ヲ命シ本管鎮守府海兵團ニ復歸セシメ其ノ旨當該鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

第九條 練習生ニ採用スヘキ人員ハ毎年鎮守府毎ニ海軍大臣之ヲ定ム

第十條 練習生卒業ノトキハ所長ハ海軍高等武官補充條例第十三條ニ據リ少主計候補生ノ勤務報告ヲ作り之ニ大試驗成績ヲ添ヘ海軍大臣ニ提出シ練習生卒業ノトキハ本管鎮守府海兵團ニ復歸セシメ其ノ成績表ハ之ヲ當該鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

第十八條 明治三十二年勅令第九十三號海軍主計官練習所條例第一條主計官上等筆記職務練習ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

○陸達第八十五號

陸軍國防用防禦營造物圖書取扱規則別冊ノ通定

但シ明治三十五年陸達第五十五號要塞堡壘砲臺圖籍取扱規則ハ廢止ス

明治三十二年九月一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別冊)

陸軍國防用防禦營造物圖書取扱規則

第一條 陸軍國防用防禦營造物圖書トハ要塞防禦計畫圖書、要塞地帶内ニ於ケル陸軍ノ防禦營造物ニ關スル圖書及要塞近傍一萬分以上ノ梯尺圖(地形圖)ヲ謂フ該圖書ニハ軍事機密ノ四字、番號及保管者ノ職氏名ヲ標記ス

第二條 陸軍大臣、參謀總長、砲兵會議議長、工兵會議議長及築城部本部長ハ各其必要ト認ムル全陸軍國防用防禦營造物圖書ヲ貯藏保管ス

第三條 東京防禦總督、都督、臺灣總督、師團長、警備隊司令官及兵器本廠長ハ其管内ニ於ケル陸軍國防用防禦營造物圖書中下附セラレタルモノ、外尙必要ト認ムルモノハ之レヲ貯藏保管スルコトヲ得

要塞司令官、築城部支部長、要塞所在地兵務支隊長、要塞砲兵聯隊(獨立)長ハ當該要塞ノ防禦營造物圖書中下附セラレタルモノ、外尙必要ト認ムルモノハ之ヲ貯藏保管スルコトヲ得

第四條 陸軍大臣及參謀總長ハ主務課長又ハ部長ニ陸軍國防用防禦營造物圖書ノ貯藏保管ヲ命ス

第五條 陸軍ノ國防用防禦營造物圖書ノ貯藏保管ハ各長官ノ責任ナリト雖トモ部下將校ヲ指定シテ其取扱ヲ擔當シムルコトヲ得

第六條 陸軍國防用防禦營造物圖書ヲ貯藏保管スル各長官ハ職務上必要ノ關係アル高等官ニ該圖書ノ閱覽ヲ許スコトヲ得

第七條 砲兵會議議長、工兵會議議長、築城部本部長、同支部長及兵器本廠長、同支廠長ハ陸軍國防用防禦營造物圖書ヲ騰寫スルコトヲ得

第八條 陸軍國防用防禦營造物圖書貯藏保管ノ責任アル各長官新ニ該圖書ヲ貯藏スルノ必要アルトキハ築城部本部長又ハ同支部長ニ商議シテ之ヲ騰寫スルコトヲ得但シ圖書ノ種類ニ由リテハ陸軍大臣ヨリ下附スルコトアルヘシ

第九條 第二條ニ依リ騰寫シタル圖書ニハ原圖書ト同一ノ標記ヲ爲シ其ノ下ニ「寫」ノ字ヲ記入スヘシ

第十條 陸軍國防用防禦營造物圖書ヲ貯藏保管スル各長官ハ毎年四月盡日調ヲ以テ該圖書ノ目錄(番號トモ)ヲ製シ五月三十日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十一條 陸軍國防用防禦營造物圖書ニシテ損傷使用ニ堪ヘサルモノ又ハ不用ニ屬セシモノハ陸軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ燒却スヘシ

第十二條 教官軍事機密圖書中ノ事項ヲ教授スル場合ニ在テハ其機密ナルコトヲ告知シタル後之ヲ口授シ筆記セシムルヲ許サス

第十三條 陸軍國防用防禦營造物圖書ヲ紛失又ハ燒失シタルトキハ直ニ最迅速ノ方法ヲ以テ陸軍大臣ニ報告シ更ニ其顛末竝ニ處分ヲ詳報スヘシ

第十四條 陸軍國防用防禦營造物圖書ノ下附ヲ受ケタルモノハ直ニ其受領證書ヲ出スヘシ

第十五條 陸軍部外ニ於テ發行シタル國防用防禦營造物ニ關スル圖書モ亦本規則ニ準シ取扱フモ

ノトス

○陸軍第八十六號 國防用防禦營造物出入規則左ノ通定ム

但明治二十九年陸軍第三百二十號ヲ廢ス

明治三十二年九月四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

國防用防禦營造物出入規則

第一條 陸軍ノ所管ニ係ハル國防用防禦營造物ニ出入セントスル軍人軍屬ハ所管長官ヲ經テ當該要塞司令官若ハ築城部本部長(要塞司令部未設地ニ限ル以下同シ)ニ其他ノ者ハ管轄長官ヲ經テ陸軍大臣ニ出願シ許可ヲ受クヘシ

第二條 陸海軍官衛長官ニ於テ公務ノ爲メ軍人軍屬ヲ防禦營造物ニ出入セントスルトキハ當該要塞司令官若ハ築城部本部長ノ承認ヲ經ヘシ

前項ノ場合ニ於テ陸軍大臣竝ニ參謀總長ニ在テハ高級副官又ハ總務部長ヲシテ當該要塞司令官若ハ築城部支部長ニ通報セシム但シ第三條ノ場合ニ在ツテハ當該兵器支廠長ニモ通報セシム

第三條 第一條及第二條第一項ノ軍人軍屬ニシテ要塞司令部未設ノ箇所ニ於テ兵器彈藥庫内(兵器ヲ格納シタルノ限ル)ノ觀覽ヲ要スルトキハ當該兵器本廠長ノ承認ヲ經ヘシ

第四條 陸軍官衛長官ニ於テ公務ノ爲メ軍人軍屬ヲシテ防禦營造物ヲ測量シ又ハ其形狀ヲ攝影模寫セシメントスルトキハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 職務ノ爲メ第一條第二條第三條ノ手續ヲ經ス防禦營造物ニ出入シ得ヘキ者左ノ如シ

陸軍大臣 陸軍次官 陸軍省軍務局長 同軍事課長 同砲、工兵及兵器課將校

教育總監 要塞砲兵監部將校 築城部本部將校 砲工兵會議將校 大阪砲兵工廠將校 東京砲兵工廠提理 同検査官 同砲具製造所長同所員 參謀總長 參謀木部次長 同部長及主務將校

海軍大臣 海軍次官 海軍省軍務局長 同軍事課長 海軍軍令部長 同次長 同第二局將校 職務上本條諸長官ニ隨行スル官僚

第六條 職務ノ爲メ第二條第三條第三條ノ手續ヲ經テ各所管内及當該要塞内ニアル防禦營造物ニ限リ出入シ得ヘキ者左ノ如シ

東京防禦總督 東京防禦總督部參謀長 同參謀

都督 都督部參謀長 同參謀

臺灣總督 臺灣總督府陸軍幕僚參謀長 同參謀

師團長 師團參謀長 同參謀

要塞司令官 同參謀

兵器本廠將校 臺北砲兵工廠將校

築城部支部將校 要塞所在地兵器支廠將校 要塞砲兵隊長

鎮守府司令長官 同司令官 同參謀長 同參謀 要港部司令官

水雷團長 水雷敷設隊司令

職務上本條諸長官ニ隨行スル官僚

特命檢閱使及隨行官僚ハ檢閲ヲ命セラレタル所管内ノ防禦營造物ニ限リ出入スルコトヲ得

第七條 防禦營造物ノ出入若ハ測量攝影模寫ノ許可ヲ與ヘタルトキハ陸軍大臣ハ高級副官ヲシテ

當該要塞司令官若ハ築城部支部長(要港司令官未設地)ニ通報セシム

出入人員夥多ナル場合ニ在テハ要塞司令官若ハ築城部支部長ハ適宜取締法ヲ設クルコトヲ得

第八條 防禦營造物ニ出入シ測量、攝影、模寫セントスルモノハ先ツ要塞司令官若ハ築城部支部ニ就キ出入又ハ測量券ヲ受ケ之ヲ監守或ハ衛兵ニ示シ其指導ニ從フヘシ但シ第五條第六條ノ諸官

及第二條第二項ニ依リ出入スルモノニ限リ要スレハ築城部本部ニ就キ出入券ヲ受クルコトヲ得

該券ハ所要終レハ直ニ受領シタル官衙ニ返納スルモノトス

出入券ヲ交付シタルトキハ築城部本部長ハ其官職氏名ヲ當該要塞司令官又ハ築城部支部長ニ通

報スルモノトス

第九條 砲工兵會議議長ハ試驗其他技術上ノ實査ニ關シ所要ノ人馬ヲ防禦營造物ニ出入セシメ

又之レヲ測量、攝影、模寫セシムルコトヲ得

砲兵工廠提理ハ試驗若ハ備砲ニ關シ所要ノ人馬ヲ防禦營造物ニ出入セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ在テハ先ツ要塞司令官又ハ築城部本部長ト商議シ且ツ適宜ノ取締法ヲ設クルモ

トス

第十條 要塞司令官築城部本部長同支部長兵器本廠長及要塞所在地兵器支廠長ハ職務上ノ必要

ニ關シ前諸條(第八條)ノ手續ヲ經テ其部下官僚ヲシテ所管防禦營造物ヲ測量、攝影、模寫セシメ

且所要ノ人馬ヲ出入セシムルコトヲ得

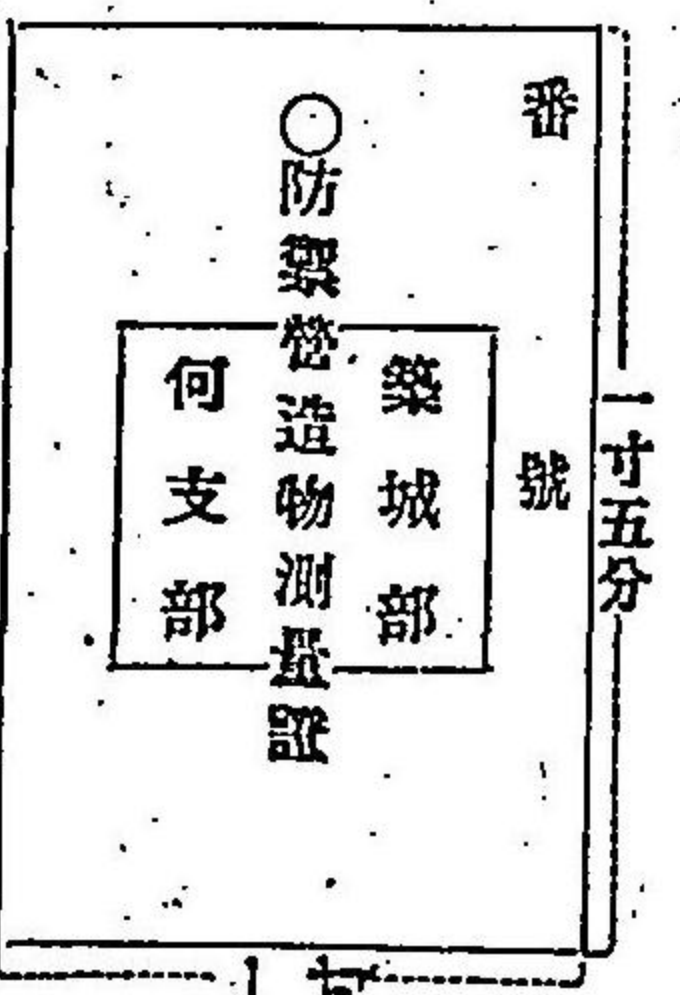
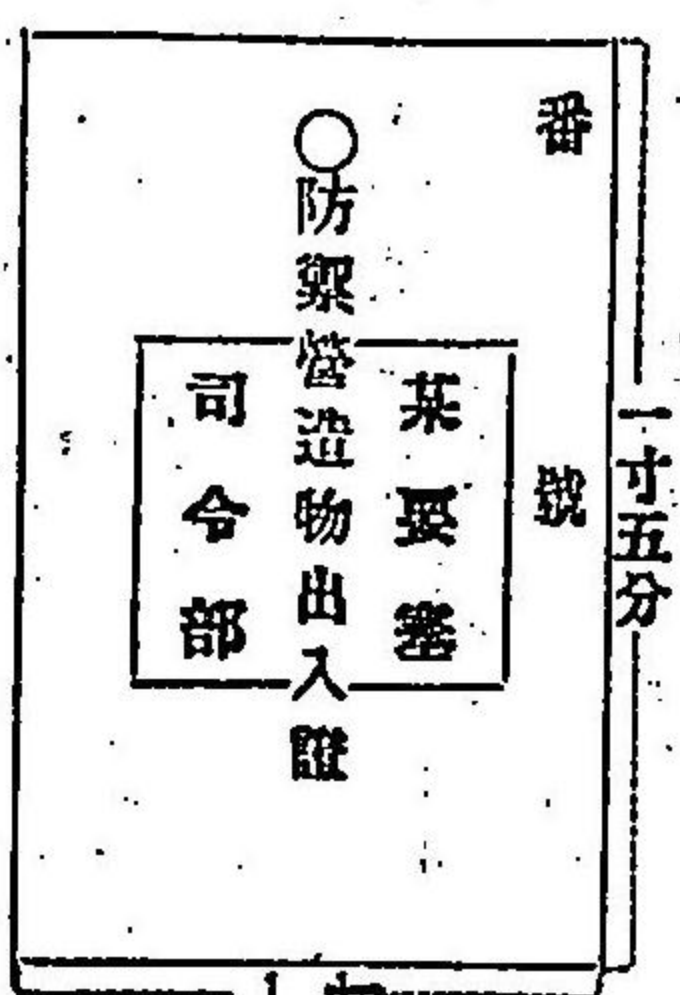
要塞砲兵隊長ハ當該防禦營造物ニ限リ前諸條(第八條)ノ手續ヲ經テ其部下將校下士卒ヲ出入セ

シムルコトヲ得但シ演習其他ノ場合ニ於テ備役者及馬匹ヲ出入セシムル必要アルトキハ要塞司

令官ノ許可ヲ經テハ要塞司令官未設ノ箇所ニ在ツテハ隊長責任ヲ以テ之ヲ處斷スルコトヲ得

第十一條 本則中要塞司令部及要塞司令部トアルモノハ防禦營造物ノ設ケアル島嶼ノ警備隊司令官及警備隊司令部ニ適用ス

第十二條 出入及測量券ハ要塞司令部、築城部本部同支部ニ置ク其様式ハ左ノ如シ



木製ニシテ要塞司令部ニ置クモノハ「其要塞司令部築城部支部ニ置クモノハ「築城部何支部」ノ烙印ヲ爲ス

附 則

第十三條 臺灣及澎湖島ニ在ルモノニシテ基隆 澎湖島ニ於ケル防禦營造物ニ出入セントスルモノハ要塞司令部設置ニ至ル迄第一條第二條第一項ニ準シ軍人軍屬ニ在ツテハ當該築城部支部長ノ許可若ハ承認ヲ受ケ其他ノモノハ臺灣總督ノ許可ヲ經ヘン但シ第三條ノ場合ニ在ツテハ當該兵器支廠長ノ許可若ハ承認ヲモ受ケルモノトス

〔参照〕

明治二十九年八月二日 陸軍省第百三十號ハ砲彈出入規則ナリ

○陸軍第八十七號
陸軍常備隊配備表別紙ノ通定メラル
但明治二十九年九月送乙第三四七〇號ハ廢止ス
明治二十二年九月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍常備隊配備表

第一	東 京			近 衛	師 團	師 團 司 令 部 所 在 地	步 兵	騎 兵	野 戰 砲 兵	工 兵	輜 重 兵	要 塞 砲 兵	鐵 道 隊	醫 備 隊	諸 隊 衛 兵 衛 隊	地名	
	第一	第二	第三														
第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	第一	東京
第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	第二	東京
第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	第三	東京	
第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	第四	東京	
第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	第五	東京	
第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	第六	東京	
第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	第七	東京	
第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	第八	東京	
第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	第九	東京	
第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	第十	東京	
第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	第十一	東京	
第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	第十二	東京	
第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	第十三	東京	
第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	第十四	東京	
第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	第十五	東京	
第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	第十六	東京	
第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	第十七	東京	
第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	第十八	東京	
第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	第十九	東京	
第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	第二十	東京	

○陸達第八十八號

明治三十一年十二月陸達第百二十一號兵器取扱規則中別紙ノ通り改正ス (別紙略ス)

明治三十二年九月八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第八十九號

七珊米野砲豫備品車雨覆ノ制式ヲ別紙圖面ノ通改正ス (別紙略ス)

但シ現製ノモノハ修正ノ上使用シ其費用ハ各管理ノ軍事費兵器彈藥費ヨリ支拂フヘシ

明治三十二年九月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第九十號

陸軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治三十二年九月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第四十七條中末文「騎兵以下ヲ」之ヲ除去シ若クハ卸ヲ外シ之ヲ卷キ置クモ除ク 妨ケナシニ改ム
第四十八條中「對馬警備隊」ヲ削ル

〔參照〕

陸軍省令乙第四百四十四號陸軍服裝規則(明治十九年十月二十五日)抄錄

第十七條 刀及ヒ劍ノ佩用方ハ(一)其正衣ヲ著セシトキハ衣ノ上ニ軍衣夏衣ヲ著セシトキハ衣ノ下ニ刀(劍)ヲ佩リ

メ之ヲ佩用ス而シテ其刀ハ室ノ内外ヲ除クセシトキハ(二)場合ト雖モ上部ノ鈕ヲ刀帶ノ鈎金ニ掛ケ乘馬ニ在テハ之ヲ掛ケサル

ヲ法トス但騎兵科將校ハ正衣軍衣夏衣ニ輪ヲ付テ衣ノ下ニ佩用ス

第四十八條 正裝ハ兵種ニ依リ區別アリト雖モ總テ一般ニ著裝スルモノ概テ左ノ如シ

一 第一種帽

一 前立

一 衣袴

一 下襟

一 靴

○陸達第九十一號

陸軍武官進級取扱規則中左ノ通改正セラル

明治三十二年九月十二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

一 第一條其五並第五條其四各隊ノ下割註「也田步兵科下」ヲ「也田步兵科及臺灣守備」ニ改ム

二 各拔擢圖例中臺灣守備各兵聯(中隊)「トアル」ハ總テ「大(中)隊」ニ改ム

圖例第一ノ第九行第二判定官「步兵ハ」ヲ削除シ同第九第十行ノ下段除任官「聯隊長」ヲ「大隊長」ニ改ム

「大(中)隊長」ヲ「中隊長」ニ改ム

○陸達第九十二號

三十年式騎銃ノ制式別紙圖面ノ通定メラル (別紙略ス)

明治三十二年九月二十一日

陸軍大臣子爵桂 太郎

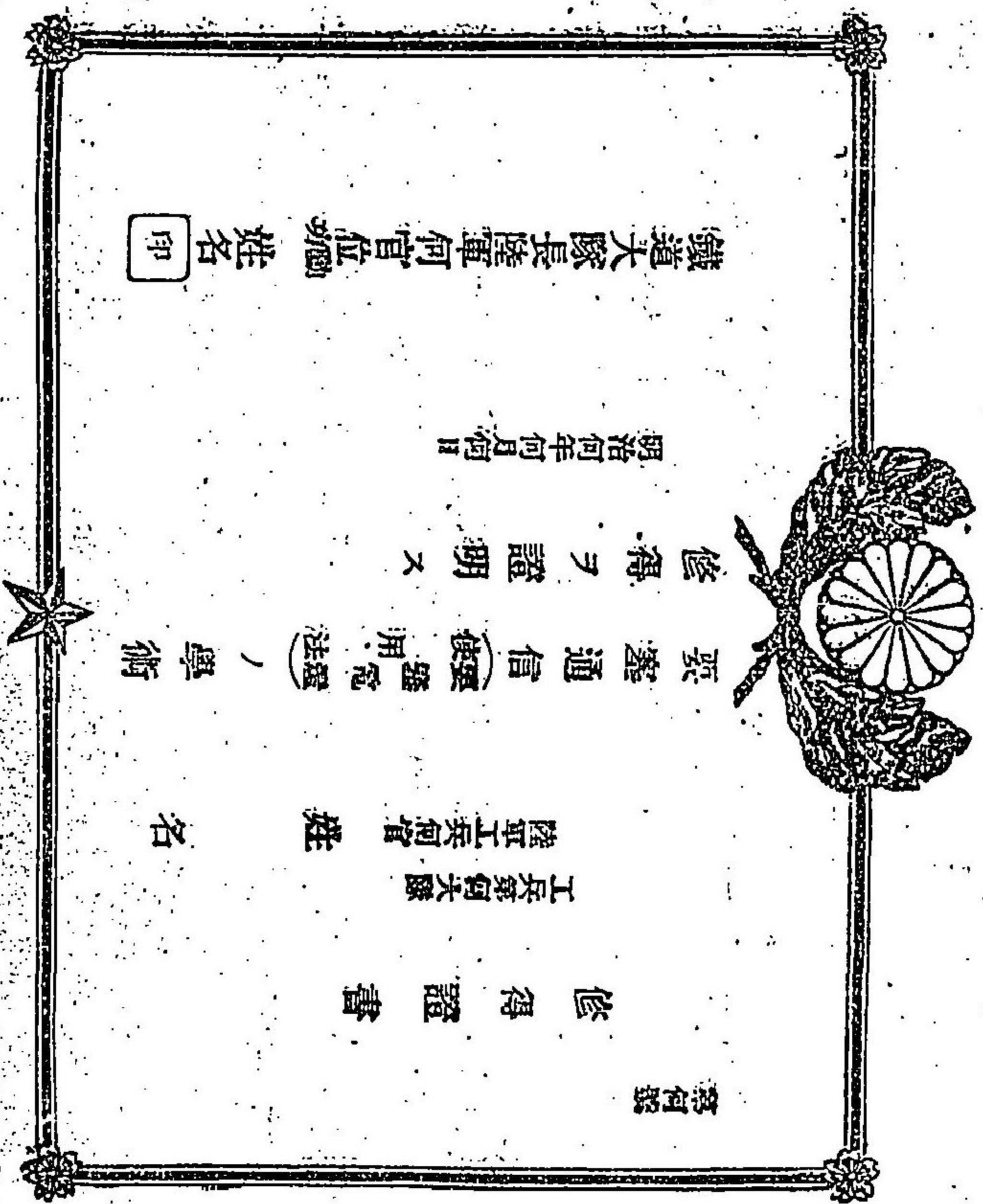
○陸達第九十三號

明治三十一年陸達第七十四號第十條ニ據リ要塞通信員並ニ電燈使用員ニ附與スヘキ學術修得證書別紙雛形ノ通り相定ム

明治三十二年九月二十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別紙)



陸軍省令

○陸達第九十四號

明治三十一年陸達第七十四號要塞通信員及電燈使用員教育假規則中左ノ通追加ス

明治三十二年九月二十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第十條ニ左ノ項ヲ加フ

學術優等ノ下士三名上等兵三名以内ヲ次年度分遣者卒業期迄殘留セシメ該分遣者ノ教育助手ニ充ツルコトヲ得但シ同隊ノ者一名ニ限ル

○陸達第九十五號

明治三十一年陸達第六十五號陸軍監獄看守宿料支給細則中第一條ニ「但臺北衛戍監獄在勤中ハ其

前在勤地ノ定額ニ依ル」但書ヲ加ヘ第五條ヲ削ル

明治三十二年九月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔参照〕

陸達第六十五號陸軍監獄看守宿料支給細則(明治三十一年六月二十九日)抄録
第五條 臺灣島各衛戍監獄在勤中ハ宿料ノ支給ヲ停ム

○海軍省達第百六十號

明治三十二年達第七十六號中但書ヲ删除シ第二ノ次ニ左ノ如ク追加ス

三 海軍艦船ニシテ其船體機關ヲ取放シ荷物ヲ爲シタルモノ

輸入申告書書式裏面欄外ノ記事ヲ左ノ如ク改ム

此ノ用紙ハ税關構内若ハ同屬附近ニ於テ賣渡スモノナリ

明治三十二年九月一日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第七十六號(明治三十二年四月十八日)
各關ニ於テ海軍艦船ノ外左ニ掲クルモノニシテ關稅定率法第五條ニ據リ無稅通關ヲ爲サントスルトキハ各關長ハ別經書式
ノ輸入申告書ヲ作り製造者又ハ運送購買者ニ交付シ無稅通關ノ手續ヲ爲サシムヘシ但海軍艦船ニシテ其船體機關ヲ取放シ
荷作ヲ爲シタルモノハ輸入申告書ヲ要セス

一 海軍艦船ニ特定シタル汽機汽缸ニシテ該艦船ノ一部ト成ルヘキモノ
二 兵器彈藥及爆發物並兵器ノ半作品(附屬品)ニシテ之ヲ製作スルトキハ二ノ兵器ト成ルヘキモノ

○海軍省達第六十一號

昨年十二月以前ノ募集ニ屬シ現ニ四等水兵若ハ四等機關兵ノ職ニアルモノノ實役停年最下期限ハ
本年ニ限リ海上勤務四箇月半若ハ陸上勤務六箇月トスルコトヲ得但シ海上勤務ト陸上勤務トノ換
算ハ海軍卒進級條例第六條ノ例ニ依ル

明治三十二年九月一日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第六十二號

海軍下士卒履歷表記入心得第一號中「分隊長」ヲ「徵募官」ニ改ム

明治三十二年九月八日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第六十三號

信號練習生規則中左ノ通改正ス

明治三十二年九月十三日

海軍大臣山本權兵衛

第二條 信號練習生ノ人員ハ須要ニ應シ鎮守府毎ニ之ヲ定メ毎年六月之ヲ告達ス

第三條 信號練習生ニ選拔スヘキ者ハ志願兵ニシテ左ノ諸項ニ適合ノ者タルヘシ

一 視聽力完全、齒列正整且品行方正ナル者

二 稟性銳敏活潑ニシテ理解力ニ富メル者

三 讀書漢字交、作文通俗、算術四ヲ解シ得ル者

第五條 信號練習生採用ノ達アリタルトキハ海兵團長ハ五等卒教育規則第七條ニ依リ三箇月以上

五等水兵ノ教育ヲ受ケタル者ノ中ヨリ第三條ニ適合スル者ヲ選拔シ四等水兵ニ進級セシメ之ニ

信號練習生ヲ命スルモノトス

第七條ノ内「燈旗章及陣形等」ノ項中「舵ノ作用」ヲ除キ「機器」ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

接針 (舵機ノ作用、操舵及應急法) 同 一〇〇

〔參照〕

海軍省達第五十四號信號練習生規則(明治二十九年五月二十八日)抄録

第二條 信號練習生ノ人員ハ須要ニ應シ鎮守府毎ニ之ヲ定メ五等水兵卒業前ニ於テ之ヲ告達ス

第三條 信號練習生ニ選拔スヘキ四等水兵ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タルヘシ

一 視力完全齒列正整且品行方正ナル者

二 稟性銳敏活潑ニシテ理解力ニ富メル者

三 讀書漢字交、作文通俗、算術四ヲ解シ得ル者

第五條 信號練習生採用ノ達アリタルトキハ海兵團長ハ前條ニ基キ各艦長ヨリ送附スル意見ト試驗成績トニ對照シテ第三

條ニ適合スル者ヲ選拔シ之ニ信號練習生ヲ命スルモノトス

(第七條ハ練習生ノ教程ナリ)

○海軍省達第六十四號

雇員備八規則第三條別表中「要港部」欄「刺夫」ノ部「一」ヲ「二」ニ改ム

明治三十二年九月十三日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百六十五號

海軍軍醫學校ニ屬スル醫務衛生ニ關スル事項ハ東京海軍造兵廠軍醫長ヲシテ之ヲ掌ラシム

明治三十二年九月十三日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第百六十六號

海軍兵器造修供給規則中左ノ通改正ス

明治三十二年九月十四日

海軍大臣山本權兵衛

第一條 兵器ノ製造若ハ改造ヲ要スルトキハ造兵廠ニ於テ又下瀬火藥ノ製造若ハ再製ヲ要スルトキハ海軍下瀬火藥製造所ニ於テ取扱ハシム其注文手續ハ軍務局ニ於テ通牒書ヲ製シ造兵廠又ハ海軍下瀬火藥製造所ニ送付スルモノトス 其海軍造兵廠ニ送付スルモノニ在テハ其領守府ニ經由ス 但外國ニ兵器ノ製造ヲ注文スル場合ニ在テハ軍務局ヲシテ處理セシムルコトアルヘシ 第二條中 造兵廠ノ下又ハ海軍下瀬火藥製造所ノ十一字ヲ加フ

〔參照〕

海軍省達第百六十九號海軍兵器造修供給規則(明治二十七年五月七日)抄録
第一條 兵器ノ製造若ハ改造ヲ要スルトキハ造兵廠ニ於テ取扱ハシム其注文手續ハ軍務局ニ於テ通牒書ヲ製シ造兵廠ニ送付スルモノトス 其海軍造兵廠ニ送付スルモノニ在テハ其領守府ニ經由ス 但外國ニ兵器ノ製造ヲ注文スル場合ニ在テハ軍務局ヲシテ處理セシムルコトアルヘシ
第二條 造兵廠ニ於テ注文通牒書ヲ受領シタルトキハ其入費概算及落成期限等ヲ確定シ工事又ハ購買ノ手續ニ着手スヘシ 又現品等成者クハ購入シタルトキハ其實費並ニ重量等ヲ配シタル通知書ヲ軍務局ニ送付スヘシ 但必裝ニ際シ海軍大臣ノ命令ニ依リ領守府兵器部ニ於テ兵器ノ製造若ハ改造ヲ爲ストキハ工事着手方並ニ軍務局ニ通知力等本條ニ準スルモノトス

○海軍省達第百六十七號

明治二十年達第百七十九號ニ左ノ但書ヲ追加ス

明治三十二年九月十九日

海軍大臣山本權兵衛

但シ兵學校ノ教員中兵曹及機關兵曹ハ軍艦筑波ノ定員ヲ以テ之レニ充ツ

〔參照〕

明治三十年十一月三日 海軍省達第百七十九號ハ學校、練習所及病院定員中教員ノ員數ノ件ナリ

○海軍省達第百六十八號

五等卒教育規則及五等卒教育要旨中左ノ通改正ス

明治三十二年九月二十日

海軍大臣山本權兵衛

規則第六條中「之ヲ次期ノ五等卒ニ編入シ凡六箇月ノ後之ヲ」更ニ之ヲ教育シ六箇月以內ニ改
要旨第五項「八箇月」ノ下第七項「十二箇月」ノ下及第八項「十二箇月」ノ下ニ各以內ノ二字ヲ加フ

〔參照〕

海軍省達第百四十九號(明治三十二年七月二十八日)抄録
五等卒教育規則
第六條 卒業試驗ニ及第シタル者ハ之ヲ四等卒ニ進マシメ其ノ落第シタル者ハ之ヲ次期ノ五等卒ニ編入シ凡六箇月ノ後之ヲ進級セシム但シ病院ニ於テ卒業試驗ヲ行ヒタル場合ニ於テハ之ヲ海兵團ニ復歸セシメ然ル後之ヲ進級セシム
五等卒教育要旨
第五項第七項第八項中
五等看護ノ教育期限ハ八箇月トス
五等木工ノ教育期限ハ十二箇月トス
五等鍛冶ノ教育期限ハ十二箇月トス

○海軍省達第百六十九號

海軍軍人俸給加俸支給細則中左ノ通改正ス
本令ハ明治三十二年勅令第三百九十二號施行ノ日ヨリ施行ス

海軍大臣山本權兵衛

明治三十二年九月三十日

第八條第一項中第三ヲ左ノ如ク改ム

三 證書若ハ證狀ヲ有スル者ニハ之ヲ授與シタル日ヨリ其ノ效力消滅ノ日マテ

第十四條中第一ヲ削除シ第二ヲ第一トシ以下順次繰上ク

第十六條但書中請願休暇ノ下依願歸郷ノ四字ヲ加フ

第二十六條 費途ノ款ヲ異ニセル轉勤轉乘ノ場合ニ在テハ總テ辭令書ノ日附ヲ以テ區分シ前勤務

ノ廳若ハ艦船ニ於テ各其ノ前日マテ俸給ヲ支給ス

下士卒加俸細別表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表)

下士卒加俸日額表

六 錢	五 錢	四 錢	三 錢	二 錢	一 錢
砲術教員適任證書 水雷術教員 適任證書 軍樂教員適任證書 砲術教員 適任證書	管行軍五線 信號一等適任證書 軍樂高等科 一等學砲證狀	管行軍四線 信號二等 適任證書 二等學砲證狀	管行軍三線 砲術員	管行軍二線	管行軍一線
一等學水雷證狀	一等機關工證狀	二等機關工證狀	一等水雷工證狀	二等水雷工證狀	一等兵器工證狀
一等船匠工證狀	二等船匠工證狀	一等測手證狀	二等測手證狀	一等機關工證狀	二等機關工證狀

(參照)

海軍省達第百一十一號海軍軍人俸給加俸支給細則(明治二十九年十二月十八日)抄錄

第八條 俸給令第十條ノ加俸ハ別表ニ照シ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

三 信號適任證書及特殊ノ技術證書者クハ證狀ヲ有スル者ニハ之ヲ授與シタル日ヨリ其ノ效力消滅ノ日マテ

第十三條 俸給令第十七條ノ俸給(十四)ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

一 陸地療養者クハ入院ノ爲メ退職者クハ退職後七日以上缺勤ノ者ニハ其ノ日ヨリ出務者クハ歸艦歸船ノ前日マテ

二 協漢ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ七日以上缺勤ノ者ニハ其ノ日ヨリ出務ノ前日マテ

第十四條 俸給令第十八條ノ俸給(十五)ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

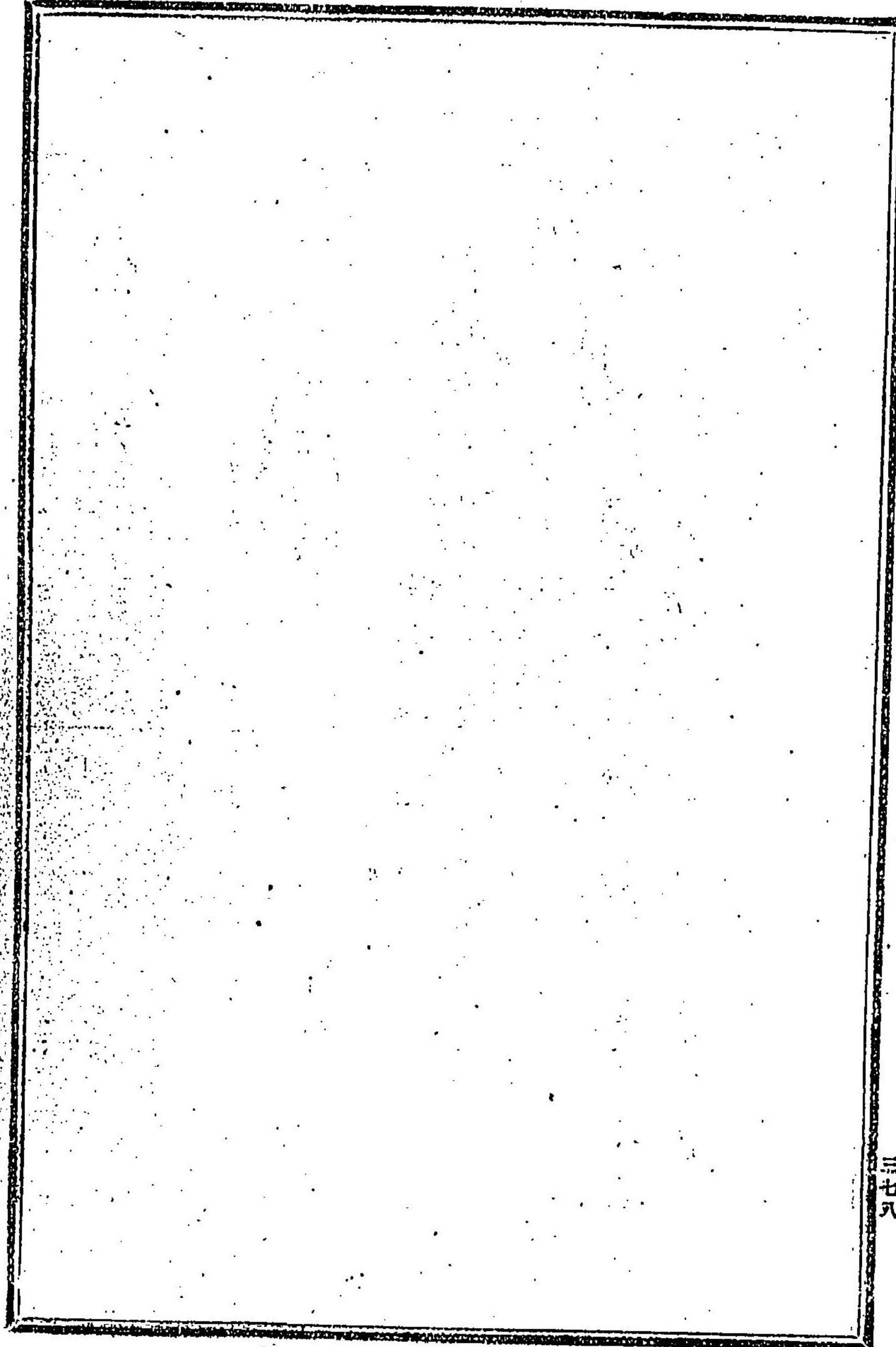
一 依願歸郷ノ爲メ退職者クハ退職後七日以上其ノ日ヨリ出務者クハ歸艦歸船ノ前日マテ

第十六條 俸給令第二十條ノ加俸停止ハ本則第十二條乃至第十五條ノ區分ニ依ル但請願休暇ノモノハ退職者クハ退職後

ノ日ヨリ出務者クハ歸艦歸船ノ前日マテ加俸ヲ停止ス

第二十六條 本省費ト他ノ費途ニ跨ル轉勤轉乘ノ場合ニ在テハ總テ辭令書ノ日附ヲ以テ區分シ前勤務ノ廳若ハ艦船ニ於テ

各其ノ前日マテ俸給ヲ支給ス



○宮内省達甲第五號

宮内省官制第四十條中主馬寮技師定員二人ヲ三人ニ改ム

明治三十二年十月二十八日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

○宮内省達甲第六號

皇族職員中別當家令小禮服制左ノ通相定ム

明治三十二年十月三十一日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

別當家令小禮服徽章表

袴	衣 下		衣 上		別	當	家	令	
	製	地	式	製					地
通帯ノ製ニ均シ	深黒紺羅紗	襟大反シニ號鈕三箇ヲ付ス	深黒紺羅紗	通帯禮服ノ製ノ如ク腰下ヲクリ去リ後襟ニ及ホシ上襟及袖口ヨリ三寸ノ部分ニ黒天窓絨ヲ付シ左右ニ一號鈕八箇即チ半面ニ四箇宛ヲ付ス	深黒紺羅紗	同上	袖口ノ黒天窓絨ヲ除ク他ハ上ニ同シ		
	白羅紗及ヒ白リンネル	同上	深黒紺羅紗	梁留ノ兩邊ニ一號鈕二箇及ヒ裾ノ端ニ一號鈕ニ付ス	同上	同上			

明治三十三年十月 陸軍省陸達第九十六號 陸達第九十七號

三八〇

鈕	帽		地
	右側	製式	
一號	上ニ向ヒ斜メニ幅五分ノ金線ニ條ヲ付ス其間六分五厘線外ニ紅白ノ日章ヲ現ス紅ノ幅二分白四分トス線内ノ下部ニ一號鈕ヲ以テ幅ニ付著ス	山形長サ一尺三寸五分頂線ニ駄鳥ノ黒毛ヲ付シ線端ニ沿フテ幅五分ノ金線一條ヲ置ク	同上
二號	金製五七ノ桐徑七分	同上	同上
三號	金製五七ノ桐徑四分五厘	同上	同上
四號	大禮服ノ劔ニ同シ	同上	同上

圖樣ハ明治二十一年八月日官内省達第十九號主務局勅委任官小禮服ニ同シ

○陸達第九十六號

明治三十一年十二月陸達第百二十一號兵器取扱規則中別紙ノ通告正ス (別紙略ス)

明治三十三年十月三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第九十七號

明治二十九年陸達第八十二號中「校園ヲ學校」ニ改メ第八項ノ「同生徒ハ毎年六月一日」ノ十字及第九項ヲ削リ第十項ヲ第九項ニ改ム

明治三十三年十月三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

明治二十九年六月十日陸達第八十二號ハ校園學生並生徒入學時期ノ件ニシテ其第八項ハ要塞砲兵射擊學校第九項ハ教導團ナリ

○陸達第九十八號

明治二十九年陸達第百七十二號中「教導團及要塞砲兵射擊學校」ヲ削リ「乘馬學校」ヲ「騎兵實施學校」ニ改ム

明治三十三年十月三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

明治二十九年十二月陸達第百七十二號ハ校園ノ喇叭手ハ各師團ヨリ分遣スルノ件ナリ

○陸達第九十九號

明治二十九年陸達第百七十二號校園喇叭手分遣規則中左ノ通告正ス

明治三十三年十月二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

表題ノ「校園」ヲ「各學校」ニ改メ第三條第四條第七條及第八條中ノ「校園」ヲ總テ「其ノ學校」ニ改ム第一條中「教導團」及「要塞砲兵射擊學校」ヲ削リ「乘馬學校」ヲ「騎兵實施學校」ニ改ム分遣人員表ヲ左ノ通告正ム

學校喇叭手分遣人員表

分遣スヘキ學校	近衛		第一	第二	計	合計
	步兵	騎兵				
士官學校	-	-	-	-	-	-
中央學校	-	-	-	-	-	-
地方學校	-	-	-	-	-	-
騎兵實施學校	-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	-

明治三十三年十月 陸軍省陸達第九十八號 陸達第九十九號

三八一

計	第十二		第十一		第十		第九		第八		第六		第五		第四		第三	
	野戰砲兵	歩兵	野戰砲兵	歩兵	野戰砲兵	歩兵	歩兵	騎兵	歩兵	騎兵	歩兵	騎兵	歩兵	騎兵	歩兵	騎兵	騎兵	歩兵
一六	一																	
六																		
六																		
三																		
三〇																		

備考 歩兵隊ヨリ分遣ナル喇叭手八員中ニハ校長ノ請求ニ依リ鼓手ヲ混用スルコトヲ得

○陸達第百號

明治三十二年十一月ヨリ弘前、姫路、九龜及小倉兵器支廠ヲ當該位置ニ開闢シ、同月ヨリ村松、山形、豊橋、静岡、大津、伏見、敦賀、鯖江、鳥取、福知山、山口、鹿兒島、大村、高知及福岡兵器分廠ヲ當該位置ニ設置開闢ス

但シ姫路及小倉兵器支廠派出所ハ同地兵器支廠開闢ノ日ヨリ廢止ス

明治三十二年十月四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百一號

三十年式歩兵銃帶革ノ遊端ト反對ノ方向ニ穿孔九箇ト等距離ニ穿孔二箇ヲ增加ス

明治三十二年十月六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百二號

要塞砲兵射擊學校學生ハ本年第三回分遣ノ者ニ限リ其入校ヲ差止ム

明治三十二年十月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百三號

火藥箱ノ制式別紙圖面ノ通改正ス (別紙略ス)

明治三十二年十月九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百四號

本年陸達第八十六號國防用防禦營造物出入規則ヘ左ノ通追加ス

明治三十二年十月十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第六條中「臺灣總督府陸軍幕僚參謀長、同參謀」ノ次ハ「臺灣總督府海軍參謀長、同參謀」ヲ加フ

○陸達第百五號

工兵用火具中棉火藥ヲ黃色藥ニ改ム
但在來ノ棉火藥ハ其儘使用シ自今新調ノ分ヨリ支給ス

明治三十二年十月十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百六號

陸軍武官等表中改正ノ結果ニ依リ砲兵上等監護ハ砲兵上等工長ニ、工兵上等監護ハ工兵上等工長ニ、火工曹長ハ砲兵曹長ニ、砲兵監護ハ其出身ニ應シ砲兵曹長若クハ砲兵一等諸工長ニ、工兵監護ハ工兵曹長ニ、砲臺監守ハ其出身ニ應シ砲兵曹長若クハ工兵曹長ニ、各兵一等軍曹ハ各兵軍曹ニ、各兵二等軍曹ハ各兵伍長ニ、火工一等軍曹ハ砲兵軍曹ニ、一等調劑手ハ一等看護長ニ、二等調劑手ハ二等看護長ニ、二等看護手ハ三等看護長ニ、一等書記ハ二等書記ニ、二等書記ハ三等書記ニ、諸工長ハ當該二等工長ニ、二等軍樂長ハ樂長補ニ、軍樂次長ハ一等樂手ニ、一等軍樂手ハ二等樂手ニ、各辭令ヲ用ヒスシテ任セラレタルモノトス

明治三十二年十月二十六日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百七號

今般獨立步兵大隊ハ步兵第二十五聯隊第一大隊ト獨立野戰砲兵隊ハ野戰砲兵第七聯隊第二大隊ト獨立工兵中隊ハ工兵第七大隊第一中隊ト換稱ニ付之ニ屬スル職員ハ辭令ヲ用ヒスシテ相當職名ニ換稱スル儀ト心得ヘシ

明治三十二年十月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百八號

今般陸軍衛生材料廠條例並同廠編制表改正相成候ニ就テハ衛生材料本廠職員中辭令ヲ用井サル者ハ右條例施行ノ日ヨリ衛生材料廠ニ於ケル相當職名ニ換稱ノ儀ト心得ヘシ

明治三十二年十月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百九號

明治三十一年陸達第十二號衛戍病院條例細則中左ノ通改正ス

明治三十二年十月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第五條中第九第十ヲ左ノ通改ム

- 九 衛生部下士ノ訓導、看護病人ノ教育及其ノ勤務行狀ノ監視
- 十 衛生部下士候補者及看護學修業兵ノ教育ニ關スル事項

第七條中但書ヲ削リ第一、第四ヲ左ノ通改ム

- 一 衛生材料ノ鑑査、新調、支給、交換及保存、修理
- 四 衛生部下士候補者ノ教育、見習藥劑官、藥劑生、調劑助手ノ訓導及其ノ勤務行狀ノ監視

第八條第二中「衛生材料廠支給外」ノ「九」字ヲ削ル

- 第十一條中第一、第三ヲ左ノ通改ム
- 一 部隊附軍人軍屬ニシテ演習其ノ他旅行途上傷疾疾病ニ依リ入院治療ヲ要スルトキ
- 三 下士兵卒ニシテ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免セラレ或ハ召集ヲ解除セラレタル者歸郷途上傷疾疾病ニ依リ歸郷シ得サルトキ
- 第十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十二條 第十一條第一、第三及第四ノ場合ニ於テ附近ニ衛戍病院ナキトキハ部隊又ハ護送員ヨリ地方病院若クハ地方醫師ニ其ノ治療ヲ依託スルコトヲ得
 前項治療ニ關スル費用ハ所屬部隊召集解除ノ者ハ召集解除ノ所屬部隊、所在地ノ衛戍病院轉送中ノ者ハ其ノ發送シタル衛戍病院、條例第八條第二項ノ患者中全治復隊又ハ除役歸郷途上ノ者ハ廣島衛戍病院ノ支辨トス但准士官以上及自費服役ノ一年志願兵並軍屬ニシテ其ノ傷痍疾病公務ニ基因セサル者ハ此限ニアラス

〔參照〕

- 陸軍第十二號衛戍病院條例則(明治三十一年二月二十一日)抄録
- 第五條 一等軍醫ハ院務ヲ分擔ス其ノ職務ノ概目左ノ如シ
- 九 看護長ノ訓練看護病人ノ教育及其ノ勤務行狀ノ監視
- 十 看護學修業兵ノ教育ニ關スル事項
- 第七條 藥劑官ハ調劑及藥物、器械等ニ係ル事務ヲ整理ス其ノ職務ノ概目左ノ如シ但師團司令部所在地外ニ在テハ兼テ所在地部隊ノ調劑及衛生材料ノ供給修理交換ノ事務ヲ掌ルモノトス
- 一 藥物、治療用品ノ出納及治療、調劑、研磨器械ノ保存修理
- 四 見習藥劑官、藥劑生及調劑手ノ訓練、調劑手候補者ノ教育並勤務行狀ノ監視
- 第八條 軍吏ハ概ネ左ノ事務ヲ掌ル
- 二 衛生材料廠支給外ノ衛生材料及消耗品、器具器械用度等ノ買辦修理
- 第十一條 條例第八條ニ據リ特ニ收發シ得ヘキ者左ノ如シ
- 一 軍人軍屬ニシテ演習其ノ他旅行途上發病シタルトキ
- 三 特務曹長及下士兵卒ニシテ傷痍疾病ニ依リ現職若クハ現役、常備後備役又ハ兵役ヲ免セラレタル者歸郷途上其ノ症狀増進シ歸郷シ得サルトキ

○陸軍第百十號

衛生材料取扱規則別紙ノ通定

明治三十二年十月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別紙)

衛生材料取扱規則

第一章 總則

- 第一條 衛生材料ヲ整備シ以テ平戰兩時ノ供用ヲ完全ナラシムル爲メ本規則ヲ定ム
- 第二條 本規則ニ於テ衛生材料ト稱スルハ治病衛生ニ關スル器械、藥物、消耗品ヲ云フ
 器械トハ治療器械、醫級、洗滌箱、消毒機、試驗器械、調劑器械、磨工器械ヲ云ヒ藥物トハ治療藥、試驗藥、消毒藥及滋養品ヲ云ヒ消耗品トハ治療用消耗品、試驗用消耗品、調劑用消耗品、磨工用消耗品ヲ云フ
- 第三條 本規則ニ於テ新調ト稱スルハ購買若クハ製造スルヲ云ヒ修理ト稱スルハ器械ノ幾部ヲ修繕シ若クハ調製補足スルヲ云フ
- 第二章 管理、保管
- 第四條 戰用衛生材料ノ管理、保管ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 師團長、要塞司令官、警備隊司令官ノ主管ニ係ル動員計畫ニ要スル材料ハ當該師團長、要塞司令官、警備隊司令官共ノ他特設部ニ要スルモノニ在テハ別ニ定ムル所ノ區分ニ從ヒ各其ノ主管ニ任スル者之ヲ管理シ當該衛戍病院長若クハ衛生材料廠長之ヲ保管ス
 - 一 前項ノ材料ニシテ軍隊ニ貯藏スルモノハ該隊長部下ノ責任アル者ヲシテ監守セシム
 - 一 戰用衛生材料豫備品ハ衛生材料廠長ヲシテ保管セシム但シ場合ニ依リ衛戍病院長ヲシテ其ノ一部ヲ保管セシムルコトアルヘシ
 - 一 前項衛戍病院長ヲシテ保管セシムヘキ品目、數量ハ衛生材料廠長、醫務局長ノ區處ヲ受ケ之

ヲ衛戍病院長ニ移スヘシ

第五條 軍隊官衛學校ニ於テ演習又ハ其ノ他ノ必要ニ依リ戰用衛生材料ヲ使用セントスルトキハ管理者ノ認可ヲ得テ該保管者ニ請求スヘシ

第六條 軍隊官衛學校ニ配備シタル通常衛生材料ハ所在地衛戍病院長之ヲ管理シ該病院附軍醫若クハ藥劑官ヲシテ保管セシメ軍隊官衛學校ノ長ハ部下ノ責任アル者ヲシテ監守セシム

第三章 検査

第七條 衛生材料ノ検査ハ分テ定期及臨時ノ二トス

定期検査ハ專ラ戰用衛生材料ノ數量、品質、保存ニ就テ検査シ臨時検査ハ戰用及通常衛生材料ニ就テ之ヲ行フモノトス

第八條 定期検査ハ毎年一回管理者之ヲ行ヒ臨時検査ハ陸軍大臣検査官ヲ命シテ全國若クハ其ノ一部ニ就テ之ヲ行ハシム

前項ノ検査ヲ行ヒタルトキハ検査官ヨリ各其ノ實況ヲ陸軍大臣ニ報告
要務司令官醫務隊司令官ハ師團長ヲ經由シテス

第四章 新調、修理

第九條 材料ノ新調、修理ハ衛戍病院、衛生材料廠ニ於テセシム

衛戍病院所在地ニ於テ新調、修理シ能ハサル衛生材料ハ他ノ衛戍病院若クハ衛生材料廠ニ之ヲ依託スルコトヲ得

第十條 演習又ハ其ノ他ニ使用シタル戰用衛生材料ノ損失ニ係ル修理、新調ノ經費ハ該軍隊官衛學校ノ支辨トス

第十一條 制式アル器械ニシテ供給上ノ都合ニ依リ制式ニ從フコト能ハサル場合ニ在テハ衛戍病院長ハ所管軍醫部長、衛生材料廠長ハ醫務局長ノ區處ヲ受クヘシ

藥物ハ陸軍藥局方以外ノモノヲ購買又ハ製造スヘカラス但シ試驗藥、滋養品ニシテ所管軍醫部長其ノ必要ヲ認メタルモノハ此限ニ非ス

第五章 定數

第十二條 戰用衛生材料ノ定數ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第十三條 軍隊官衛學校ニ配備スル通常衛生材料中治療器械、試驗器械、調劑器械、磨工器械ノ定數ハ第一表、第二表、第三表、第四表、藥物ノ品目ハ病院ニ於テハ陸軍藥局方其他ニ在テハ第五表、消耗品ノ品目ハ第六表ニ依ル

要塞砲兵射擊學校、屯田兵各隊ノ藥物消耗品ハ病院ニ準ス

第十四條 軍隊官衛學校ニ於テ第五表以外ノ藥物ヲ要スルトキハ所管軍醫部長ノ承認ヲ經テ請求スルコトヲ得但シ臨時急ヲ要スル場合ニ在テハ事後承認ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 傳染病流行ノ際特ニ多量ニ要スヘキ藥物ハ衛戍病院、衛生材料廠ニ於テ貯藏スルモノトス其ノ品目、數量ハ第七表ニ依ル

第六章 支給、交換

第十六條 軍隊官衛學校ニ要スル通常衛生材料ハ所在地衛戍病院ヨリ支給シ衛戍病院ニ要スル材料ハ該病院自ラ之ヲ供給ス

外國駐屯又ハ病院ニ遠隔セル軍隊官衛學校ニ要スル衛生材料ニシテ特ニ其ノ地ニ於テ調辨スルヲ便ナリト認ムルモノハ衛生材料廠長若クハ衛戍病院長豫メ其ノ品類ヲ定メ該軍隊官衛學校ニ

於テ調辨セシムルコトヲ得

第十七條 通常衛生材料ノ受授ニ關スル手續ハ物品會計一般ノ規定ニ據ル

藥物消耗品ノ支給ハ毎月上旬ニ於テスルヲ例トス軍隊官衙學校ニ於テハ豫メ翌月所要ノ數量ヲ調査シ前月十五日マテニ病院ニ通報スヘシ但シ遠隔又ハ運輸不便ノ地ニ在テハ四箇月若クハ六箇月分ヲ受授スルモノトス

第十八條 軍隊官衙學校ニ於テ受領後變敗變質ノ虞アル藥物等ハ其ノ廢品ニ至ラサル以前ニ於テ當該病院ニ返納スヘシ

第十九條 戰用衛生材料ハ保管者ニ於テ隨時通常衛生材料ト新陳交換スルヲ例トス但シ衛生材料廠貯藏品ニ就テハ廠長ハ衛戍病院長ト連絡ヲ保チ更新ヲ行フヘシ

第二十條 動員シタル各部軍隊ニ要スル衛生材料ハ所在地豫備(要塞警備隊)病院若クハ衛戍病院ヨリ支給シ豫備(要塞警備隊)病院ニ要スルモノハ該病院自ラ之ヲ供給シ若クハ衛生材料廠ヨリ支給ス

戰地ニ在ル各部軍隊ニ補給スヘキ衛生材料ヲ貨物廠ニ送致スル事務ハ衛生材料廠ニ於テ之ヲ行フモノトス

第七章 返納

第二十一條 定數若クハ制式改正等ノ爲メ生シタル過剩品ハ之ヲ病院^{三等以下ノ病院ハ同}ニ返納スヘシ但シ其ノ運搬費ハ返納ヲ受ケタル病院ノ支辨トス

第二十二條 動員ノ際一時閉鎖シタル官衙學校及動員シタル軍隊ニ於ケル通常衛生材料ハ品目數・量書ヲ添ヘ病院ニ返納スヘシ

第八章 毀損・廢品

第二十三條 衛生材料ノ保存期限ハ之ヲ定メヌ修理ヲ加フルモ其ノ用ニ堪ヘサルカ又ハ得失相償ハスト認ムルモノハ廢品トス

取扱上ニ係ル藥物量目ノ減耗ハ百分ノ七以内ヲ公差トス

第二十四條 廢品處分ハ別ニ定ムル所ニ據ル

附則

第二十五條 臺灣ニ於ケル衛生材料ノ取扱ハ本則ニ準據スヘシ

第二十六條 臺灣陸軍補給廠字品支廠ニ要スル衛生材料ハ廣島衛戍病院屯田兵隊ニ要スルモノハ最寄衛戍病院ニ於テ支給交換等ヲ行フモノトス

第二十七條 屯田騎兵・砲兵・工兵隊ノ衛生材料ハ現在ノ備附ヲ以テ定數トス

(表略ス)

○陸軍部百十一號

衛生材料取扱規則別紙ノ通定ム

明治三十二年十月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別紙)

衛生材料取扱規則

第一章 總則

第一條 衛生材料ヲ整備シ以テ平戰兩時ノ供用ヲ完全ナラシムル爲メ本規則ヲ定ム

第二條 本規則ニ於テ衛生材料ト稱スルハ馬療器械或衛生用藥物及消耗品ヲ云フ

第二章 管理保管

第三條 師團所屬ノ軍隊及師管内ニアル學校ニ配備シタル通常獸醫材料ハ當該師團長管理ノ下ニ在テ獸醫部長之ヲ保管シ當該軍隊學校ノ長ハ部下ノ責任アル者ヲシテ之ヲ監守セシム

第四條 各師團ニ貯藏スル戰用獸醫材料ハ當該師團長ノ管理ノ下ニ在テ獸醫部長之ヲ保管シ其貯藏ニ任スル當該隊長ハ部下ノ責任アル者ヲシテ之ヲ監守セシム

第五條 軍隊ニ於テ演習又ハ其他ノ必要ニ依リ貯藏ノ戰用材料ヲ使用セントスルトキハ豫メ管理
者ノ許可ヲ得保管者ニ請求スヘシ

第三章 検査

第六條 獸醫材料ノ検査ハ分テ定期及臨時ノ二トス
定期検査ハ專ラ戰用材料ノ數量及保存ニ就テ検査シ臨時検査ハ戰用及通常獸醫材料ニ就テ之ヲ行フモノトス

第七條 定期検査ハ毎年一回師團長之ヲ行ヒ臨時検査ハ陸軍大臣検査官ヲ命シテ全國若クハ其一部ニ就テ之ヲ行ハシム

前項ノ検査ヲ行ヒタルトキハ検査官ヨリ各其實況ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第四章 新調修理支給交換

第八條 獸醫材料ノ新調修理等ハ師團獸醫部長ヲシテ其事ヲ掌ラシム
師團所在地ニ於テ新調シ能ハサル材料ハ衛生材料廠ニ依託スルコトヲ得

第九條 演習又ハ其他ノ必要ニ依リ使用シタル戰用獸醫材料ノ損失ニ係ル修理新調ノ經費ハ使用
軍隊ノ支辨トス

第十條 制式アル器械ニシテ供給上ノ都合ニ依リ其式ニ從フコト能ハサル場合ニ在テハ師團獸醫
部長ヨリ軍務局長ノ區處ヲ受クヘシ

第十一條 外國駐屯軍隊ニ要スル獸醫材料ニシテ特ニ其地ニ於テ調辨スルヲ便ナリト認ムルモノ
ハ衛生材料廠長豫メ其品類ヲ定メ該軍隊ニ於テ調辨セシムルコトヲ得

第十二條 戰用獸醫材料ハ保管者隨時之ヲ通常獸醫材料ト新陳交換スルヲ例トス

第十三條 戰地ニ在ル各部團隊ニ補給スヘキ材料ヲ貨物廠ニ送致スル事務ハ衛生材料廠ニ於テ之
ヲ行フモノトス

第五章 定數

第十四條 通常獸醫材料ノ品目ハ第一表第二表及第三表ニ據ル

第十五條 戰用獸醫材料ノ定數ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第十六條 軍隊學校ニ於テ第二表以外ノ藥物ヲ要スルトキハ獸醫部長ニ請求スヘシ

第六章 返納

第十七條 定數若クハ制式改正等ノ爲メ生シタル過剩品ハ之ヲ當該師團司令部ニ返納スヘシ但其
運搬費ハ返納ヲ受ケタル司令部ノ支辨トス

第十八條 動員シタル軍隊ニ於ケル通常獸醫材料ハ品目數量書ヲ添ヘ師團司令部ニ返納スヘシ

第七章 毀損廢品

第十九條 材料ノ保存期限ハ之ヲ定メス修理ヲ加フルモ其用ニ堪ヘサルカ又ハ得失相償ハスト認
ムルモノハ廢品トス

第二十條 取扱上ニ係ル藥物量目ノ減耗ハ百分ノ七以内ヲ公差トス

附則

第二十一條 臺灣ニ於ケル獸醫材料ノ取扱手續ハ本則ニ準據スヘシ
第二十二條 屯田兵隊ニ要スル獸醫材料ハ第七師團司令部ニ於テ其支給交換等ヲ行フモノトス
(表略ス)

○陸軍部百十二號

明治三十一年陸軍部百二十三號衛生材料獸醫材料取扱規則ヲ廢ス

○陸軍部百十三號

明治二十九年陸軍部百四十八號師團監督部服務規則中左ノ通改正シ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十二年十月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第三條中「補充」ノ二字ヲ削ル

第四條中「監督長」ヲ「監督監」ニ改ム

第十條第二項ヲ削リ第三項中「書記」ヲ「計手」ニ改ム

第十一條但書ヲ削ル

第十二條第一課分掌中第二ヲ削ル

(參照)

陸軍部百四十八號師團監督部服務規則(明治二十九年十月十五日抄録)

第三條 部長ハ監督部軍吏部士官教育及志願軍吏生ノ教育或ニ軍吏部下士補充教育ノコトヲ掌リ其成績ヲ經理局長ニ申報スヘシ

第四條 監督部ノ部長タル監督長又ハ監督ハ勲員ニ係ル監督部軍吏部ノ人員及會計上附屬ノ準備ヲ師團長ノ規畫ニ基キ整備スヘシ

第十條 隊長ハ課務ヲ部長ニ分チ其事務ヲ督勵シ部長ハ課長ノ命ヲ受ケ分掌ノ事務ヲ制規ニ照シ處理スヘシ
第七師團監督部部長ハ前項ニ準シテ事務ヲ處理ス

第十一條 師團監督部課長疾病事故ニ依リ代理ヲ要スルトキハ部長ハ他ノ課長ニ其代理ヲ命スヘシ但第七師團監督部部長ニ在テ疾病事故ニ依リ勤務ヲ缺キタルトキハ高級副部長ヲシテ其事務ヲ取扱ハシムヘシ

第十二條 師團監督部各課事務ノ分掌ハ概テ左ノ如シ但臨時ノ事項ハ部長適宜ニ其分掌ヲ定ムヘシ
第一課
一 軍吏部下士補充教育ニ關スル事項

○陸軍部百十四號

陸軍平時備人定員表中左ノ通改正ス

明治三十二年十月二十八日

臺灣陸軍法官部ノ區畫ヲ左ノ通改ム

臺灣陸軍法官部ノ法

參謀本部ノ區畫ヲ左ノ通改ム

第七師團監督部ノ區畫ヲ削ル

陸軍衛生材料廠ノ區畫ヲ左ノ通改ム

臺灣陸軍補給廠及東京、大阪砲兵工廠ノ區畫ヲ左ノ通改ム

陸軍大臣子爵桂 太郎

衛戍病院一等二等ノ區畫ヲ左ノ通改ム

廠	支			守	守	守	守	守
	本	基	中					
臺				三	五	三	一〇	一八
陸				三	六	六		四
軍				四	九	四	六	四
補				六	三	一		二
給				二	二	三		二
廠				二	二	二		二
廠				二	二	二		二
東京砲兵工廠				三	三	三		二
大阪砲兵工廠				三	三	三		二

二	一	等	等	三	四	五	六	七	八

陸軍經營部ノ區畫中小倉ノ下ニ旭川ヲ加ヘ札幌ノ畫ヲ削ル

衛戍監獄ノ區畫中小倉ノ下ニ旭川ヲ加ヘ札幌ノ畫ヲ削ル

陸軍砲工學校ノ區畫ヲ左ノ通改ム

陸軍砲工學校	二	二	二	二	二	二	二	二	二
--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

陸軍教導團ノ區畫ヲ削リ陸軍經理學校ノ區畫ヲ左ノ通改ム

陸軍經理學校	一	一	一	一	一	一	一	一	一
--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

陸軍要塞砲兵射擊學校ノ區畫ヲ左ノ通改ム

陸軍要塞砲兵射擊學校	四	三	三	三	三	三	三	三	三
------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

備考中第七項ヲ左ノ通改ム

(七)衛戍病院二等ノ内丸龜小倉ニハ看病人二名小使廚夫各一名旭川ニハ看病人十三名三等ノ内

佐倉習志野ニハ看病人七名小使廚夫各一名伏見福知山ニハ看病人三名廚夫一名國府臺ニハ

看病人四名札幌ニハ小使一名ヲ増加シ、五等ノ内嚴原、鷓知ニハ磨工一名ヲ加フ又一等ノ内廣

島ニハ看病人四十名磨工一名小使五名廚夫二名、二等ノ内大阪姫路ニハ看病人二名、弘前ニハ

看病人十三名小使一名廚夫二名、五等ノ内嚴原ニハ看病人一名ヲ減ス

○海軍省達第七十號

明治三十一年四月達第五十九號海軍軍醫官服務規則第十八條左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十二年十月三日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第七十一號

艦艇及水雷敷設隊現狀報告規則中左ノ通改正ス

明治三十二年十月六日

海軍大臣山本權兵衛

第二條 軍艦ノ現狀報告ハ其ノ艦長、第三條豫備艦ニ在テハ軍港部長若ハ直屬ノ部團校所長之ヲ調

製シ水雷艇ノ現狀報告ハ水雷艇隊司令水雷艇隊司令ノ附近ニ在ラ水雷敷設隊ノ現狀報告ハ水雷

敷設隊司令之ヲ調製シ各一通ツ、海軍大臣海軍軍令部長及所管長官ニ進達スヘシ

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

臨時報告ニハ必要ノ事項ノミヲ記入スルモノトス

第四條第二號中「機關ノ開放ヲ兵器機關ノ分解開放ニ改ム

第一表及第三表人員ノ欄中卒ノ部ヲ左ノ如ク改ム

計	卒				機關兵	砲兵	看護	主廚	計
	一	二	三	四					
兵種									
水兵									
信號兵									
木工									
機關兵									
砲兵									
看護									
主廚									
計									

第一表第二頁裏欄外記事第二項以下ヲ左ノ如ク改ム

准士官以上ノ職務心得ヲ命セラレタル者ハ固有ノ官等ノ部ニ記セス其ノ心得タル職相當ノ官等ノ部ニ缺員ノ數ヲ記入シ備考ノ欄ニ例ヘハ上等兵曹缺員一ハ職務心得ノ一等兵曹ヲ以テ補缺スト云フ類ノコトヲ記スヘシ

定員外乗組ノ欄ニハ官(卒ハ職)名及現在員數ヲ黑字ニテ記入スヘシ旗艦増加定員ハ單ニ其ノ合計數ヲ記入シ其ノ缺員アル場合ハ朱字ニテ但何人缺ト記シ又備員ハ單ニ其ノ合計數ヲ記入スヘシ備考ノ欄ニハ少佐缺員一ハ副長、大尉缺員一ハ分隊長ニシテ砲術長之ヲ兼務スト云フ類ノコトヲ記スヘシ

○海軍省達第七十二號

雇員備人規則第三條左表中賄夫ノ欄監獄ノ下ニ「軍醫學校、主計官練習所」ヲ追加ス

明治三十二年十月六日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第七十三號

艦團部隊金銭出納規程中左ノ通改正ス

明治三十二年十月六日

海軍大臣山本權兵衛

第十四條 金銭ノ仕拂ハ總テ艦團部隊内ニ於テ之ヲ執行スヘシ但シ行軍演習其ノ他臨時必要ニ際シ艦團部隊外ニ於テ現金ノ仕拂ヲ要スルモノアルトキハ所轄長ハ士官以上ニ分任出納官吏ヲ命

シ主計長保管金ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相當ノ保護ヲ爲スヘシ

〔參照〕

海軍省達第三十三號艦團部隊金銭出納規程(明治二十七年三月十五日)抄錄

第十四條 金銭ノ仕拂ハ總テ艦團部隊内ニ於テ之ヲ執行スヘシ但行軍演習其ノ他臨時必要ニ際シ艦團部隊外ニ於テ現金ノ仕拂ヲ要スルモノアルトキハ所轄長ハ他ノ主計若クハ其ノ他ノ士官ヲシテ分任官トナシ主計長保管金ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相當ノ保護ヲ爲スヘシ

○海軍省達第七十四號

軍艦職員勤務令第一章第二十四條ヲ削除ス

明治三十二年十月六日

海軍大臣山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第二號軍艦職員勤務令(明治三十一年一月十四日)抄錄

第一章

第二十四條 艦長ハ卒以下ヲ他ニ轉勤セシムルコトヲ得但シ其ノ都度所管長官ニ報告スヘシ

○海軍省達第七十五號

艦船損害事實查問規則左ノ通相定ム

明治三十二年十月十日

海軍大臣山本權兵衛

明治三十二年十月

海軍省達第七十三號

第七十四號

第七十五號

艦船損害事實查問規則

三九八

艦船損害事實查問規則

- 第一條 司令長官ハ艦下艦船ニ於テ坐礁衝突、火災若ハ其ノ他ノ理由ニ依リ人員、船體、機關、兵器若ハ其ノ他ノ物件ニ重大ナル損害ヲ生シ又ハ役務上重大ナル障害ヲ惹起シタルトキハ艦下ノ將校、同相當官若干名ヲ以テ查問委員ヲ編制シ其ノ始末ヲ調査セシム可シ但シ委員中一名ハ其ノ取調ヲ受クヘキ者ヨリ上席ノ者ヲ以テスヘシ
- 第二條 司令長官ハ查問ノ爲必要ナルトキハ部下ノ職員ニ其ノ書記ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 查問委員ハ損害ノ事實及原因ヲ調査シ意見ヲ附シテ司令長官ニ報告ス可シ
- 第四條 司令長官ハ查問委員ヨリ前條ノ報告アリタルトキハ其ノ要領ニ之カ處分ニ關スル意見ヲ附シ速ニ海軍大臣ニ届出可シ
- 第五條 查問委員ハ當該事件關係者若ハ其ノ事實ヲ知リタリト認メタル者ニ就キ尋問スルコトヲ得
- 第六條 查問委員ハ尋問ノ爲呼出スコトヲ要スル者アルトキハ直ニ本人ヲ呼出スコトヲ得但シ查問委員ヨリ上席者ナルトキ遠隔ノ地ニアルトキ若ハ所轄ヲ異ニスルトキハ之ヲ司令長官ニ具申スヘシ
- 第七條 查問委員ハ當該事件ニ關係アル場所若ハ物件ヲ檢視スルコトヲ得但シ其ノ遠隔ノ地ニアルトキ若ハ所轄ヲ異ニスルトキハ之ヲ司令長官ニ具申ス可シ
- 第八條 當該事件ヲ判決ニ付スルトキハ其ノ查問委員タリシ者ヲ判士長若ハ判士ニ任命スヘカラス

○海軍省達第七十六號

航泊日誌取扱及記載心得中左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十二年十月十四日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第七十七號

自今准士官以上ノ武官ニシテ引入療養届又ハ轉地療養願等ニ添付スル醫證ハ海軍軍醫官ノ診斷シタル者タルヘシ但シ海軍軍醫官ノ醫證ヲ得ルコト能ハサル場合ニハ其理由ヲ附記シ地方醫師ノ醫證ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

病氣全治或ハ輕快シテ出勤スル者アル場合ニ於テ所屬長必要ト認ムルトキハ軍醫官ヲシテ診斷セシメ其診斷證書ヲ徵シ海軍大臣ニ届出ヘシ

明治三十二年十月十四日

海軍大臣山本權兵衛

○海軍省達第七十八號

明治三十一年達第三十五號軍艦及水雷艇類別等級表中別紙ノ通追加ス

明治三十二年十月十八日

海軍大臣山本權兵衛

(別紙)

軍艦	類別	等級	艦名
戰艦	一等	初瀬	三笠
巡洋艦	一等	出雲	磐手

類別	水		雷		總	
	等	千島	等	等	等	等
第一	第二十九號	第三十號	第三十一號	第三十二號	第三十三號	
第二	第三十四號	第三十五號	第三十六號	第三十七號	第三十八號	
第三	第三十九號	第四十號	第四十一號	第四十二號	第四十三號	
第四	第四十四號	第四十五號	第四十六號	第四十七號	第四十八號	
第五	第四十九號	第六十號	第六十一號	第六十二號	第六十三號	
第六	第六十四號	第六十五號				
第七	第五十號	第五十一號	第五十二號	第五十三號	第五十四號	
第八	第五十五號	第五十六號	第五十七號	第五十八號	第五十九號	

○海軍省達第七十九號
糧食經理規程中左ノ通改正ス

明治三十二年十月二十日

海軍大臣山本權兵衛

第八條 左ニ掲グル事項ノ一ニ該ルトキハ第二表ニ依リ換給スルコトヲ得

- 一 請負人ヲ置カサル地方ニ於テ第一表ノ糧食品ノ價格毎年定ムル所ノ代價ニ超過スルトキ
- 二 第一表ノ糧食品ヲ得ル能ハサルトキ、火氣ヲ禁シタルトキ、風浪ノ爲メ若ハ演習行軍ノ際通常ノ調理ヲ爲ス能ハサルトキ

三 第十九條第五項ニ依リ供給ヲ受ケタルトキ若ハ貯藏ニ堪エヌト認ムル貯糧品ニシテ給與ノ必要アルトキ

第十九條ニ左ノ一項ヲ追加ス

兵備品會計官吏ハ自己ノ保管ニ屬スル貯糧品ニシテ貯藏ニ堪エヌト認ムルモノアルトキハ生糧品ニ換ヘ供給スルコトヲ得

第二十二條第二項ヲ削除ス

〔參照〕

海軍省達第四十四號糧食經理規程(明治三十一年三月二十九日)抄錄

- 第八條 左ニ掲グル事項ノ一ニ該ルトキハ第一表ノ糧食品ヲ給與スルコトヲ得サルトキハ第二表ニ依リ換給スルコトヲ得
- 一 請負人ヲ置カサル地方ニ於テ第一表ノ糧食品ノ價格毎年定ムル所ノ代價ニ超過スルトキ
- 二 第一表ノ糧食品ヲ得ル能ハサルトキ、火氣ヲ禁シタルトキ、風浪ノ爲メ若ハ演習行軍ノ際通常ノ調理ヲ爲ス能ハサルトキ

第二十二條第二項

運納品中乾物類ニシテ貯藏ニ堪エヌト認ムルモノアルトキハ兵備品會計官吏ニ於テ適宜生野菜ニ代ヘ供給スルコトヲ得

○海軍省達第七十九號

自今發光信號燈用送風機並ニ氣蓄罐ヲ廢止ス

海軍大臣山本權兵衛

○宮内省達甲第七號

- 一 明治十七年十月十六日 天政官達第九十一號侍從職式部職大禮服徽章表中「自四等官至七等官」ノ八字及八等官九等官ノ欄ヲ削除ス
- 一 明治二十一年十月十日 宮内省達第十九號主獵局勅委任官大禮服徽章表中「委任官自一等至四等」ヲ「委任官」ニ改メ委任官五等六等ノ欄ヲ削除ス
- 一 明治二十一年十月十日 宮内省達第二十四號主馬頭以下ノ大禮服制表中調馬師上衣前章ノ欄内「菊模樣六枝ヲ金繻ス他ハ上ニ同シ」ヲ「同上」ニ改ム
- 一 明治二十二年十月十日 宮内省達第十九號ヲ廢ス
- 一 明治二十二年十月十日 宮内省達第二十號中助ノ下ノ註「委任官四等以上」ノ七字及追加ノ一項ヲ削除ス
- 一 明治二十二年十月十日 宮内省達第二十六號東宮職勅委任官大禮服徽章表中委任官上衣前面ノ欄内「四等以上ハ」ノ五字「五等以下ハ七枝」ノ七字及同袖章ノ欄内「只五等以下ハ」下リ菊模樣一枝ヲ付スノ十六字ヲ削除ス

明治三十二年十一月四日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

〔參照〕

明治二十二年十月十日 宮内省達第十九號ハ主殿寮勅委任官大禮服徽章表中追加ノ件、同第二十號ハ主馬頭以下大禮服制表中改正追加ノ件ナリ

○陸達第百十五號

韓國ニ在勤スル陸軍文官及陸軍省雇員ハ陸軍文官請願休暇手續ニ準シ休暇ヲ請願スルコトヲ得其取扱ハ同手續ニ據ル

明治三十二年十一月二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百十六號

明治三十二年十一月ヨリ長崎兵器支廠ヲ置ク

明治三十二年十一月二日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百十七號

屯田兵配備表備考第二項ヲ刪除セラル

明治三十二年十一月四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔参照〕

陸達第百十五號屯田兵配備表(明治三十二年五月二十二日)抄録

備考第二項

第三大隊本部ハ明治三十二年度ハ石狩國上川郡永山村ニ置キ同三十三年度ニ至リ本表ノ位置(天鹽國上川郡劍淵村)ニ移ルモノトス

○陸達第百十八號

明治二十七年陸達第十六號陸軍省所管歳入歳出各局課擔任區分左ノ通改正ス

明治三十二年十一月七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(△符ハ朱書)

歳入ノ部		歳出ノ部	
局 部 課 名	擔 任 區 分	局 部 課 名	擔 任 區 分
大臣官房		軍務局	
副官部	大臣官房、軍務局、經理局、醫務局、法官部	軍事課	元帥府參謀本部、教育總監部、海軍總監部、陸軍總監部、大學校、砲工學校、士官學校、月山學校、中央幼年學校、地方幼年學校、騎兵實地學校、野戰砲兵、射擊學校、要
人事課	侍從武官、東宮武官、皇族附武官	步兵課	都督部、前哨司令部、(各隊共) 警備隊司令部、(警備步兵隊共) 臺灣守備混成旅團司令部、(各隊共) 聯隊區司令部、警備隊司令部、憲兵司令部、憲兵隊、臺灣法官部、(各隊共) 屯田各兵隊
		騎兵課	獸醫學校、軍馬補充部、臺灣獸醫部
		砲兵課	砲兵會議、砲兵工科學校
		工兵課	東京防禦總督部、要路司令部、工兵會議、築城部、臺灣補給廠、鐵道隊材料廠、臨時電信部
		兵器課	兵器廠、砲兵工廠
		經理局	監督部、經理學校
		醫務局	陸地測量部、衛戍監獄、糧餉部、被服廠、中央檢練廠、子住製絨所
		醫務局	經理部、臨時建築部
		醫務局	衛戍病院、衛生材料廠、軍醫學校、臺灣軍醫部

歳出ノ部		歳入ノ部	
局 部 課 名	擔 任 區 分	局 部 課 名	擔 任 區 分
副官部	本省費、運輸及陸給、糧費、旅費、雜給及雜費、諸手當、馬匹費、(附屬及西費) 大臣官房及各局部課	軍務局	
	「增國神社寄附金」	軍事課	
	「戰役殘務整理費」(臨時) (戰役殘務)	步兵課	
		騎兵課	
		砲兵課	
		工兵課	
		兵器課	
		經理局	
		醫務局	

大臣官房	人事課	軍事課	步兵課
<p>「軍事費」俸給及請給、諸手當、馬匹費(中略)、「侍從武官、東宮武官、皇族附武官、各官衛各所」休職者、停職者、非職理事 「軍事費」諸手當中生徒、傷手當、船役恤金、「候補生及諸生徒、船役者」一時賜金(中略)、「各官衛各所」</p>	<p>「軍事費」俸給及請給、諸手當、賠償及訴訟費、旅費(中略)、「侍從武官、東宮武官、皇族附武官、各官衛各所」休職者、停職者、非職理事 「軍事費」諸手當中生徒、傷手當、船役恤金、「候補生及諸生徒、船役者」一時賜金(中略)、「各官衛各所」</p>	<p>「軍事費」俸給及請給、諸手當、賠償及訴訟費、旅費(中略)、「侍從武官、東宮武官、皇族附武官、各官衛各所」休職者、停職者、非職理事 「軍事費」諸手當中生徒、傷手當、船役恤金、「候補生及諸生徒、船役者」一時賜金(中略)、「各官衛各所」</p>	<p>「軍事費」俸給及請給、諸手當、賠償及訴訟費、旅費(中略)、「侍從武官、東宮武官、皇族附武官、各官衛各所」休職者、停職者、非職理事 「軍事費」諸手當中生徒、傷手當、船役恤金、「候補生及諸生徒、船役者」一時賜金(中略)、「各官衛各所」</p>

軍務局	騎兵課	砲兵課	工兵課	兵器課	第一課
<p>「本省費」「軍事費」「憲兵費」「屯田兵費」「馬匹費」(中略)「各官衛各所」</p>	<p>「本省費」「軍事費」「憲兵費」「屯田兵費」「馬匹費」(中略)「各官衛各所」</p>	<p>「本省費」「軍事費」「憲兵費」「屯田兵費」「馬匹費」(中略)「各官衛各所」</p>	<p>「本省費」「軍事費」「憲兵費」「屯田兵費」「馬匹費」(中略)「各官衛各所」</p>	<p>「本省費」「軍事費」「憲兵費」「屯田兵費」「馬匹費」(中略)「各官衛各所」</p>	<p>「本省費」「軍事費」「憲兵費」「屯田兵費」「馬匹費」(中略)「各官衛各所」</p>

經理局		第二課	第三課	醫務局 第二課
<p>「軍事費」旅費中赴任旅費(母生生徒卒業後)歸郷旅費(母生生徒不合格其他)犯罪人護送者旅費(各官衙)各所</p> <p>「軍事費」修給及諸給(陸軍)死傷手当旅費(外國駐在)修給及諸給(陸軍)馬匹費(中國駐在)囚徒費(兵要地圖費)</p> <p>「陸軍測量部」糧餉部(被服廠)中央糧米廠(監獄)</p> <p>「本省費」軍事費「憲兵費」屯田兵費「糧食費」被服費(馬匹費)各官衙各所</p> <p>「測量費」(陸軍)陸軍測量部</p> <p>「營繕及初度調辦費」(陸軍)被服費(各官衙)各所</p> <p>「特設部隊費」(陸軍)糧食費(被服費)馬匹費(陸軍)</p> <p>「臨時憲兵隊」同電信部</p> <p>「作業費」(陸軍)住製被服所</p>		<p>「軍事費」修給及諸給(陸軍)修繕費(死傷手当)旅費(外國駐在)修給及諸給(陸軍)馬匹費(中國駐在)囚徒費(兵要地圖費)</p> <p>「陸軍測量部」糧餉部(被服廠)中央糧米廠(監獄)</p> <p>「本省費」軍事費「憲兵費」屯田兵費「糧食費」被服費(馬匹費)各官衙各所</p> <p>「測量費」(陸軍)陸軍測量部</p> <p>「營繕及初度調辦費」(陸軍)被服費(各官衙)各所</p> <p>「臨時陸軍建築費」(陸軍)新營及陣營具備付費(各官衙)各所</p>	<p>「軍事費」修給及諸給(陸軍)死傷手当旅費(外國駐在)修給及諸給(陸軍)馬匹費(中國駐在)囚徒費(兵要地圖費)</p> <p>「陸軍測量部」糧餉部(被服廠)中央糧米廠(監獄)</p> <p>「本省費」軍事費「憲兵費」屯田兵費「糧食費」被服費(馬匹費)各官衙各所</p> <p>「測量費」(陸軍)陸軍測量部</p> <p>「營繕及初度調辦費」(陸軍)被服費(各官衙)各所</p> <p>「臨時陸軍建築費」(陸軍)新營及陣營具備付費(各官衙)各所</p>	<p>「臨時特設部隊費」(陸軍)臨時部隊費(衛生材料)患者費(臨時憲兵隊)同電信部</p>

○陸達第百十九號

要塞火藥罐別紙圖面ノ通定(別紙略ス)

明治三十三年十一月十三日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百二十號

明治二十年陸達第九十七號裝蹄及剃毛器械制式中及定數表別冊ノ通改正ス(別冊略ス)

明治三十三年十一月十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸達第百二十一號

陸軍衛生部下士候補者教育令左ノ通定

明治三十三年十一月十七日

陸軍大臣子爵桂 太郎

陸軍衛生部下士候補者教育令

第一條 陸軍衛生部下士候補者トシテ教育スヘキ者ハ看護手及衛生部下士候補生トス

其一 看護手

第二條 看護手ハ隊附高級醫官ニ於テ入隊ノ月ヨリ起算シ一年三箇月以上現役ニ服シ衛生部下士

適當ト認ムル者ニ就キ之ヲ選ヒ三月盡日マテニ隊長ヲ經テ師團軍醫部長ニ申報スヘシ

第三條 師團軍醫部長ハ前條ノ申報ニ基キ下士候補者ヲ撰定シ之ヲ隊長ニ通報スヘシ

第四條 下士候補者タル看護手ノ教育ハ毎年四月ヨリ九月ニ至ル間ニ於テ約ネ五箇月間之ヲ行フ

其ノ授業時間ハ一日約三時間トス

第五條 前條教育期中前二箇月間ハ看護學後三箇月間ハ調劑學ヲ教授スルモノトス

第六條 看護學ノ教育ハ隊附高級醫官其ノ責ニ任シ軍醫一名ヲシテ之ヲ擔任セシメ助手トシテ看

護長一名ヲ附ス

第七條 調劑學ノ教育ハ所在地衛戍病院ニ通學セシメ病院長教育ノ責ニ任シ藥劑官藥劑官在ラザルトキハ軍醫一名ヲシテ之ヲ擔任セシメ助手トシテ看護長一名若クハ二名ヲ附ス

第八條 看護學ノ教育ヲ終リタルトキハ隊附高級醫官優劣ノ順序ヲ定メ隊長ヲ經テ師團軍醫部長ニ申報シ調劑學ノ教育ヲ終リタルトキハ病院長優劣ノ順序ヲ定メ師團軍醫部長及隊長ニ申報スヘシ
其二 下士候補生

第九條 下士候補生ハ歩兵聯隊ニ配賦シ其ノ教育ハ通シテ二箇年トス

第十條 下士候補生ハ入隊ノ月ヨリ六箇月間ハ專ラ軍事教育ヲ授ケ後六箇月間ハ所在地衛戍病院ニ通學セシメ看護學修業兵教育規則ニ據リ同修業兵ト共ニ教育ス

第十一條 前條ノ教育ヲ終リタル後更ニ一箇年間所在地衛戍病院ニ通學セシメ前約ネ五箇月間ハ衛生部下士タルニ必要ナル看護學調劑學ヲ授ケ後約ネ七箇月間ハ其ノ實務ヲ練習セシム

第十二條 衛戍病院ニ於ケル教育ニ關シテハ當該衛戍病院長其ノ責ニ任ス
前條ノ教官ハ軍醫藥劑官各一名ヲシテ擔任セシメ助手トシテ看護長若干名ヲ附ス

第十三條 第十條ノ軍事教育ヲ終リタルトキハ聯隊長之ヲ病院長ニ、同條看護學ノ教育ヲ終リタルトキハ病院長之ヲ聯隊長ニ通報スヘシ

第十四條 病院長ハ第十一條ノ教育ヲ終レハ卒業試験ヲ行ヒ優劣ノ順序ヲ定メ卒業證書ヲ付與シ同時ニ卒業名簿ノ寫ヲ添ヘ之ヲ師團軍醫部長及聯隊長ニ申報スヘシ

第十五條 下士候補生中傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ卒業試験ヲ受ケ得サル者又ハ卒業試験ニ落第シタル者ノ内後來尙ホ望アル者ハ若干日間修業ヲ延期スルコトアルヘシ

第十六條 下士候補生ノ授業ニ係ル消耗品ハ之ヲ支給シ必要ノ圖書器具ハ支給又ハ貸與スルコトアルヘシ

卒業證書(用紙島ノ子) 五寸六分

<p>陸軍看護學調劑學</p> <p>卒業證書</p>		<p>姓名</p> <p>陸軍衛生部下士候補生</p>
<p>本業</p> <p>明治何年何月何日</p>		<p>姓名</p> <p>陸軍衛生部下士候補生</p>

陸軍省陸軍部百二十一號 陸軍衛生部下士候補者教育令

○陸軍部百二十二號

明治三十年陸軍第七十八號調劑手續補者教育手續ハ明治三十一年十一月三十日限り廢止ス
明治三十三年十一月十七日 陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部百二十三號

陸軍武官增俸給與規程別冊ノ通相定ム
但陸軍士官及准士官下士一等給給與内則ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス
明治三十三年十一月二十日 陸軍大臣子爵桂 太郎

(別冊)

陸軍武官增俸給與規程

- 第一條 士官准士官或曹長同相當官及一等諸工長ノ一等給ハ行狀方正勤務勉勵ニシテ左ノ各項ノ一ニ當該スルモノニ之ヲ給ス
 - 一 各兵科大中尉ハ任官後二箇年以上勤績ノ者ニシテ各官毎ニ各兵科ヲ通シ在職現員ノ上三分一ニ在ル者
 - 二 監督補、一二等軍醫、同藥劑官、同獸醫、同軍吏、樂長ハ任官後二箇年以上勤績ノ者ニシテ各部毎ニ各官在職現員ノ上三分一ニ在ル者但特別俸ヲ給スル者ハ此ノ在職現員中ニハ之ヲ算入セス以下特別俸ノ制ニアル者皆同シ
 - 三 砲工兵上等工長、樂長補ハ任官後一箇年以上勤績ノ者ニシテ各兵科及軍樂部毎ニ各官在職現員ノ上三分一ニ在ル者
 - 四 各兵科曹長、各兵一等諸工長、一等軍樂手ハ任官後一箇年以上勤績ノ者ニシテ所屬部隊一等諸

在所管ハ 毎ニ各官現員ノ上三分一ニ在ル者但官衙ニシテ本部支部若クハ本廠支廠アルモノハ本支部(廠)ヲ通スルモノトス

- 五 一等看護長ハ任官後一箇年以上勤績ノ者ニシテ各師管内ヲ通シ各官現員ノ上三分一ニ在ル者但近衛師團ニ在テハ軍醫部及各隊ヲ通シ臺灣ニ在テハ全島ヲ通シ臨時電信部ニ在テハ同部附全員ヲ通スルモノトス
- 六 一等計手、一等縫(靴)工長ハ任官後一箇年以上勤績ノ者ニシテ各監督部事務管轄區域毎ニ現員ノ上三分一又經理局直轄學校及官衙ハ之ヲ通シテ現員ノ上三分一ニ在ル者

第二條 軍曹同相當官及二等諸工長ノ四等給ヨリ逐次一等給ニ進ムル増給ハ各級共ニ六箇月以上ヲ勤績シ且行狀方正勤務勉勵ノ者ニ之ヲ給ス

第三條 上長官士官准士官ノ特別俸ハ行狀方正多年勤勞成績顯著ニシテ左項ノ一ニ當該スル者ニ之ヲ給ス但其人員ハ(樂長ヲ)在職現員ノ十分ニ超ルヲ得ス

- 一 藥劑監及獸醫監ノ乙俸ニ進ムハ任官後三箇年以上勤績ノ者ニシテ乙俸ヨリ甲俸ニ進ムハ乙俸ヲ受ケタル後二箇年以上トス
- 二 一等軍吏ノ乙俸ニ進ムハ一等級給ヲ受ケタル後二箇年以上勤績ノ者ニシテ乙俸ヨリ甲俸ニ進ム亦之ニ準ス
- 三 樂長ノ丙俸ニ進ムハ一等級給ヲ受ケタル後二箇年以上勤績ノ者ニシテ丙俸ヨリ逐次甲俸ニ進ム各級ノ年限亦之ニ準ス
- 四 砲工兵上等工長ノ丁俸ニ進ムハ一等級給ヲ受ケタル後二箇年以上勤績ノ者ニシテ丁俸ヨリ逐次甲俸ニ進ム各級ノ年限亦之ニ準ス

第四條 第二條第三條ノ俸給内ニ數等アルモノ、人員區分ハ左ノ比例ニ據ル但各兵科下士ニ在テハ各所屬部隊ニ在テハ所管工長毎ニ各官ニ區分シ又衛生部、軍吏部下士ノ所屬ニ就テハ第一條第五項第六項ノ區域ニ據リ又本支部(廠)アルモノハ之ヲ通スルモノトス

一 甲乙二級アルモノハ

甲額三分ノ一 乙額三分ノ二

二 甲乙丙丁四級アルモノハ

甲額十分ノ一 乙額十分ノ二

丙額十分ノ三 丁額十分ノ四

三 四等給アルモノハ

一等給及二等給 十分ノ二

三等給及四等給 十分ノ三

第五條 營外居住ノ曹長同相當官及一等諸工長ノ特別俸ハ入隊後八箇年以上服役シ且一等給ヲ受ケタル後一箇年ヲ超ヘ各所屬毎ニ各官現員ノ上三分一以上ニ在リ行狀方正勤務ノ結果優秀ナル者ニ給ス但衛生部及軍吏部下士ノ所屬ニ就テハ第二條第五項第六項ノ區域ニ據リ又本支部(廠)アルモノハ之ヲ通スルモノトス

第六條 左ノ各項ノ一ニ當該スル者ハ前各條ノ規定ニ據ラサルコトヲ得

一 士官ニシテ憲兵科輜重兵科及監督部ニ下士ニシテ憲兵科軍吏部ニ轉科スル者又營内居住ノ下士ニシテ營外居住ノ職ニ轉スル者既ニ上級ノ俸給ヲ給與シタル者但特別俸ヲ受ケタル一等軍吏ヨリ監督部ニ轉科スル者ニ在テハ別ニ辭令ヲ用井ス一等給ヲ給スルモノトス

二 軍樂部准士官下士及各兵科下士ニシテ定員該准士官ニ在テハ限ルモノニ在テハ上一人ニ又同一人ニ限ルモノニ在テハ之ニ上級ノ給料ヲ支給スルコトヲ得

第七條 増給ノ人員ヲ調査スルトキ端數ヲ生スルモノハ總テ之ヲ切上ルヲ得

第八條 増俸給與ヲ命スルノ手續ハ左ノ各項ニ據ル

一 各兵科大中尉樂長樂長補、砲工兵上等工長ニ在テハ所管長官ヨリ陸軍大臣ニ稟申シ同大臣ニ於テス

二 監督補、二等軍吏ニ在テハ經理局長藥劑監、二等軍醫、同藥劑官ニ在テハ醫務局長、獸醫監、二等獸醫ニ在テハ軍務局長ヨリ陸軍大臣ニ稟申シ同大臣ニ於テス

三 隊附各兵科下士ニ在テハ當該隊長各兵科工長ニ在テハ所管長官生之ヲ命シ其隊外ノ者ニ在テハ當該官衛學校長ニ於テス但所管長官ニ直屬スルモノハ當該長官ニ於テスルモノトス

四 衛生部下士ニ在テハ當該軍醫部長ニ於テス但臨時電信部附ノ者ニ在テハ醫務局長ニ於テスルモノトス

五 軍吏部下士ニ在テハ當該監督部長ニ於テス但經理局直轄學校及官衛附ノ者ニ在テハ該局長ニ於テスルモノトス

六 軍樂部下士ニ在テハ當該隊長又ハ當該校長ヨリ師團長若クハ戶山學校長ニ稟申シ當該長官ニ於テス

附 則

第九條 本則ハ明治三十二年十一月一日ヨリ施行ス

第十條 本則ハ施行ノ際下士ニシテ既ニ一等給ヲ支給シタル者及陸軍武官官等表並陸軍武官進級

令中改正ノ爲メ官名變更及任官セラレタル者ハ其列次等第二條第三條第五條ノ規定外ニアル者左項ニ據リ相當ノ給額ヲ給ス

- 一 曹長同相當官ニシテ既ニ一等給ヲ支給シタル者ハ一等給ヲ給ス
- 二 火工曹長砲工兵監護砲臺看守ヨリ各兵曹長及一等諸工長トナリタル者ニシテ前官ニ於テ一等給ヲ支給シタル者ハ新官ノ一等給ヲ給ス
- 三 一等軍曹同相當官火工一等軍曹ヨリ軍曹同相當官トナリタル者ニシテ前官ニ於テ一等給ヲ支給シタル者及諸工長ヨリ二等諸工長ニ任セラレタル者ハ新官ノ一等給ヲ給シ其他ノ者ハ二等給ヲ給ス
- 四 二等軍曹同相當官火工二等軍曹ヨリ軍曹同相當官ニ任セラレタル者ニシテ前官ニ於テ一等給ヲ支給シタル者及諸工長ヨリ二等諸工長ニ任セラレタル者ハ新官ノ三等給ヲ給シ其他ノ者ハ四等給ヲ給ス

○陸軍部第二十四號

軍馬補充部青野支部ヲ鳥取縣西伯郡庄内村大字富長村ニ移シ軍馬補充部大山支部ト改稱シ又大山派出所ヲ同縣下東伯郡成實村大字出上村ニ移シ軍馬補充部大山支部赤崎派出所ト改稱ス

明治三十二年十一月二十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第二十五號

今般陸軍部第二十四號ヲ以テ軍馬補充部青野支部ヲ大山ニ大山派出所ヲ赤崎ニ移轉候ニ付テハ青野支部長同大山派出所長以下職員ハ該部改稱當日ヨリ別ニ辭令ヲ用井ス大山支部及赤崎派出所ニ於ケル相當職名ニ換稱スル義ト心得ヘシ

明治三十二年十一月二十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第二十六號

明治三十二年經理學校へ入學セシムヘキ監督學生及軍吏學生ノ入學時期ハ十二月十八日ト定ム

明治三十二年十一月二十四日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第二十七號

軍隊内務書中左ノ通改正セララル (改正略ス)

但明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十二年十一月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第二十八號

陸軍各兵科下士上等兵教育教令別冊ノ通定ム (別冊略ス)

但本令下士特別教育ハ來ル明治三十三年ヨリ施行ス

明治三十二年十一月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第二十九號

明治三十一年陸軍部第三號臺灣陸軍補給廠運輸補給規程ニ左ノ一條ヲ加フ

明治三十二年十一月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

附 則

第三十條 韓國ニ補給廠出張所ヲ置カサルトキ若ハ閉鎖中内地韓國間ノ輸送ニ關スル手續ハ補給廠長ノ定ムル所ニ據ル

前項ノ場合ニ於テ韓國内諸港ヲ往來スルモノニ在リテハ所屬部隊ニ於テ之ヲ取扱ヒ其ノ費用ハ當該部隊ノ支辨トス

○陸軍部百三十一號

今般勅令第四百三十八號ヲ以テ陸軍武官進級令中改正相成候ニ付テハ同令附則第二項ニ依リ本年十一月三十日現在ノ憲兵二等軍曹、屯田各兵二等軍曹、教導團並要塞砲兵射擊學校出身ノ各兵二等軍曹及上等兵出身ノ各兵二等軍曹ニシテ入營後三箇年ヲ超過セル者(後備役者ハ現役四箇年ニ滿タサル者ヲ除ク)ハ各兵軍曹ニ、火工二等軍曹ハ砲兵軍曹ニ、三等書記ハ二等計手ニ、諸工下長ハ當該二等工長ニ、二等軍樂手ハ二等樂手ニ、三等看護長、三等調劑手ノ入營後三箇年ヲ超過セル者(後備役者ハ現役四箇年ニ滿タサル者ヲ除ク)ハ二等看護長ニ就レモ別ニ辭令ヲ用井ズ本年十二月一日ヲ以テ各其官ニ任セラレタルモノトス

明治三十二年十一月二十八日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部百三十一號

臨時電信部建築工手採用規則別紙ノ通定

明治三十二年十一月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

(別紙)

臨時電信部建築工手採用規則

- 第一條 臨時電信部建築工手(以下單ニ工)ハ鐵道大隊ニ於テ電信建築術卒業ノ兵卒中志願ニシテ品行方正勤務勉勵技術優等ノ者ヨリ採用ス
- 工手ハ採用ノ際讀法ヲ用ヒ軍屬ト爲ス
- 第二條 工手ハ上官ノ指揮ヲ受ケ専ラ電信建築工事及線路ノ保守ニ從事スルモノトス
- 但シ線路保守ノ都合ニヨリテハ他ノ勤務ニ從事セシムルコトアルヘシ
- 第三條 工手タラムトスルモノハ現役滿期ノ際豫メ鐵道大隊長ニ出願シ尙歸郷ノ後第四條ノ手續ヲ爲スヘシ

ヲ爲スヘシ

- 鐵道大隊長ハ該願書ニ考科表寫ヲ添ヘ軍務局工兵課長ニ移スヘシ
- 第四條 歸郷ノ後工手ヲ志願セムトスルモノハ別紙ノ書式ニ依リ願書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ聯隊區司令官ヲ經テ軍務局工兵課長ニ願出ツヘシ
- 前項ノ志願者ヲ採用セムトスルトキハ軍務局工兵課長ハ辭令書(月日記入ヲ除キタルモノ)ヲ聯隊區司令官ニ送附シ同官ハ月日記入ノ上之ヲ本人ニ傳達ス
- 第五條 工手ハ内地出發ノ際旅行手當トシテ金拾圓並旅費ヲ給ス
- 第六條 前條ノ旅行手當並旅費受領ノ上ハ門司港ニ至リ同地所在ノ臺灣陸軍補給廠字品支廠門司出張所ニ届出乗船ノ指揮ヲ受クヘシ若シ豫定ノ如ク出帆ニ至ラス滞在セシトキハ同出張所ノ證明ヲ受クヘシ
- 第七條 臨時電信部へ到達ノ上ハ出發前受領セシ旅費概算額ニ對シ精算證書ヲ調製シ臨時電信部軍吏ヲ經テ軍務局工兵課ニ差出スヘシ但シ滞在ノ爲メ追給ヲ要スルモノハ其請求書及滞在證明書ヲ差出スヘシ
- 第八條 始メテ工手ニ採用ノ者ニハ被服料金貳拾圓ヲ給ス
- 第九條 病氣其他事故ノ爲メ指定ノ期日ニ出發スルコト能ハサルトキハ地方醫師ノ診斷書若ハ事故ノ生シタル事由ヲ具シタル市町村長ノ證明書ヲ添ヘ尙出發シ得ヘキ期日ヲ豫定シ聯隊區司令部ヲ經テ軍務局工兵課ニ届出ツヘシ
- 第十條 疾病其他ノ事故ニ依リ出發前ニ於テ解備セラレタルモノハ旅行手當旅費及被服料ヲ返納スヘシ若シ本人ニ於テ之ヲ返納セザルトキハ身元引受人ニ於テ辨償スルモノトス但シ居住地出

發後内地港灣出帆前ニ於テ解備セラレタルモノハ手當金及被服料ノ半額ヲ返納スヘシ
前項ノ場合ニ在リテハ日給ヲ支給セス

第十一條 始メテ工手ニ採用スルモノニハ二等給ヲ支給スルヲ例トス然レトモ特ニ技術優等ノモノニハ二等給ヲ支給スルコトアルヘシ

工手ハ滿六箇月ヲ經過スルニ非サレハ昇給スルコトヲ得ス

第十二條 採用及解備ノトキハ發令當日給額増減ノトキハ其命ヲ受ケタル當日ヨリ給シ死亡ノトキハ其當日迄給ス

第十三條 工手ノ日給ハ左ノ三等トシ糧食ハ官給トス但シ滿二年以上勤續シ行狀方正勤務勉勵ニシテ技術優等ノモノニハ特ニ日給金八拾錢迄ヲ支給スルコトアルヘシ

一等 金七拾錢

二等 金六拾錢

三等 金五拾錢

第十四條 工手ハ左表ノ被服ヲ著裝スヘシ但シ上衣及外套ノ右肩下部ニ徽章ヲ附スヘシ

名	稱	品質	製式
帽	(前章兵隊製ニシテ圓形内ニ(電)一字ヲ圍ク圓徑一寸トス)	紺(黒)絨 兵卒第二種帽形	
日	襪(夏期)	白布	
上	衣	紺(黒)絨夏期襪ナ白色 セビロ形	
胸	衣	紺(黒)絨 腹掛(紺木綿)ヲ代用スルモ妨ケナシ	

股	引	紺木綿
外	套	頭巾付兵卒外套形
靴		足袋(紺色)草鞋ヲ代用スルモ妨ケナシ
備	考	
一	下着類ハ各自ノ隨意トス	
二	履具ハ現品ヲ貸與ス	
三	帽ノ前章ハ臨時電信部ニ備置キ貸付スルモノトス	
四	徽章別紙雛形ノ通	

第十五條 工手ノ旅費及糧食ハ總テ兵卒ノ額ニ據ル

第十六條 工手ハ滿二箇年ヲ經過セサレハ自己ノ事情ヲ以テ猥リニ歸省及解備ヲ出願スルコトヲ得ス

第十七條 臨時電信部提理ハ工手ニシテ技術熟達勤務精勵並自己ノ危難ヲ顧ミス拔群ノ勞働ヲ爲シタルモノニハ軍務局長ノ認可ヲ經テ賞與金ヲ給スルコトヲ得

第十八條 傷痍疾病ニ罹リ職ニ就カサルモノニシテ公務ニ基因スルモノハ日給全額其ノ他ノモノハ半額ヲ給シ治療費ハ官給トス但シ自己ノ不注意不攝生及喧嘩爭鬪等ニ起因スルモノハ日給半額以上ヲ減シ若ハ之ヲ支給セス

第十九條 傷痍疾病ノ爲メ内地へ航送ノ患者取扱ニ關シテハ明治三十二年陸達第二十三號ノ規定ヲ準用ス

第二十條 工手ヲ解備セムトスルトキハ臨時電信部提理ハ其ノ理由及代人ノ要否ヲ具シ豫メ軍務局工兵課長ニ協議スルモノトス

前項ニ依リ解備スルモノノ辭令書(月日記入ヲ除)ハ軍務局工兵課長ヨリ臨時電信部提理ニ送付

シ同官ハ月日記入ノ上之ヲ本人ニ交付シ其ノ月日ヲ軍務局工兵課長ニ通報スヘシ
第二十一條 臨時電信部提理ハ工手中不都合ノ所爲アルモノハ其期日間日給ヲ減シ若ハ之ヲ停止
スルコトヲ得

前項ノ所爲重キモノニシテ直ニ解備ヲ要スルトキハ臨時電信部提理之ヲ執行シ其ノ理由及月日
ヲ軍務局工兵課長ニ通報スヘシ
前項ニ依リ解備セラレタルモノニハ歸國ノ旅費ヲ支給セス但シ仁川門司間ハ官費ヲ以テ乗船セ
シム

附則

現今使役シアル建築工事ニハ本則ヲ適用セス
(書式)

臨時電信部電信建築工事志願書

電信建築工事志願ニ付御採用被成下度然ル上ハ御規則ハ勿論御命令ヲ遵奉シ職務勉勵可仕依ツテ別紙身元引受證書竝戸籍謄本
相添奉願候也

明治 年 月 日

府(縣)國郡(市)區(町)村(番地)

姓 名 印

軍務局工兵課長 姓 名 殿

身元引受證

本籍 府(縣)國郡(市)區(町)村(番地)
寄留 府(縣)國郡(市)區(町)村(番地) (何某方同居 寄留)

華(士)族(平民)

姓 名

年 月 日 生

右之者臨時電信部電信建築工事志願ニ付御採用被成下候上ハ本人ニ關スル一切ノ事件私ニ於テ引受可申候也
府(縣)國郡(市)區(町)村(番地)
華(士)族(平民)

年 月 日

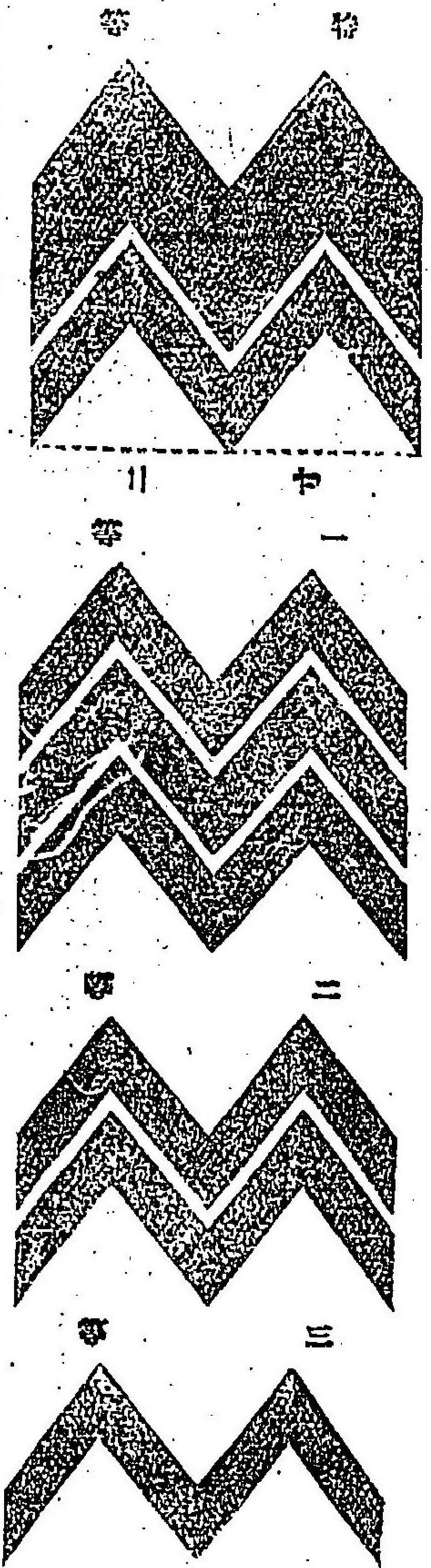
軍務局工兵課長 姓 名 殿

姓 名 印

(雛形)

徽章

線 質 緋
線 幅 大 四分五
線ノ間隔 小 二分
分



○陸軍部第三十二號

陸軍武官進級取扱規則中左ノ通改正セララル

明治三十二年十一月 陸軍省陸軍部第三十二號

但本則ハ本年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十二年十一月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第一條第四項ヲ左ノ通改正ス

曹長ヲ特務曹長ニ補除スルハ各隊、砲工兵曹長及砲兵一等諸工長ヲ砲工兵上等工長ニ一等樂手ヲ樂長補ニ補除スルハ各兵科及軍樂部但學校附營内居住ノ曹長ヲ特務曹長ニ補除スルハ原所屬聯(大)隊トス

第二條中「二等軍曹」ヲ「伍長」ニ「一等軍曹」ヲ「軍曹」ニ改ム

第五條中「二等軍樂長」ヲ「樂長補」ニ改ム

拔擢名簿乙號離形中「一等軍曹」ヲ「軍曹」ニ「二等軍曹」ヲ「伍長」ニ改ム

〔參照〕

陸軍第九十五號陸軍武官進級取扱規則(明治三十年八月三日)抄録

第一條第四項

下士ヲ准士官ニ補除スルハ各兵科各部毎ニ各隊又ハ各所管(砲工兵上等)各兵科

○陸軍部第三十三號

計手缺員ニ際シ當分ノ内各兵科隊附下士中入隊後六箇年以上現役ニ服シ計手志願ノ者ヲシテ該事務ニ服セシムルコトヲ得

明治三十二年十一月二十九日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第三十四號

隊附現役下士、現役兵卒中陸軍服役條例第五十三條同第九十四條ニ依リ營外ニ居住又ハ外泊セシム

ハキ人員左ノ通定メ明治三十二年十一月二日ヨリ施行シ明治二十九年陸軍部第六號達ヲ廢ス
明治三十二年十一月二十日 陸軍大臣子爵桂 太郎

- 一 一等諸工長及二等看護長ハ總テ營外ニ居住セシム
- 二 二等諸工長及二等看護長ハ左ノ比例ニ依リ營外ニ居住セシム但シ端數ヲ生スル場合ニ在テハ其ノ端數ハ之ヲ上半數中ニ加ヘ又現員ノ減少ニ依リ營外居住者上半數ヲ超ユルモ一旦營外居住ヲ許シタル者ハ營内ニ復セシムルコトナシ
- 二等 砲工長ハ各官ヲ通シ所管内現員ノ上半數
- 二等 砲工長ハ各官ヲ通シ所管内現員ノ上半數
- 二等看護長、二等蹄鐵工長ハ各官毎ニ所管内現員ノ上半數
- 三 警備隊下士及同隊兵卒中外泊セシムハキ人員ハ師團長ノ定ムル所ニ依ル
- 四 對馬警備隊附下士ニシテ從來營外ニ居住セシメ在ル者ハ現役滿期ニ至ル迄之ヲ繼續セシム
- 五 臺灣憲兵隊附蹄鐵工長及看護長ハ營外ニ居住セシム

〔參照〕

明治二十九年六月十日 陸軍部第六號ハ特務曹長以下外泊又ハ營外居住ニ係ル取扱方ノ件ナリ

○陸軍部第三十五號

明治三十一年六月陸軍部第六十二號陸軍報告例中別紙ノ通改ム (別紙略ス)

明治三十二年十一月三十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

○陸軍部第三十六號

屯田兵給與令細則申左ノ通改正シ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十二年十一月三十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第十三條 被服保續料ハ召集日數 召集當日ヨリニ對スル定額ヲ該隊ニ交付シ貯藏品ヲ以テ所要ノ被服ヲ應用セシム

○陸軍部百三十七號

明治三十二年陸軍部百三十六號第一項中「通譯加俸」ノ四字ヲ削リ第三項中「トス」ヲ「トシ」ニ改メ其ノ下ニ認識票ハ備附ヲ爲サス派遣ノ際携行スルモノトスヲ及附表中「將校同相當官ノ下ニ准士官」ノ三字ヲ加ヘ「特務曹長」ノ四字ヲ削リ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十二年十一月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

〔參照〕

明治三十二年七月陸軍部百三十六號ハ韓國駐節陸軍部隊ノ給與ニ關スル件ナリ

○陸軍部百三十八號

陸軍給與令細則中左ノ通改正シ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十二年十一月二十日

陸軍大臣子爵桂 太郎

第六條第一ノ中「教導團長」及「教導團」ヲ削リ第四ノ中「一、二等軍樂長、砲工兵上等監護」ヲ「樂長、樂長補、上等工長」ニ改メ左ノ一號ヲ加フ

五 在職特務曹長ハ戊額ニ依ル

第七條中「職務増俸」ノ割註ヲ削ル

第九條第二項ヲ削ル

第十八條中「滿七箇年又ハ滿十箇年」ヲ「滿四箇年、滿六箇年又ハ滿八箇年」ニ「在營加俸」ヲ「在隊加俸」

ニ改ム

第十九條 本令第八條第六ノ中樂手、樂手補ノ技術加俸ハ下士兵卒ヲ通シ其ノ技術ノ優劣ニ應シ

一等乃至六等ノ額ヲ給ス但シ技術退步セシ者ニ在テハ等級ヲ下メシ又ハ給與ヲ止ムルコトアルヘシ

前項加俸ノ等級ヲ定メ又ハ等級ヲ下シ若ハ給與ヲ止ムルハ軍樂學校ニ在テハ戶山學校長軍樂隊ニ在テハ師團長ノ認可ヲ經テ校長若ハ隊長之ヲ施行ス

第二十條 本令第八條第七ノ通譯加俸ハ下士上等兵ヲ通シ其ノ技能ニ應シ左ノ區分ニ依リ支給ス但シ臺灣ノ土語ハ外國語ニ準ス

一等額 外國ノ語ニ精通スル者

二等額 外國ノ語ニ通スル者

三等額 外國語ノ日常對話ニ熟練ノ者

四等額 外國語ノ日常對話ニ差支ナキ者

五等額 外國語ノ日常對話ニ稍通スル者

通譯加俸ヲ給スヘキ者ハ憲兵隊長之ヲ撰拔シ前項等級ニ該當スヘキ技能檢按書ヲ作リ憲兵司令官ハ臨時憲兵隊ニ在テハ臨時憲兵部提理ノ認可ヲ經テ通譯ヲ命スヘシ但シ臺灣ノ土語ノ通譯ヲ命スルハ當該憲兵隊長之ヲ專行シ憲兵司令官ニ報告スヘシ

通譯加俸ハ通譯ヲ命シタル翌日ヨリ之ヲ免シタル前日又ハ他ノ憲兵隊附ヲ命シタル前日 死亡ノ

日ノ當 迄之ヲ給ス其ノ日割計算ノ法ハ俸給ニ同シ

第三十三條中職務増俸モ亦同シヲ削ル